



令和6年度

年報

第39号

福島県立博物館

ごあいさつ

『博物館は、文化の力でひとりひとりの豊かな生き方が育まれていく場所となります。』

これは、令和6年度から当館が掲げているビジョン（めざす姿）であり、近年、博物館に求められる役割が多様化、高度化する中、地域の社会課題にも向き合いながら、誰にでも開かれた博物館を目指していくという決意を込めたものです。

令和6年度は、ビジョン実現に取り組む最初の年でしたが、残念ながら、総合展示室を観覧休止した状況でのスタートとなり、さらに令和6年12月からの4か月間は、改修等工事のために休館せざるを得ませんでした。この間、学校団体をはじめ利用者の皆さまには何かとご不便をおかけし、改めてお詫び申し上げます。

厳しい1年となりましたが、その中でも、季節ごとの企画展を3回、その他にテーマ展やポイント展を開催するなど、博物館の基本的活動の一つである資料展示にしっかり取り組むとともに、講演会や学習プログラム等の多彩なイベントも継続的に実施しました。また、総合展示室休止の間、少しでも楽しんでいただきたいとの思いから、小規模ながら「さわれる・けんぱく」をエントランスホールで開催したほか、休館中には、県内の博物館等と連携しながら、アウトリーチ事業を精力的に展開しました。

文化観光推進に関しては、若松城三の丸跡に立地する当館を拠点とした「三の丸からプロジェクト」の一環として、戊辰戦争前の若松城下を再現したジオラマ「あいづスタジアム」を令和6年4月から公開し、プロジェクションマッピングを用いた解説により、会津の歴史を分かりやすく学ぶことができると好評を得ています。

こうした活動の積み重ねにより、常設展及び企画展の入館者数は前年度を若干下回ったものの、館内外での各種イベントを含めた全体利用者数は、大変ありがたいことに増加するという結果になりました。休館等の事態に直面する中、個々の職員が「利用者のために自分たちができることは何か」を考え、行動につなげてくれたおかげでもあります。そして何よりも、「博物館とは何か」を常に問い直す機会にもなり、総合博物館として今後もシンカ（進化・深化・新化）し続けるうえで、大きな財産となっています。

学び多き1年を経て、令和7年4月から全館再開しましたが、施設の長期保全計画や収蔵庫問題など、まだまだ解決すべき課題を抱えています。これらの課題に向き合いながら、そして地域に根差しながら、皆さまにより愛される博物館となれるように、これからも職員一丸となって挑戦を続けていきたいと思いをします。

令和7年9月

福島県立博物館長 松山 政行

トピックス

佳子内親王殿下お成り

令和6年8月11日(日)、秋篠宮家の次女佳子さまが福島県立博物館をご訪問された。「分野別展示室(民俗)」と「あいづスタジアム」を観覧され、当館学芸員の解説に耳を傾けられた。



ご観覧の様子



解説をお聞きになる様子

あいづスタジアム公開

令和6年4月13日(土)、幕末の若松城下を再現したジオラマ「あいづスタジアム」が公開された。プロジェクションマッピングやタッチパネルを用いた解説が導入された。



あいづスタジアム全景



ジオラマの様子

目 次

ごあいさつ

トピックス

目次

福島県立博物館ビジョンの設定について	1
福島県立博物館第4期中期目標	3
総合展示室の閉室及び臨時休館	5
I 事業の概要	6
1. 資料収集事業	6
(1) 収集展示委員会	6
(2) 受贈・受託	6
(3) 購入	7
(4) 移管	7
(5) 制作	7
2. 保存管理事業	8
(1) 資料の収蔵	8
(2) 登録・整理	9
(3) 貸出	11
(4) 保存	11
3. 展示事業	12
(1) 常設展示	12
(2) 企画展示	13
(3) 博物館資料展示活用アウトリーチ事業	20
(4) 指定文化財の公開	20
(5) 展示解説	21
4. 調査研究事業	22
(1) 展示資料調査研究	22
(2) その他の調査研究事業	24
(3) 職員の研究活動	24
5. 教育普及事業	28
(1) 講座・講演会	28
(2) 博物館の新しい風景創造事業	32
(3) 学校・文化施設等との連携	32
(4) 生涯学習・研究支援	39
(5) 動画の作成と配信	41
(6) 博物館友の会活動への支援	41
6. 広報公聴活動および出版事業	43
(1) 広報活動	43
(2) 公聴活動	46
(3) 出版事業	46
7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」	47
(1) 事業の概要	47
(2) 事業内容	47

8. 地域連携とネットワークの拠点	49
(1) 福島県博物館連絡協議会	49
(2) 磐梯山ジオパーク協議会	49
(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	49
(4) 福島藝術計画	50
(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	51
(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	51
(7) 会津地域における文化芸術による地域振興連携協定	52
9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	53
10. 新たな博物館の役割・機能の創出	54
(1) 文化財・自然資料レスキュー	54
(2) ポリフォニックミュージアム	54
II 管理運営	55
1. 組織・職員	55
2. 予算	56
3. 運営協議会の開催	57
(1) 福島県立博物館運営協議会	57
III 利用状況	58
1. 入館者統計	58
(1) 令和6年度入館者統計	58
(2) 入館者の推移	59
(3) 企画展入館者統計	61
2. 出版物販売	64
IV 法規	66
福島県立博物館条例	66
福島県立博物館運営協議会条例	67
福島県立博物館条例施行規則	68
福島県立博物館組織規則	71
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	72
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	72
福島県立博物館資料所在調査要領	73
福島県立博物館資料調査員設置要綱	73
福島県立博物館友の会規約	74
V 施設の概要	76
1. 建築概要	76
2. 設備	76
3. 平面図・各室一覧	77
4. 施設の修理・改築	79
5. 沿革	80
VI 利用案内	82

福島県立博物館ビジョンの設定について

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。

開館から約40年が経過し、その間博物館をとりまく社会が変化し、博物館に求められる役割も大きく変化してきました。福島県立博物館は、第7次福島県総合教育計画が掲げる「個人と社会のWell-being（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）」の実現に取り組むため、研究・収集・保存・展示・教育普及といった博物館の基本的役割を土台として、令和4年に改正された博物館法（＊1）や第26回 ICOM（国際博物館会議）大会（令和4年開催）（＊2）によって示された博物館の新たな役割を担っていきます。みなさんと共に地域の社会課題に向き合い、誰にでも開かれた博物館を目指すために、新たにビジョンを設定します。

ビジョン設定に伴い、これまでの福島県立博物館の使命（ミッション）を見直すとともに、ビジョンとミッションに基づいた行動指針としてバリューを定め、社会の変化に対応して持続的で未来志向の取り組みを目指します。

（＊1）令和4年改正博物館法の要約

- 博物館法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の本質に基づき、文化芸術の振興を図ることを定める。【第1条】
- 博物館の事業に博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務とする。【第3条】

（＊2）ICOM日本委員会による新しい博物館定義の日本語確定訳文

“博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、楽しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。”

■ビジョン：福島県立博物館がめざす姿

博物館は、文化の力でひとりひとりの豊かな生き方が育まれていく場となります。

※ここでは、文化の力とは「関心を持ち、調べ、発見し、楽しみ、伝えること」と定義します。

博物館は、さまざまな関心を持つ人々の居場所となり、人々が出会う場（広場）となります（＝土壌）。誰にでも開かれた博物館活動を通して（＝種をまき）、地域の文化や歴史、自然に楽しみながら関心を持つ仲間を増やします（＝木が育ち）。

文化の力を糧とし、ひとりひとりが豊かになり、またひとりひとりが結びつきあい、広がっていきます（＝森となる）。

■ ミッション：ビジョン実現に向けた福島県立博物館としての使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、ビジョンの実現に向け、こうしたユニークで多様な歴史、文化、自然を背景に、その価値を発見・共有し、共に地域文化を創造することで、ひとりひとりの豊かな生き方に資するため、以下のミッションを掲げます。

ふくしま発見 博物館

博物館は福島県の地域資料の収集・調査・研究を進め、その成果を広く発信します。皆さまと共に地域の歴史や文化、自然について学び、その価値を発見することで、文化の力を育みます。

出会いふれあう 博物館

博物館はすべての人に開かれ、皆さまが多様な人々や価値観と出会う場となります。出会いを通して、人と人との自由な交流や対話、新たな関心や主体的な学びを創出します。

あしたを拓く 博物館

博物館はひとりひとりの知りたい、学びたい気持ちに向き合うとともに、皆さまと協働し共にあしたを拓くパートナーとなります。互いの問題意識や課題を共有し文化の力でその解決に取り組みます。

■ バリュー：ビジョン実現に向け、ミッションに基づき取り組む4つの行動指針

1. 地域の文化に関する幅広い知識・資料の集積と発信
2. 社会変化に対応し、博物館機能を広げ深めるための活動の推進
3. 誰もが生涯学び続けることのできる機会の提供
4. 地域の多様な主体との連携・協働の推進による文化力の向上

福島県立博物館 第4期中期目標 令和6(2024)～令和10(2028)年度

福島県立博物館では、その使命を果たすため、活動方針に沿った重点目標を設定し、5年計画での「福島県立博物館中期目標」を策定している。これまでも第1期中期目標(平成21～25年度)、第2期中期目標(平成26～30年度)、第3期中期目標(令和元～5年度)が策定され、具体的な活動計画

および年度終了後の実績・自己評価をまとめるとともに、年報やホームページで公開している。

令和6年度は当館の使命と活動方針を見直し、新たにビジョン・ミッション・バリューを設定。これにもとづいた第4期中期目標の1年目として事業を実施した。

ア. 中期目標

ビジョン 博物館は、文化の力でひとりひとりの豊かな生き方が育まれていく場となります。
中期目標 (令和6(2024)～令和10(2028)年度)

バリュー	基本施策（バリューの4つの行動指針において取り組むべき項目）	活動基盤（基本施策の土台となる具体的な博物館活動）	中期目標（活動基盤のうち、特に次の5年間で取り組み達成したい目標）	令和6年度事業	令和6年度事業成果
1 地域の文化に関する幅広い知識・資料の集積と発信	(1)学芸員の調査研究による資料価値の発信	- 調査研究 - 展示 - 講座、イベント - 紀要 - 大学等と連携した資料研究 - 博物館資料展示活用アウトリーチ事業の展開	学芸員個々の専門性を発揮して調査研究を行い、導かれた研究の成果や資料の新たな価値について多様な機会や媒体によって広く発信する。とくに県民をはじめとする市民一般に向けて資料や研究成果の理解につながる効果的な展示を実践し、検証を繰り返しながら新たな博物館展示構想を具体化する。	①個々の研究テーマの把握（と発信）。 ②博物館資源を展示やイベントに活かすための分野を横断した企画構想会議を実施する。 ③効果的展示の実践に取り組む。 ④展示・イベント評価（※1）の仕組みを検討する。	①各学芸員の研究テーマの把握を行った。 ②試行を通して、企画展の魅力向上のための企画構想会議の枠組みを作った。 ③総合展示室「自然と人間」について、これまでの資料収集や研究成果を反映した現代史展示を作った。 ④さわれるけんぱくの実施によりハンズオン展示の経験蓄積と視覚障害のある方へのニーズ確認ができた。 ⑤様々な団体との情報共有を通じて、企画展と連動した学芸員の専門性を活かした連携事業を行った。 ⑥展示評価に関するワークショップを学芸員課程を学ぶ大学生と試行した。
	(2)専門的視点にもとづく資料の適切な収集活動と保管	- 資料の適切な収集と保管 - 収蔵庫改善 - 展示収蔵環境の調査管理 - 施設の適切な管理運営 - 資料整理 - データベースへの登録と公開	収蔵庫問題の現状分析に基づき、収蔵状況の改善を進めつつ、持続的な資料収集・保管のための指針を策定する。あわせて施設整備を含めた長期的課題について有識者委員会や本庁等と連携し課題を広く共有する。	①収蔵庫の現状分析に基づき、より効率的な収蔵方法を検討し試行する。 ②各分野の収集方針を共有し、持続的な資料収集・保管のための指針の整備に着手する。	①第4収蔵庫の収蔵率の算出作業を実施した。 ②効率的な収蔵方法の土台となる「資料整理メモ」を作成し共有した。 ③収蔵庫問題ワーキンググループを継続し、議論を深めた。 ④収集方針の整備に着手した（既存の規定等の再確認と他館指針の情報収集）。 ⑤一時収蔵庫の環境改善および館内の集中清掃により、文化財IPMを強化した。
	(3)博物館活動の意義の発信と共有	- 発信力の向上、広報戦略 - 広報物の発行 - 普及活動を通じた発信と共有 - 博物館資料展示アウトリーチ事業による発信	博物館のビジョン・ミッション・バリューを発信するとともに、博物館でできることを「みんな」で考える場をつくり、博物館の意義や課題等を広く共有する。	①発信メディア・内容を編集・活用し多面的・多角的な博物館活動を伝える。 ②博物館活動の意義を伝えるバックヤードツアー、職場体験等をブラッシュアップし、「みんな」で考える場としていく。	①ビジョン・ミッション・バリューを公開した。 ②なじみなどを活用して一般の目に触れにくい博物館活動、学芸員の仕事を紹介した。 ③新規メディアの活用として、福島県教育委員会noteに学校向けプログラムの成果を発信した。 ④バックヤードツアーや職場体験のプログラムにキャリア教育的な視点を加えるとともに、収蔵庫課題をはじめとする博物館課題について伝え、一緒に考える内容を加えた。
2 社会変化に対応し、博物館機能を広げ深めるための活動の推進	(4)専門機関、団体とのネットワーク形成・連携	- 大学、企業、ミュージアム、専門機関、団体との連携や共同研究 - ミュージアムグッズの開発 - 他団体との連携による博物館資料展示アウトリーチ事業の実施 - 県博協活動の充実	大学等と博物館双方の機能を広げ深めるための共同研究や教育実践を行い、その成果を博物館の展示や設備、学習プログラム等に活用する。	①会津大学（短大含む）とのこれまでの連携を基盤に、さらに連携を強化する。 ②会津大学（短大含む）との協働体制を整備する。	①会津大学へ研究フィールドを提供し、収集データを共有した。 ②アーティスト・専門家等のプロフェッショナルの知見を学生に伝える機会を設けた。 ③今後の連携可能性のひとつの試みとして、会津大学短期大学部でこどもミニ博物館を開催した。 ④会津大学短期大学部地域活性化センターとこれまでの連携の振り返りと共有を行い、今後のあり方について協議した。

2 社会変化に対応し、博物館機能を広げ深めるための活動の推進	(5)学芸員、連携協働者の知見向上	・研修の企画、運営、参加 ・学習プログラム等における実践 ・学会等への参加 ・県博協の運用	新たに求められる博物館の社会的な役割に対応するための研修や実践を連携協働者と共に継続的に行い、研修等の成果を博物館の展示や設備、学習プログラム等に活用する。	①新たな博物館の役割、これから必要と推測される課題の解決に向けた研修と実践を試行する。 ②実施成果を評価する指標（※2）について検討する。	①障がい者対応研修を実施し、検証を行った。 ①子どもの居場所づくりワークショップを開催。その成果を事業に還元することができた。 ①ワークショップ運営に必要なファシリテーション能力を向上させるための研修に参加した。 ①広報関連業務に関する研修を実施した。
3 誰もが生涯学び続けることのできる機会の提供	(6)利用者に応じた学びのプログラムの充実	・ゲストティーチャー／講師派遣への対応 ・未就学児向け、障がい者向けプログラムを含む学習プログラムの充実 ・社会的包摂に向けた取り組み ・福島芸術計画 ・多言語化対応	年齢や国籍、障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に利用できる博物館を目指し、利用者のニーズに合わせたプログラム・活動を開発し、実践する。	①未就学児プログラム、支援学校プログラムの継続による内容の深化。 ②これまで行ってきた高校生や高齢者、在留外国人等とのプログラム・活動の成果を検証、継続する。	①未就学児プログラム、支援学校プログラムに複数の分野が関わり回数を重ねることで、互いの理解が深まり、学習内容が充実した。通常プログラム化に向けた基盤ができた。 ②ロボットを活用した遠隔観覧を継続的に実施し、ノウハウを蓄積した。 ②既存の学習プログラムの更新を行った。
	(7)学びにつけるための仕組みづくり	・収蔵図書の公開と活用 ・レファレンス対応 ・友の会／サークル活動の支援 ・資料整理ボランティア制度 ・観覧料、観覧優待の検討 ・多言語化対応	図書利用、レファレンス機能、サークル活動等を充実するとともに、観覧料や観覧優待の見直しを検討するなど、学びたい人が学びにつけることができる仕組みをつくり、利用者の満足度が高い状態をめざす。	図書利用や観覧優待、友の会／サークルについて利用者の意見を収集し、運用方法について検討する。	・館蔵図書のコピーサービス実施体制の整備ができた。 ・未登録図書300件超の新規登録 ・友の会への参加意義に関して会員へのアンケートを実施した。
4 地域の多様な主体との連携・協働の推進による文化力の向上	(8)文化や博物館活動に関わる団体・個人の活躍機会の拡充とパートナーシップの構築	・各団体、個人との協働による「みんなで作るイベント」／学習プログラム／体験プログラムの運営	学習プログラムや体験プログラム、「みんなで作るイベント」等を、各団体や個人との協働により双方主体的な活動として運営する。	①協働による事業運営を通して各団体・個人に適したパートナーシップ体制を検討する。 ②パートナー制度（※3）を整備する。	①みんなで作るイベント協働団体、体験型プログラム講師と振り返りを行い、パートナーシップ体制について意見交換を行った。 ②意見を反映し、パートナー制度を新設した。
	(9)地域の社会課題の共有と文化の力による解決への取り組み	・調査研究 ・文化財レスキュー ・博物館資料展示アウトリーチ事業の活用 ・学芸員の専門性を社会に還元する ・文化観光の推進	文化観光をはじめ地域の課題に向き合い、地域と博物館、大学等さまざまな主体との協働により、地域の人々が自身の地域の文化を知り、守り、伝え、活用する取組を行う。	地域との協働事業試行に向け、関係者での情報共有、課題共有を行う。	・文化観光事業の自走化に向け、（一社）会津地域文化芸術フォーラムと連携協定を締結した。 ・文化観光事業に参加した地域の様々な主体と、文化継承に関する課題を共有した。 ・企画展や文化財調査によって、地域の文化財の現状把握や掘り起こしを行い、価値の再認識につなげた。 ・子どもの居場所づくりを行っている団体との情報共有を行った。 ・社会教育推進全国協議会に参加し、社会課題に対する博物館の取り組み、今後の可能性について共有した。 ・猪苗代町社会福祉協議会とともに、防災教育を手法とした地域づくりを行った。
※1 展示・イベント評価：展示・イベント等によって伝えなかったことが来場者にどのように伝わっているかを指標とする評価方法。 ※2 実施成果を評価する指標：研修の開催回数等ではなく、参加者にとってどのように有意義であったか、どのように具体的な内容に落とし込めるものであるかを測れるもの。 ※3 連携協働者の公募・登録制度：各種イベントや学習プログラム、滞在型体験プログラムを博物館とともに企画運営する団体・個人を公募・登録する制度。					

イ. 令和6年度の進捗状況について

今年度はこれまでの取り組みを整理するとともに、今後を見据えた博物館のビジョンに向けた新たな出発点となった。そのため、単年度事業としては着実な実績を積み重ねつつ、同時に今後に向けての中長期的な課題を確認することもできた。これにより、第4期中期目標達成のための道筋が明確になった。

一方で事業の進捗にあたっては、従来とは異なる班・分野をまたいだ事業展開を意識したため、全体での情報共有の重要さと進捗管理の難しさに直面することとなった。こうした点については修正を行い、次年度以降の円滑な事業運営につなげていく。

総合展示室の閉室及び臨時休館

(1) 総合展示室の閉室

ア. 閉室に至った経緯と対応

令和6年2月の館内設備定期点検で生じた総合展示室の天井付近にある排煙窓が閉じなくなる不具合は建築基準法の規定に不適合であるため、令和6年2月22日より総合展示室を閉室、観覧休止とした。これを受けて今年度は、既存の排煙窓を撤去して新たに電動開閉式のアルミサッシ製の排煙窓を設置する工事を令和6年7月から令和7年2月まで実施し、完了した。

イ. 総合展示室の観覧休止の影響と対応

当館の総合展示室は、原始から現代までの福島県の歴史や人々の暮らしを紹介する資料を数多く展示している。観覧休止によって、当館の主要な展示目的が達成できなくなり、特に学校教育活動に大きな影響を与えてしまった。

総合展示室は、例年、会津地域をはじめ、県内外の多くの小中学校などに教育旅行や授業で利用いただいていたので、学校からの問い合わせの際に事情を説明し、御理解いただいたうえで総合展示室以外の展示観覧を勧めることとした。

総合展示室以外の展示室は観覧可能なので、観覧休止の間に購入いただいた常設展チケットの半券は、観覧再開後に再度利用いただける対応を取った。

なお閉室に伴い、総合展示室のエッセンスを伝えるハンズオンの資料展示「さわれる・けんぱく」をエントランスホールにて開催した。

(2) 臨時休館

これまで多くの利用者から要望が寄せられていたトイレ改修工事を令和6年10月から令和7年3月まで実施し、ブースの洋式化のほか、人感センサー付照明と自動水栓手洗いの設置、車椅子利用者が利用できるトイレの増設、床の段差解消を実現した。令和6年12月からは全館休館の臨時措置となり、全館観覧再開の時期は、令和7年4月1日からとした。

また全館観覧再開に向け、以下の取り組み等を行った。

ア. 総合展示室「自然と人間」の展示替え

昭和時代の高度経済成長期から東日本大震災までの福島県を紹介する展示とし、これまで展示機会が限られていた東日本大震災の資料（震災遺産）を常設展で観覧できるようにした。

イ. 展示観覧サポートシステム「けんぱくん」の導入

観覧者が自身のスマートフォンやタブレットでQRコードを読み込むと、展示品の解説を見ることができるようにした。一部の解説は、多言語対応となっており、360度全方向から鑑賞できる3D画像も閲覧できる。

ウ. さわれる展示の充実

視覚障がい者にも展示を楽しんでいただけるよう、触って形や素材を確かめることができるレプリカ資料や点字カードを作成した。

エ. 博物館と鶴ヶ城の移動が楽しくなるサインの設置

博物館と鶴ヶ城を結ぶ経路上に、史跡を解説するサインを設置し、サインの解説を見ながら、史跡散策を楽しめるようにした。

オ. 子育て応援駐車場の整備

妊娠中や子育て中の方に安心して来館いただけるよう、子育て応援駐車場（3台分）を整備した。

カ. 解説員研修

文化観光現地研修として学芸員が解説員を引率して武家文化を学ぶ研修（鶴ヶ城や戊辰戦争戦跡）や商工文化を学ぶ研修（会津木綿、会津漆器、会津本郷焼、俵引き）、奥会津のものづくり（編み組み製品・からむし織）を学ぶ研修を実施した。その他に各分野の資料整理作業の実地研修やコミュニケーション研修を行った。

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての
審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委 員 長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	委 員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委 員
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	委 員
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	委 員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委 員
角屋由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	委 員
玉川 一郎	前福島県考古学会長	委 員
原田 一敏	ふくやま美術館長	委 員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委 員
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	委 員

イ. 会 議

令和6年度は前年度に引き続き、対面開催・オンライン開催を組み合わせた開催方法とした。

開催日 令和6年7月24日(水)

議題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 令和7年度・令和8年度開催予定企画展等について
- ③ 購入予定資料について
- ④ 美術品等取得基金の現状と購入希望資料について

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受 贈

写真 ほか 5件 個人
会津暦（嘉永2年） 1件 個人
日の丸寄せ書き 2件 個人

川瀨治馬・半井清書状五十島村吉宛 ほか 3件 個人
岩越鉄道株式会社創立につき通知・株式申込手続書 ほか 9件 個人
図書 1件 個人
大庭恭平（松斎）書9幅 1件 個人
刀（表銘）日向守源正行（裏銘）七十六才作 ほか 2件 個人
海軍少将鹿岡圓平関係写真・書簡・掛け軸等一括 ほか 5件 個人
写真アルバム（アジア太平洋戦争・関東大震災関係） 1件 個人
明治二十年脱落地編入及税納願 1件 個人

福島県絵葉書一括 ほか 2件 個人
陸軍外套 1件 個人
南摩綱紀 漢詩書「蕭颯西風吹髮毛」 1件 個人
酒類製造者名簿 ほか 5件 個人
関東軍司令官布告 1件 個人
磐梯山噴火記 ほか 6件 個人

(イ) 受 託

海軍大尉鹿岡圓平「日記」 3件 個人
岩倉具視書簡 兵部卿宮宛 1件 個人
軍帽 ほか 3件 個人

イ. 美術資料

(ア) 受 贈

勝田蕉琴筆「農村新年図」 ほか 26件 個人
鐔 6件 個人
熊坂適山筆「春秋山水図」双幅 1件 個人
宮城高陽「山水図」1幅 ほか 2件 個人
相馬焼花瓶 1件 個人
佐竹永海筆「富士図」 1件 個人
脇差 銘（表）三善長道（裏）天保四年春 1件 個人

高砂蒔絵五重大盃

1件 会津若松まちづくり株式会社
田島萬古焼急須 ほか 2件 個人

(イ) 受 託

永峰伊水「牡丹孔雀図」 ほか 3件 個人
小池アミイゴ画「晩秋の柳津」 ほか 27件 個人

脇差 銘（表）備州長船康（裏）應永廿三年
十月 1件 個人
刀 銘（表）陸奥大掾三善長道（裏）上鍛
ほか 6件 個人
蓬萊山松竹梅鶴亀蒔絵組盃 ほか

2件 会津塗技術保存会

刀 銘（表）備中水田住国重 ほか 2件 個人
谷文晁筆 釈迦十六善神像 1件 個人
刀 銘 無ほか 3件 個人
長谷川雪堤筆「酒字図」 1件 個人
永峯伊水「秋景山水図」 ほか 4件 個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受 贈

再現製作根子町人形「鯛乗り恵比寿」 ほか 4件 個人
葬式用衣装 ほか 5件 個人
電気炊飯器 ほか 3件 個人
荷背負い蓑（ニショイミノ） 1件 個人
子ども用の着物 ほか 6件 個人
山崎巻物 1件 個人
万石 ほか 15件 個人
『会津土産』（複製） ほか 7件 個人
掻い巻きほか 5件 個人
真空管テレビ 1件 個人
半切桶 ほか 59件 個人
行器 ほか 10件 個人

エ. 考古資料

(ア) 受 贈

土器一括 1件 個人

オ. 自然資料

(ア) 受 贈

川俣町水晶山産鉱物 1件 個人
ハナワクジラの耳の骨レプリカ 1件 白河実業高等学校
卵殻 ほか 2件 東北サファリパーク
久之浜町サメの歯 ほか 2件 個人
学術雑誌 1件 個人

(3) 購 入

ア. 自然資料

恐竜レプリカ 1件
貝形虫 2件
現生鳥類の卵 1件
耳模型 1件

イ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野 1 冊、歴史分野26冊、
民俗分野 1 冊、美術分野 2 冊、
自然分野 1 冊、計31冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト

(令和7年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考 古
2	宗教研究	民 俗
3	民具研究	民 俗
4	ナショナルジオグラフィック	共 通
5	ヒストリア	歴 史
6	考古学雑誌	考 古
7	日本民俗学	民 俗
8	信濃	共 通
9	史林	共 通
10	史学雑誌	歴 史
11	歴史評論	歴 史
12	地方史研究	歴 史
13	日本史研究	歴 史
14	日本歴史	歴 史
15	歴史学研究	歴 史
16	美術手帳	美 術
17	芸術新潮	美 術
18	国華	美 術
19	古代文化	考 古
20	文化財発掘出土情報	考 古
21	考古学ジャーナル	考 古
22	季刊考古学	考 古
23	日経サイエンス	自 然
24	科学	自 然
25	化学	保存科学
26	海洋	自 然
27	地球	自 然
28	月刊文化財	共 通
29	たくさんのふしぎ	共 通
30	ニュートン	共 通

(4) 移 管

ア. 歴史資料

野口英世千円札（記番号HM299999A）1件

イ. 災害資料

新型コロナウイルス感染症関連ファイル 1件

(5) 制 作

ア. 民俗資料

食品サンプル 3件

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (令和7年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考 古	21,071	土器・石器・金属器ほか
民 俗	14,391	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴 史	22,772	書籍・文書資料ほか
美 術	7,666	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自 然	44,586	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	638	被災遺物、文書資料、写真ほか
合 計	111,124	

令和6年度収蔵指定文化財一覧

(令和7年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資 料 名	点数	単位	備 考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	彫刻		木造吉祥天立像	1	軀	寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
5	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
6	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
7	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
8	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
9	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平榮翁像	1	幅	館蔵
12	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
20	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
21	福島県	重要文化財	絵画		紙本墨画淡彩 瀟湘八景図帖 雪村周継筆	1	帖	館蔵
22	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像 (羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
25	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像 (福聚寺)	1	軀	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
31	福島県	重要文化財	工芸品		法然上人像板木 (裏面善導大師像板木) 附 舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資 料 名	点数	単位	備 考
32	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
33	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
34	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
35	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
36	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
37	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
38	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
41	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
42	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
44	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
46	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
47	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
48	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
49	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
50	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
51	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
52	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
53	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
54	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	鋪	寄託
55	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (令和7年3月31日現在)

考古分野：31,172冊 民俗分野：5,191冊
 歴史分野：11,306冊 美術分野：5,064冊
 自然分野：18,046冊 保存分野：1,977冊
 震災遺産：224冊 その他：66,712冊
 合計：139,692冊

(イ) 図書利用環境の整備

前年度に引き続き一般来館者に対し、「発掘調査報告書」、「逐次刊行物／分野分類」、「地質図」の3部門に限り事前申し込みによる閲覧サービスを実施した。利用件数は0件であった。閲覧用図書の複写サービス実施へ向け、歳入予算を計上し、内規を整備した。

(ウ) 収蔵映像資料数 (令和7年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,932点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。県教育委員会の FACE を介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和7年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和6年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和6年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	1,274	14,103	1,274	5,800
民俗資料類	2,494	24,841	2,494	16,803
歴史資料類	0	47,036	0	20,801
美術工芸品類	0	7,586	0	194
自然標本類	5	29,882	2	19,148
合 計	3,773	123,448	3,770	62,746

ウ. 資料整理計画

各分野の主な資料整理実績は以下のとおり。

(ア) 考古分野

中村コレクション整理・撮影 (271件)、宇佐美コレクション整理・撮影 (125件)、中村コレクションの登録・公開 (1274件)、穴澤氏旧蔵図書整理、収蔵庫整理など。

(イ) 民俗分野

「小滝清次郎民俗写真」の整理 (ブローネガアルバム22冊、2383件のデジタルデータ化)、館蔵資料の登録およびデータ公開 (2494件)、第一収蔵庫内大規模清掃の実施など。

(ウ) 歴史分野

村山 (隆)・渡部 (昇)・満田 (信)・坂内 (利) 家資料の封筒詰め・封筒書き作業 (合計416件)、齋藤 (俊)・山谷 (幸)・宇野 (祐) 家資料の撮影 (合計462件)、収蔵庫整理など。

(エ) 美術分野

県立会津工業高校旧蔵型紙仕分け・箱詰め・整理およびデータ入力、作品・資料撮影、収蔵庫等整理。

(オ) 自然分野

寄託資料整理 (10件)、写真撮影 (10件)、登録 (7件)、公開 (7件) など。

(カ) 災害分野

新型コロナ関連資料・整理・リスト化・写真撮影、未整理資料リスト化・袋書き、写真撮影、収蔵庫整理など。

エ. ボランティア

博物館資料の整理のため、資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働により資料整理作業を進めている。令和6年度は、計17名に資料整理ボランティアに登録いただいた。活動の詳細について、資料整理事業別に以下に記す。

(ア) 自然資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。竹谷陽二郎氏には、主に相馬中村層群資料の整理をしていただいた。星総一郎氏には化石のクリーニング作業をしていただいた。活動日数は延べ58日であった。

(イ) 古文書整理

11名に資料整理ボランティアに登録いただいた。秋山圭右氏、大場美弥子氏、大堀義子氏、栗原真帆氏、小関栄助氏、小柴正氏、小檜山裕二氏、鈴木清二氏、星弘明氏、森川敬寿氏、矢花洋恵氏のご協力により、歴史資料 (坂内 (利)・満田 (信) 家文書) の整理作業 (表題・年代・法量などのデータ採取) を行った。活動日数は延べ67日であった。

(ウ) 民俗資料整理

長島雄一氏に資料整理ボランティアに登録いただき、小滝清次郎民俗写真の整理作業 (撮影地の同定や「奥会津ミュージアム」との連動) について、専門的見地からご助力をいただいた。活動日数は6日であった。

(エ) 考古資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。藤原妃敏氏と田中敏氏に主に中村コレクションと宇佐美コレクションの整理・写真撮影作業を行っていただいた。活動日数は延べ46日であった。

(オ) 美術資料整理

小関栄助氏に資料整理ボランティアに登録いただき、会津工業高校旧蔵型紙整理作業を行っていただいた。活動日数は5日であった。

(3) 貸 出

ア. 博物館資料

貸出資料一覧

資 料 名	貸出先	貸出期間	展覧会名
郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯(レプリカ) 1点	大安場史跡公園	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	常設展
跡見塚古墳出土土玉類 318点	須賀川市立博物館	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	常設展
桜井遺跡出土土器ならびに石器 21点	南相馬市博物館	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	常設展
十二天図(慧日寺旧蔵) 旧軸木 慶長6年銘 1点 十二天図(慧日寺旧蔵) 旧軸木 延宝政3年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和6年4月5日～ 12月2日	常設展
ぜんまい綿のワンピース	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	令和6年6月21日～ 10月18日	企画展「羊歯(シダ)一花はないけど華はある」
蚕当計	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	令和6年7月4日～ 11月30日	企画展「蠶(カイコ)展～あなたの知らないカイコの世界～」
雪村周継筆「瀟湘八景図帖」 雪村周継筆「竹に鳩図」 雪村周継筆「蔬果図」	茨城県立歴史館	令和6年10月16日～ 令和7年5月31日	展覧会「雪村」
木造建築継ぎ手一式	昭和村松山区	令和6年8月8日～ 8月15日	昭和村松山集落主催学習会「地域に伝わる伝統的な手仕事」
白河城下絵図(当館寄託) 1点	小峰城歴史館	令和6年8月～11月	企画展「南湖公園物語ー白河にうけつがれた共楽の園地ー」
平成17年制作「只見川の雛流し」映像DVD(ショート版) 1点 平成17年制作「只見川の雛流し」映像DVD(ロング版) 1点	福島県文化財センター白河館	令和7年1月17日～ 3月12日	体験活動メニュー「ふくしまのおひなさまをつくろう」
石英安山岩質溶結凝灰岩 1点 泥岩(二の沢層) 1点 泥岩(譲峠層) 1点 砂岩(塩坪層) 1点 和泉層産植物化石 Glyptostrobus 1点 和泉層産動・植物化石 Anodonta, Glyptostrobus 1点 和泉層産植物化石 Castanea, Glyptostrobus 1点 藤峠層産植物化石 Sequoia 1点	会津美里町郷土資料館	令和7年3月11日～ 令和8年3月10日	常設展
刺繍阿弥陀名号(当館寄託) 1幅	東京国立博物館 京都国立博物館	令和6年3月22日～ 12月末日	特別展「法然と極楽浄土」

イ. 写真資料

総数：111件189点

考古：17件35点 民俗：6件18点

歴史：53件93点 美術：35件43点

(4) 保 存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料などの生物被害防除を実施している。

ア. 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。

イ. 生物被害防除

1回目は7月19日から7月23日にかけてトラック3台を使用、2回目は9月6日から9月10日にかけてトラック2台を使用し、新収蔵資料や企画展借用資料などを対象にエキキュームSを用いた文化財燻蒸を計2回実施した。

ウ. 収蔵庫問題

収蔵庫のひっ迫問題への対応として、運営協議会委員有志メンバーによる収蔵庫問題ワーキンググループを中心に情報交換を行い、オンラインミーティングを3回行った。収蔵庫の現状把握としては、収蔵率算出マニュアルを作成したうえで、第4収蔵庫・第6収蔵庫の収蔵率を算出し、収蔵状況を確認し調書「資料整理メモ」に記録した。また、収蔵庫外に置かれている震災遺産群の体積を算出した。さらに、資料収集・保管のための指針の策定に向けて、現状のルールを確認するとともに、他館の指針について情報収集を行った。

3. 展示事業

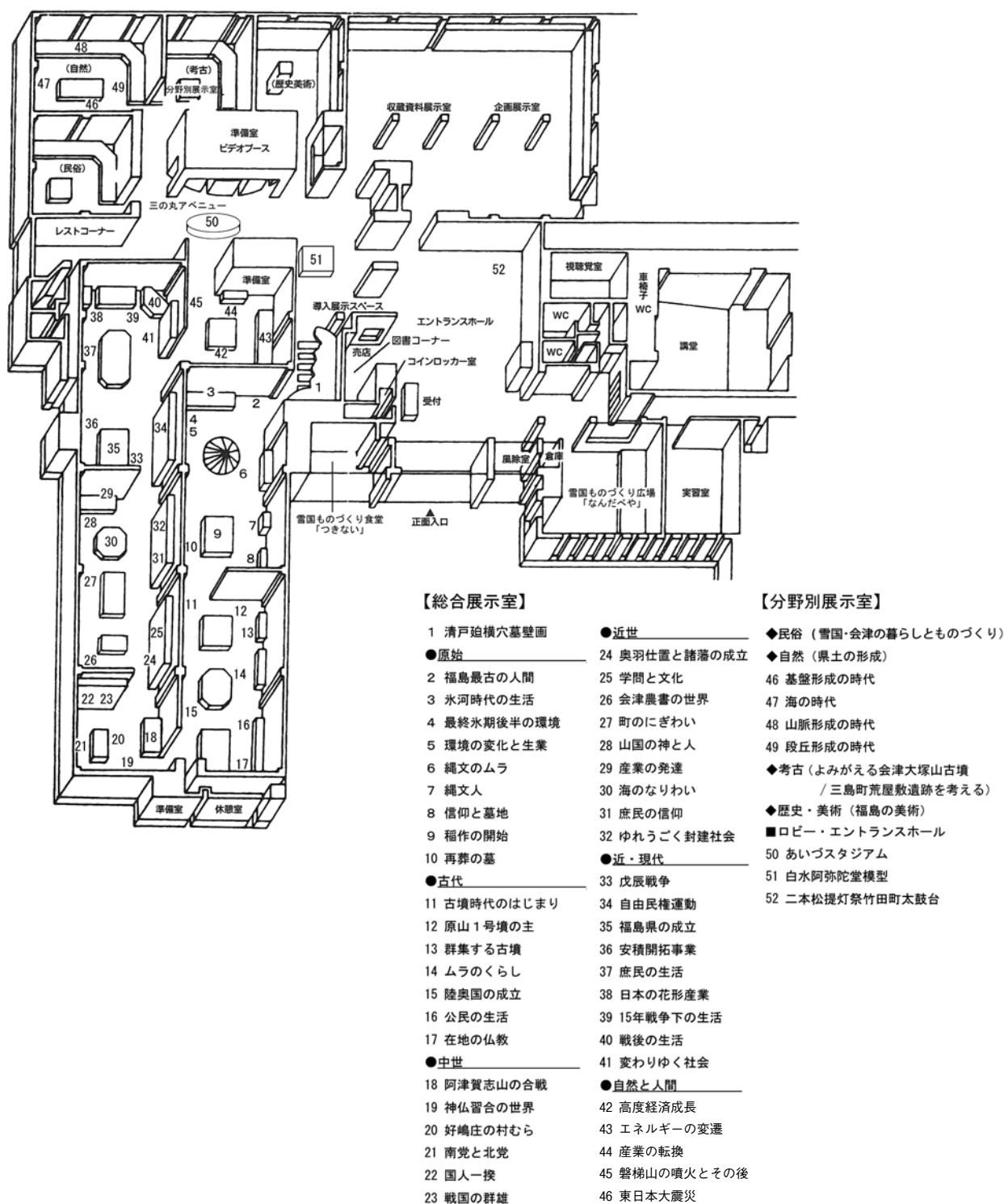
(1) 常設展示

総合展示と分野別展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。ただし、令和6

年度は消防設備の不具合から総合展示室を閉室した。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。分野別展示室や三の丸アベニューにおいてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



イ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- ①「よみがえる会津大塚山古墳」
(分野別展示室 考古)
4月2日(火)～5月26日(日)
10月5日(土)～12月1日(日)
- ②「けんぱくの宝—会津の絵画—」
(分野別展示室 歴史美術)
4月6日(土)～6月2日(日)
- ③「三島町荒屋敷遺跡を考える」
(分野別展示室 考古)
6月1日(土)～9月29日(日)
- ④「祈りのふくしま8—個性豊かなほとけたち—」
(分野別展示室 歴史美術)
6月8日(土)～7月21日(日)
- ⑤「美しき刃たち」
(分野別展示室 歴史美術)
7月27日(土)～9月23日(月・祝)
- ⑥「蒲生氏郷と会津の茶陶」
(分野別展示室 歴史美術)
10月1日(火)～10月31日(木)
- ⑦「酒をとりまく美術」
(分野別展示室 歴史美術)
11月2日(土)～12月1日(日)

ウ. ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全9回開催した。

- ①「イノセ学芸員のイノセラムス研究」
(エントランスホール)
4月27日(土)～5月31日(金)
- ②「ヴェーゲナーの見た夢」
(エントランスホール)
6月29日(土)～8月23日(金)
- ③「ありがとう！野口英世千円札」
(三の丸アベニュー)
7月13日(土)～9月16日(月・祝)
- ④「触って観よう—障がい者をめぐるあそび・まなび—」
(エントランスホール)
7月17日(水)～9月1日(日)
- ⑤「恐竜を発掘するには」
(分野別展示室 自然)
7月20日(土)～10月23日(水)
- ⑥「みんなの震災遺産」
(三の丸アベニュー)
8月10日(土)～9月8日(日)

- ⑦「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」
(エントランスホール)
9月14日(土)～11月24日(日)
- ⑧「会津木綿の世界」
(三の丸アベニュー)
10月8日(火)～11月10日(日)
- ⑨「新鉱物発見！ 宮脇石」
(分野別展示室 自然)
10月26日(土)～12月1日(日)

エ. 総合展示室F「自然と人間」の展示更新

開館以来更新がなかったアジア・太平洋戦争後の福島県の姿について、総合展示室F「自然と人間」を現代史の視点で展示更新を行った。

中テーマとして取りあげたのが「F1. 高度経済成長」、「F2. エネルギーの変遷」、「F3. 産業の転換」、「F4. 磐梯山の噴火とその後」、「F5. 東日本大震災」の5つである。今回の更新によって、東日本大震災を伝える資料である、「震災遺産」を常設展示することができた。展示資料数は60件(内震災遺産は16件)である。震災遺産には、「問い」をパネルとして展示に加えて、能動的な鑑賞ができるようにした。今後の課題として、F3で果物について取り上げたが、展示できる資料に乏しく、内容を深めることができていないが、「くだもの王国ふくしま」にとっては大切なテーマであると考えてるので、県民のみなさんに協力をお願いしながら、引き続き資料収集を進めていきたい。

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。令和6年度は、3本の企画展示を開催した。また、令和7年度の春の企画展「ボーダーなき世界を—福島県立博物館とWell-being—」のプレイベントを実施した。

ア. 春の企画展「幕末明治の浮世絵百年—大江戸の賑わい—」

(ア) 会 期

令和6年4月27日(土)～6月16日(日)

開館日数：45日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 監 修 中右 瑛

(国際浮世絵学会常任理事)

(オ) 企画協力 E.M.I.ネットワーク

(カ) 入館者数 6,035人

(キ) 担当学芸員 歴史分野 栗原祐斗・渡邊 歩

(ク) 趣 旨

庶民文化で賑わう江戸末期から文明開化で華やぐ明治までの約100年。浮世絵は多色摺木版画の登場によって世に広まり、庶民に親しまれた。浮世絵の文化が花開くと、北斎、広重、英泉、豊国、国貞、国芳、芳年といった天才・奇才の絵師が次々と登場し、数々の作品を生みだした。今回の展覧会では、複数の絵師による多様なテーマの作品を集め、観覧者に浮世絵の世界の幅広さや面白さに触れていただくことを目指した。

(ケ) 展示構成

1. 風景画 旅すがた人模様
2. 美人画 四季の装いと化粧
3. 幽霊と妖怪絵
4. 江戸の三大ペット 猫、犬、金魚
5. 相撲絵
6. 英雄、ヒーローたちの物語
7. 劇画 江戸っ子の遊び心
8. 開花絵 異国への憧れ
9. 明治という時代

10. 明治の美人画 欧化ファッション
展示資料 140点 (すべて中右瑛コレクション)

(コ) 関連事業

- ・講演会「浮世絵の楽しみ方—絵師や主題に注目して—」

日時：5月12日(日)13:30～15:00

講師：藤澤 茜 (神奈川大学 国際日本学部
准教授・国際浮世絵学会常任理事)

会場：講堂

- ・ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」

日時：5月3日(金)10:30～15:30

会場：雪国ものづくり広場「なんだべや」

- ・歴史講座「浮世絵のくずし字を読んでみよう」

日時：6月9日(日)13:30～14:30

講師：栗原祐斗 (当館学芸員)

会場：講堂

- ・展示解説会

日時：4月28日(日)・5月26日(日)

13:30～14:00

6月9日(日)14:45～15:15

講師：栗原祐斗・渡邊 歩 (当館学芸員)

場所：企画展示室

(サ) 成果と課題

本展は自主企画ではなく、展示の企画・販売をおこなうE.M.Iネットワークから展示パッケージを購入した展覧会であった。資料・パネル・図

録の準備から輸送、展示・ライティングまで同社が関わって準備を進めた。作業ごとにE.M.Iネットワークに確認は必要だが、担当学芸員の作業負担は通常の自主企画展に比して少なかった。今後はタイミングをみて、本展のような展示パッケージの企画展を年次計画の選択肢に入れても良いように感じた。

当館で浮世絵メインの企画展を開催するのは初めてであり、開幕までは反応が気掛かりであったが、お客様からは概ね好評の感想をいただいた。会期中に実施したアンケートでは、県内で浮世絵の展覧会が開催される機会が限られているため、博物館で鑑賞できたことが嬉しいという声が散見され、浮世絵ファンの存在を把握することができた。春の企画展で来場者6,000人は低い数字ではないが、広報次第ではもう少し伸ばすことが可能であったかもしれない。広報については、今後の課題としたい。

会期中は展示替えなしで浮世絵140点を展示した。見ごたえがあるぶん、展示スペースの都合で順路がわかりにくい章があったことは反省点である。最後に課題として、展示用照明の不足があげられる。浮世絵を展示するにあたって提示された照度の条件をクリアしつつ、浮世絵を綺麗にみせるにはLED照明が望ましいが、当館には備えない。今回は照明会社からレンタルしたLED照明50台と既存の照明を併用して対応した。照明のLED化は当館が抱える懸案事項のひとつだが、いずれ照明を更新する必要がある。



「浮世絵」展リーフレット



展示解説会

イ. 夏の企画展「縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流の千年紀—」

(ア) 会 期

令和6年7月6日(土)～9月1日(日)

開館日数：50日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,761人

(オ) 担当学芸員 考古分野 高橋 満

(カ) 趣 旨

平成21年(2009)7月10日に国重要文化財に指定された「法正尻遺跡出土品」の指定15周年を記念し、保管する県文化財センター「まほろん」から会津への「里帰り展」として国重文の優品(一部指定品外を含む)を展示公開した。「法正尻遺跡出土品」のまとまった数量を会津地域で公開する初めての展覧会である。

当該資料は、法正尻遺跡(磐梯町・猪苗代町)から出土した縄文時代中期の出土品の一括である。

磐越自動車道建設に伴い発掘調査行われ、竪穴住居跡129軒、土坑759基、埋甕26基、焼土遺構108基などが発見され、26万点におよぶ遺物が出土した。遺跡の広がりや遺構の数、そして出土品の量から福島県域のみならず東北地方南部を代表する拠点的な大規模集落であることが分かる。

また遺跡の存続年代がおよそ一千年間に及ぶ長期継続集落であることも特徴的で、遺跡形成期は会津盆地一円に大きな影響を与えた沼沢火山の噴火とほぼ一致することが注目され、会津地域の環境変動と縄文社会の再編成を検討する遺跡としても重要である。

出土遺物のうち遺跡を特徴づけるのは縄文時代中期をほぼ網羅する縄文土器である。会津地域は、東北南部の大木式土器(Daigishiki)の分布圏にある。地理的に関東地方や北陸地方に近

接することから大木式土器圏の中でも他地域との交渉が盛んなエリアで、例えば新潟方面の馬高式土器の影響による「会津タイプ」とよばれる大木式に他地域の要素を掛け合わせた独自の土器類型も生み出されている。また土偶(Dogu)にも着目し、県内出土関連資料や他県の出土資料も紹介しながら会津との地域間交流とそれを支えるネットワーク(X)から縄文文化の十字路(X)として会津地域の特徴を浮かび上がらせる。

(キ) 展示構成

1. DXな土器たちと大木式土器
2. 法正尻遺跡の出現
3. DoGuの世紀
4. デコデコデコレーション とっても3Dな土器たち
5. ようこそふくしまへ あちらの土器そちらの形
6. 行き交うモノとネットワーク
7. D×DG—土器とヒト形のハイブリッド
8. 土器の変化と繋がる文様
9. 複式炉の時代
10. Next DX

展示資料 約200件(国宝 土偶(縄文のビーナス) 長野県棚畑遺跡 茅野市所蔵、国宝 土偶(縄文の女神) 山形県西ノ前遺跡 山形県立博物館所蔵、国重文 神像筒形土器 長野県藤内遺跡 富士見町井戸尻考古館所蔵、土偶装飾付土器 福島県池ノ尻遺跡 柳津町教育委員会所蔵 他)

(ク) 関連事業

- ・講演会「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」

日時：7月13日(土)13:30～15:00

講師：高橋 満(当館学芸課長)

会場：講堂

- ・講演会「ヒスイの道を探る」

日時：8月3日(土)13:30～15:00

講師：栗島義明(明治大学非常勤講師)

会場：講堂

- ・展示解説会「『縄文土器』をよみきかせ」

日時：8月10日(土)、8月21日(水)、

8月31日(土)13:30～14:30

講師：高橋 満(当館学芸課長)

会場：企画展示室

(ケ) 成果と課題

福島県の特徴を縄文時代中期の地域間交流から浮かびださせることを意図した企画展であった。縄文土器の完形や優品そして土偶を大量に展示したことにより昨今の「縄文ブーム」の後押しもあり多くの来場者に恵まれた。県外から

の来館者は圧倒的に東京都をはじめとする関東圏からの来館が多く、その後に新潟県が続く。これは奇しくも展示で紹介した北陸地方や関東地方との交流の濃さが福島県域（とくに会津地域）の特徴であるとする展示趣旨と一致していることが興味深い。また県内では法正尻遺跡が所在する磐梯町からの来場が目立ち、「里帰り展」の成果が出たと思われる。一日平均の有料観覧者数も約100人で（年間パスポート使用者除く）、さらに図録の売れ行きも好調なことから収支に大きな隔たりがなかった。アンケートでは満足度は約97パーセントと高く、複数回来場した方も見受けられた。

広報面では、新聞社系のWEB広告を発出したが、効果（閲覧回数）は非常に低調であり、より効果的な広報を実施する必要がある。



縄文DXリーフレット(表)

ウ. 秋の企画展「ふくしまの酒造り一酒を醸し和を醸す一」

(ア) 会 期

令和6年9月21日(土)～12月1日(日)

開館日数：62日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

後 援 会津若松市教育委員会、一般社団法人会津若松観光ビューロー、会津若松商工会議所、(公財)福島県観光物産交流協会、只見川電源流域振興協議会、福島県酒造組

合、会津若松酒造協同組合、一般社団法人会津地域文化藝術フォーラム、福島県神社庁、福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社、福島テレビ、福島放送、福島中央テレビ、テレビユー福島、NHK福島放送局、ラジオ福島、ふくしまFM

(エ) 入館者数 6,615人

(オ) 担当学芸員

主担当 民俗分野 大里正樹

副担当 民俗分野 山口 拡・西尾祥子

美術分野 小林めぐみ

歴史分野 栗原祐斗

(カ) 趣 旨

会津地方は創業年として寛永年間にも遡る歴史ある酒造家が多く、また近世後期には会津藩家老・田中玄宰による藩財政再建策の一環として、藩直営の酒造蔵にて銘酒「清美川」が醸造されるなど、酒は重要な産品の一つでもあった。近世会津の名物の番付である『若松緑高名五幅対』には、「酒座」「酒造」「名酒」の項目も見られる。そうした老舗蔵元のいくつかは地域の神社の神酒を醸造する酒蔵でもあり、元来、酒は神に供える重要な神饌でもあった。福島県域は神社の例大祭などの際に神饌としてどぶろくを醸して供え、参拝客へふるまうなどいわゆる「どぶろく祭り」の多い地であることが特筆される。酒造免許を有する神社は東北6県で唯一、福島県にのみ10社と多数を数える。

また、酒造家はそれぞれの土地を象徴する存在でもあり、酒造家を中心とした文化的サロンが形成されるなど新たな文化を創造し、地域の文化を向上させる役割も果たしてきた。ひるがえって現代では、福島県は全国新酒鑑評会金賞受賞数9年連続日本一の酒どころとなり、日本酒の名産地として国内のみならず世界的にも高い知名度を誇っている。本展ではそうした福島県の「酒」をテーマに、様々な切り口から酒どころ・福島県の歴史や文化を紐解いた。

(キ) 展示構成

1. 酒と信仰
2. 酒造りの技術と道具
3. 酒どころ・ふくしまの歩み
4. 酒蔵と地域

展示資料 178件

(ク) 関連事業

- ・会津酒蔵めぐり 酒蔵スタンプラリー

実施期間 令和6年10月1日(火)～
12月1日(日)

参加者数 268人

周遊箇所数 1,273か所（博物館含む）

- スタンプラリー会場訪問数
平均70.7人（博物館含んだ18か所）
缶バッジお渡し数 3,254個
- 講演会「酒の日本文化」
日時 9月28日(土) 13:30～15:00
講師 神崎宣武（民俗学者）
場所 講堂
申込不要・無料
 - ワークショップ「酒林（杉玉）をつくろう」
講師 渡部 裕高（会津酒造専務）
日時 10月27日(日) 13:30～15:00
場所 前庭
定員5名・要申込・無料
 - 令和6年能登半島地震復興支援チャリティー上映会「一献の系譜」
日時 11月4日(月) 10:00～／13:30～
場所 講堂
 - 学芸員によるギャラリートーク
日時 9月21日(土)・9月23日(月)
各日13:30～
10月1日(火)15:00～
※「日本酒の日」特別イベント
10月12日(土)13:30～
10月13日(日)・14日(月) 各日11:00～／13:30～
10月19日(土)・11月3日(日)・11月9日(土)・11月30日(土)・12月1日(日)
各日11:00～
※11/9のみ手話通訳付き特別解説会
場所 企画展示室

(ケ) 成果と課題

本企画展開催のため、県内各地に分布しながらも全貌がその地区以外にはあまり知られていなかった伝統行事の数々（日本一の実施数をもつ福島県内のいわゆる「どぶろくまつり」や、松尾神社関連資料）の調査研究、あるいは長らく非公開だった県内一の酒造用具コレクション（会津酒造博物館所蔵の市指定文化財「酒造用具」）の再整理等を行ってきた。当館初の「酒」の企画展として、時間は限られたが美術・歴史・民俗の合同で関連資料を持ち寄り、展覧会として人々に広くその存在を周知し、図録として記録を蓄積し文化を後世へ残すことはできた。福島県という地域に立脚する当館の役割を一定程度果たしえたと考える。

展示資料としては子どもたちでも理解しやすい「100年前の木製自動販売機」など、魅力ある資料を設置し、展示解説でも総じて好評であった。ただし「酒造り」というテーマそのものがやはり飲酒習慣のある成年層向けであり、未

成年層にはアピールしにくく、いわゆる「万人受け」する展示ではなかった。幸いに会期中の11月5日時点で日本の「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産内定の報道があり（※正式決定は会期終了後の12月5日）、その後に他館視察や遠方からの来館が増え、展示解説会も回を重ねるにつれて人数が増えるなど追い風となった。また正式決定直後の12月6日から27日にかけては、福島県立図書館エントランスにて福島県立博物館移動展「ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—」を開催した。本企画展のエッセンスを無料の小規模展示として開催したもののだが、時宜を得て観覧者数9,274人とときわめて好評であった。

広報面では、後援団体を従来より増やし、さらに福島民報・福島民友の2社への広告掲載を行ったが、単発的だった。マスコミ報道は、ラジオ福島(9/20)、キビタンスマイル(現地収録、10/7・8の両日)、おしえてキビタン！(10/12)、NHKはまなかあいづToday(10/1)等、他の企画展並みには取り上げられたが、例えば会期中盤～後半に向けて、それ以外の民放各社への取材依頼や、SNS等での発信等をより積極的にすべきだった。イベント面では、10月1日の日本酒の日から会期末までイベントとして実施した「会津酒蔵めぐり 酒蔵スタンプラリー」は参加者が多く景品の缶バッジが好評であった。各酒蔵と連携して博物館を含めた地域内の周遊を促し、多くの人の流れを生んだ点が特筆される。



「ふくしまの酒造り」ポスター



展示解説会

エ. 令和7年度春の企画展「ボーダーなき世界を—福島県立博物館とWell-being—」 プレイベント

(ア) 担当学芸員 美術分野 小林めぐみ

川延安直

(イ) 助 成 一般財団法人 地域創造
令和6年度地域の文化・芸術活動
助成事業

(ウ) 趣 旨

性、年齢、障害の有無による差、経済格差、都市と地方の地域格差、被災地と非被災地。私たちが生きる社会にはさまざまなボーダーがあり、その克服が課題である。

令和7年度春の企画展では、7つの問いを起点にこれまで福島県立博物館がアーティストと取り組んできた活動などをご紹介します、ミュージアムとアートが介在することで生まれるwell-beingから、みなさんと目指すべきボーダーなき世界を考える。

令和7年度の展示開催のプレイベントとして、アーティストと地域の各団体との協働により3つの事業を実施した。

未就学児、障がい者、高齢者など社会参画に何らかのハンディを持つ方々の文化的な活動、交流の場を設けるために、アーティスト、地域との連携により福島県立博物館の場と機能を活用し、文化芸術やミュージアムだから可能な「well-being」を実践・提示。令和7年度に開催する企画展で参加者・来場者とその意義・経験を共有、思考し、継続的な社会機能を構築しようとするものである。博物館法改正により努力義務化されたミュージアムによる「地域の活力の向上への寄与の実現を目指す展開のスタートとする。

(エ) 事業概要

1. ワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」

講 師：一ノ瀬幸代、新井田恵子（柳津町の料理継承者）

小池アミイゴ（イラストレーター）

参加者：つくし子ども食堂 参加児童・生徒と保護者のみなさん

協 力：柳津中央公民館

奥会津の山間地では、山に生きる人々の知恵が凝縮した食文化が今も残されている。しかし、そのような食文化の体現者は高齢者に偏っており、文化の継承が大きな課題になっている。一方、福島県内の都市部では核家族化や家庭環境により伝統的な食文化に接する機会のないまま育つ子どもたちが増えている。

ワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」では、都市部の子どもたちと保護者が、奥会津・柳津町の高齢者が持つ暮らしの知恵に食を通して接する機会を設けることで、中山間地の高齢者が自身の経験に誇りを抱き、都市部の子どもたちが日本ならではの食文化の豊かさを体感することを目指した。

多世代間での食文化の共有を効果的に行うために、調理体験に加えて、アーティストによるワークショップも実施し、視覚化・言語化により経験を各人のなかで具現化することも試みた。

【1回目】

令和6年12月15日(日)

奥会津の食文化に出会う（知って、描いてみる）

【2回目】

令和7年2月22日(土)

奥会津の食文化を深く知る（調理し、お話を聞き、描いてみる）

2. ワークショップ「魅力の予感」

講 師：きむらとしろうじんじん（美術家／陶芸家）

参加者：適応指導教室ひまわりの児童・生徒のみなさん（15名程度）

関わってくれる大人のみなさん

協 力：会津若松市教育委員会

適応指導教室「ひまわり」

本事業では、会津若松市内の適応指導教室に通う子どもたちと大人が入り混じりながら、やってみたいことを実現していくプロセスを通して、年代や職業、ジェンダーを超えた多様な出会いを生み、様々な可能性にひらかれていくことを目指した。その試みとして、移動式陶芸お抹茶屋台とともに様々な場所に出現し「野点」を開催する

ドラッグクイーン姿の不思議な人、きむらとしろうじんじん氏を招き、じんじん氏、こどもたち、大人たちとで「野点」の実施に相応しい魅力な場所を探し、やってみようことを妄想し「自分にとっての魅力の予感」を共有した。

【1回目】

令和7年1月20日(月)

はじめまして。(こどもたちと最初の出会い。大人たちと目的やプロセスについて共有する)

【2回目】

令和7年2月14日(金)・2月15日(土)

よろしくお願ひします。おさんぽ会。(お互いを知る。お散歩をしながら素敵な場所を探す)

【3回目】

令和7年3月7日(金)・3月8日(土)

ここで何したい？(妄想屋台のスケッチを描く、プレゼンする)

3. 会津型で何つくろう？

アドバイス：さとうてつや(デザイナー)

参加者：西会津町授産場職員のみなさん

特定非営利活動法人夢あるき・夢の樹の利用者、保護者、職員のみなさん

協力：西会津町授産場

特定非営利活動法人夢あるき・夢の樹

本事業では、障がいの種類、程度や利用者の個性に応じて選択される「作業」に会津ならではの文化要素をかけあわせることで、利用者のみなさんの「生きがい」をより良い形で実現する可能性を模索した。オープンデータ化され広く利活用を奨励されている喜多方の染型紙「会津型(福島県指定重要有形民俗文化財)」を活用し、これまで従事している手仕事系の作業と組み合わせることを模索した。福島県立博物館が介在することで地域の文化財に出会い、デザインの専門家の関与で作業に創造性を加えた。手仕事の意義を考え、自分たちならではの手法で会津の地域資源に光をあてるような取り組みを目指した。

【夢の樹(ゆめのき)】

令和7年3月3日(月)

会津型と出会ってみる、つくってみる(職員対象)

令和7年3月25日(火)

会津型と出会ってみる、つくってみる(保

護者対象)

【西会津町授産場】

令和7年3月15日(土)

手仕事の箱づくりを考える(職員対象)

(オ) 成果と課題

本事業の実施にあたり地域の教育、福祉の各団体に対しアーティストによる事前ミーティングや事前レクチャー、振り返りを行うことで、ミュージアムのスタッフのみならず協力団体スタッフも、社会的にハンディのある方を対象に文化的・創造的機会を創出する意義や手法を共有することができた。

都市の子ども食堂と会津の中山間地の年配者の交流事業であるワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」では、核家族化や家庭の事情により伝統的な食文化に触れる機会の少ない子どもたち・保護者と伝統的な食文化の保持者ながら次世代への継承を課題としている年配者をつなぎ、互いの課題を共有し解決の糸口を見出した。博物館がコーディネートしたアーティストにより都市の子どもたちと中山間地の年配者が創造の場を共有することで、交流がスムーズに行われた。

会津地域の作業所・授産場と連携したワークショップ「会津型で何つくろう？」では、県指定有形民俗文化財・染型紙「会津型」を取り入れた製作に施設利用者が従事する可能性を見出した。参加創造者からのアドバイスによりスタッフ間で目的を明確にし問題意識を共有しながら進めることができた。障がいのある方の表現の可能性、地域の文化財の活用による創造的な作業の意義、博物館が関与することで生まれる文化的裏付けを相互に認識できた。

本事業では、博物館ならではの「well-being」を実践する目的から、各ワークショップの基盤に地域の文化財・歴史文化を取り入れた。「食文化」「街の歴史文化」「染型紙」を基盤にした事業は、対象者に地域独自の文化体験を手渡すのみならず、連携団体の職員と博物館が協働することで実現できる地域課題へのアプローチを理解してもらうことができた。

また、アートによる「well-being」の実践として、福島県立博物館の活動に理解のあるアーティストをコーディネートすることで、文化的体験を社会的ハンディを抱える方々に効果的に手渡し、教育・福祉団体のスタッフに社会的ハンディを持つ方々がアートと文化に触れる意義を理解してもらうことができた。

地域の歴史文化の研究機関であり資料・作品の保存施設である博物館が関与することで、ミュージアムの立地地域ならではのプログラムが

立案・実践可能になる。本事業のプログラムで確立するメソッドは、ミュージアムとアートによる社会課題解決方法として、各地で応用可能であると実感できた。

本年度事業で得られた連携団体との関係を基盤に、次年度はミュージアムとアートならではの社会課題への向き合い方を確立させる。また、他地域でも展開可能な事例として展覧会やイベントを通して本事業の取り組みを公表し、アフターイベントや記録集の作成・発行・配信により検証や発信を進める。

本年度事業を通して、社会的ハンディを抱える方々とケアする事業従事者からのミュージアムとアートへの期待や希望が大きいたことが実感できた。当館のみならず各地のミュージアムが同様の取り組みを展開することで、各地で、これまで文化的・創造的な機会に触れることが少なかった人々の文化へのアプローチにつなげることができる。

ノウハウの蓄積とネットワークの拡大のため事業の継続性とメソッドの共有と実践が3年目以降の大きな課題である。



ワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」より
撮影：岩波友紀



ワークショップ「魅力の予感」より
撮影：福田啓道



ワークショップ「会津型で何つくろう？」
撮影：岩波友紀

(3) 博物館資料展示活用アウトリーチ事業

広大な福島県では、当館まで頻繁には足を運べない県民が存在する。そのために当館では、県内各地の博物館・資料館等と協働し、資料を活かした展示を企画する。それにより、多くの県民に対して博物館資料の鑑賞機会を増加させることをめざす。

そして未来づくりへとつながるよう文化理解、歴史理解を深めるために博物館資料展示活用アウトリーチ事業を実施する。

令和6年度は以下の事業を実施した。

- ・いわき市石炭化石館「特別記念企画展【世界にみとめられたいわきの化石たち】」
会期：10月18日(金)～令和7年1月13日(月)
- ・福島県立図書館「福島県立博物館移動展 ふくしまの酒造り一酒を醸し和を醸すー」
会期：12月6日(金)～12月27日(金)
- ・会津稽古堂 多目的ホール 市民ギャラリー
『輝け！未来』はがきアート展
会期：令和7年3月1日(土)～3月4日(火)
- ・ひろの未来館「最新技術で分かった！ 広野町のアンモナイトの一生」
会期：令和7年3月16日(日)～3月30日(日)

(4) 指定文化財の公開

令和6年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈国宝〉

- (1) 土偶 1点 茅野市(長野県)
- (2) 土偶／山形県西ノ前遺跡出土 1点
山形県

(以上2件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

〈重要文化財〉

- (1) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点

楢葉町教育委員会（福島県）

（総合展示室：原始にて展示公開）

- （2）法正尻遺跡出土品のうち 土器83点、石器102点、土製品3点、石製品20点 福島県
 - （3）長野県藤内遺跡出土品のうち 神像筒型土器 1点 富士見町（長野県）
 - （4）山梨県鋳物師屋遺跡出土品のうち 人形文様付有孔鏝付土器1点、サル形土製品1点 南アルプス市
- （以上3件は、企画展「縄文DX」にて展示公開）

イ. 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- （1）関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県
 - （2）根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市
 - （3）夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
- （以上3件は、総合展示室：古代にて展示公開）
- （4）石生前遺跡出土品 7点 柳津町
 - （5）和台遺跡出土 人体文土器及び狩猟文土器 2箇 福島市
- （以上2件は、企画展「縄文DX」にて展示公開）

（5）展示解説

ア. 展示解説員

平成20年代初頭の大幅な人員削減以来、展示解説員は13名で業務を行っている。令和6年度も常設展示室内に監視員2名、企画展開催中には展示予算による監視員1名を予算化したが、展示解説員自体の人員不足は恒常的となっている。展示解説員の主な仕事は展示の解説業務に加えて、展示室内の巡視や設備等の状況把握、チケットや刊行物等の販売業務を含めた受付・案内、団体対応など幅広い。組織としては、研修係、資料係、交流係の3つに分かれ、それぞれが全体に共通する業務と係の仕事を進めている。

研修係は、企画展・テーマ展等の展示担当学芸員が行う解説研修のほか、新人解説員の研修や、スキルアップのための閑散期研修などの研修計画の策定、企画展開催時に人数不足を補うための学芸員の「立番」の準備などを行っている。資料係は刊行物や展示室内における配布資料の管理のほか、受付・展示室などにおける揭示物や物品等の管理を担当する。交流係は着付

け衣装の管理のほか、SNSでの情報発信や、メッセージボードの準備などを行っている。それぞれの係には班長・副班長を置き、特に3名の班長は班長会議の実施などを通じた学芸課・総務課との連絡調整業務を担当している。

12月からの休館中には、研修など多く取り入れ、スキルアップに努め、また館内整理や資料整理などの学芸員の業務をサポートした。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和6年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分 野 考古

(イ) 趣 旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭と II 古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

名古屋大学博物館が所蔵する本県桑折町出身の考古学者故角田文衛氏（昭和61年第17回県外在住功労者知事表彰受賞）が本県で発掘調査した桑折町南薩摩遺跡等の縄文時代の遺跡出土品の内容確認調査を実施した。昭和初期に行われた発掘調査であり、発掘調査に手法や一部をのぞく未公表資料は本県考古学史を振り返る上で重要である。

イ. 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分 野 美術

(イ) 趣 旨

会津地方は仏教美術の宝庫だが、その一方で、調査がなされず存在が知られていない仏像・仏画、かつて調査されたものの十分な認知がされていない仏像・仏画も多数ある。また、多くの寺院・堂が無住となり、地域の世帯で管理していることも少なくない。今後の管理体制に不安を抱える地域もあり、仏像・仏画の現状の確認は急務と言える。調査はより広い見地からの検証、修復の緊急性の判断等のため、大学等研究機関研究者および仏像彫刻修復家と共働で調査研究を行う。それらの成果をもとに、会津の仏教文化を紹介する講座・展覧会を開催するとともに、今後の保全体制の基盤づくりにつなげる。

(ウ) 調査概要

令和5年、6年度の調査に基づき喜多方市の文化財指定を受けた、喜多方市万勝寺・弁財天像、喜多方市浄教寺・聖徳太子像をテーマ展

「祈りのふくしま8—個性豊かなほとけたち—」において展示公開し、地域の文化財を広く知っていただく機会とした。

また、西会津町鳥追い観音如法寺と早稲田大学會津八一記念博物館に分蔵されている三十三応現身像の調査を、如法寺・早稲田大学との合同で実施し、今後の展示公開に向けて意見交換を行った。

ウ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分 野 災害・民俗・考古・歴史・美術

(イ) 趣 旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを展示した。資料調査を進めた成果として、エネルギーや産業を伝える資料を展示することができた。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。仙台で行われたフォーラムにおいて、出展やワークショップを実施し、研究成果を発表した。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の

一部を研究紀要に掲載した。

エ. 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣 旨

学校教育での「食育」の重視、また「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録など、日本各地の食文化の重要性は高まっている。また本県ではいわゆる「伝統野菜」の見直しや、全国新種鑑評会金賞数9回連続日本一（平成24年酒造年度～令和3年酒造年度）を誇る「ふくしまの酒」のブランド化といった動きもあり、本県食文化への社会的注目度や興味関心は高い。こうした状況を背景に県内の主要市立博物館等では、関連展示も相次いで開催されている。

本事業を通して体系的に県内各地の行事食・保存食・発酵食（酒造業含む）等に関する資料の調査収集や成果公開を行うことで、本県食文化の歴史性や奥深さを県民自身が再発見できるとともに、対外的には本県食文化の魅力発信および観光振興等にも寄与できる。

(ウ) 調査概要

令和6年度は、令和4年度以来の酒造業を中心とする調査研究の成果を、秋の企画展「ふくしまの酒造り一酒を醸し 和を醸す」にて公開し、あわせてその記録として企画展図録を発行した。

また、県内の伝統的な保存食・郷土食である「棒たら」「えごぐさ」「いかにんじん」の食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

オ. 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学

(イ) 趣 旨

令和6年に、白水阿弥陀堂、阿弥陀如来及両脇侍の明治時代の修理より120年を迎えるため、この機を節目として修理履歴に関する調査研究を実施している。明治35年、古社寺保存法により阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）は特別保護建造物の資格が与えられ（に指定され）、内務省より委嘱された亀岡末吉の監督により翌36年から37年に復元修理工事が行われた。同時期に、明治36年に阿弥陀如来及両脇侍が国宝の資格を与えられ、翌37年に美術院により仏像修理が行われている。明治の修理以降、昭和2年に木造持国天立像、木造多聞天立像が国宝の資格を与えられている。その後は、法改正により昭和4年に古社寺保存法から国宝保存法へ、昭和25年に国宝保存法から文化財保護法へ移行して行く。法

改正に伴い、文化財指定の区分は、国宝保存法により国宝指定を受け、文化財保護法により重要文化財指定を受けるが、昭和27年に白水阿弥陀堂については重要文化財から国宝へ指定を受けることになった。文化財保護行政により文化財保護が継続しているため、現行の文化財保護法までについて修理記録を調査する。

(ウ) 調査概要

白水阿弥陀堂について、行政による公刊の報告書に記載の修理記録について整理した。

木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像の仏像修理記録について所在調査を行った。この結果として、①奈良国立博物館所蔵「日本美術院彫刻等修理記録データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍については明治37年の修繕関係書類（紙資料）が現存し、木造持国天立像、木造多聞天立像については昭和3年の宝物調書（紙資料及びガラス乾板）が現存すること、②東京文化財研究所所蔵「松島健旧蔵資料データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和56年度の修理記録が現存することを確認した。③他に『美術院紀要第5号』により、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和33年に仏像修理（燻蒸を含む）が行われているとの記載を確認した。

カ. 福島県の恐竜化石産地の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣 旨

県内では浜通りに恐竜が生息していた中生代（約2億5000万年前～約6600万年前）の地層が分布している。これらの地層のからは恐竜化石が産することが知られている。

しかし、これらの恐竜化石の中には詳細な研究のされていないものが多数含まれていることから、現地調査とともに鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。企画展などでそうした恐竜化石や共産化石を展示する機会を設ける。

(ウ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

キ. 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣 旨

日本では近世から近代にかけて、紙の普及や識字率の向上によって、膨大な量の古文書・古

記録が作成された。それらの資料とあわせて、絵地図も作成されてきた。近世であれば藩領絵図、村絵図、裁許絵図、用水普請絵図など、作成者の身分・状況・目的に応じて多様な種類の絵図が生み出された。絵地図の作成は近代も続き、短期間しか存在しなかった若松県や磐前県の絵図や行政区画割を図示した地図が作成された。これらの絵地図は、研究のうえでは古文書や古記録の理解を助ける好材料となる。また展示した場合には、文字資料よりも視覚的に伝えやすいという長所がある。本事業では、近世・近代の絵地図を調査・研究し、展示活用につなげたい。

(ウ) 調査概要

令和6年度は、主に会津若松市立会津図書館、新潟県立歴史博物館、長岡市歴史文書館等の資料を調査した。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和6年度は、村山隆之家、渡部昇司家、満田信也家、宇野祐子家、坂内利子家の資料整理を行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

猪瀬弘瑛・利光誠一・鈴木千里, 2024. 4「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層産イノセラムス科二枚貝とその地質学的意義：特にチューロニアン／コニアシアン階境界付近について」『地質学雑誌』第130巻。

Aiba, H. and Inose, H., 2024. 7「A New False Fairy Wasp (: Mymarommatoidea: Mymarommataidae) in Late Cretaceous Iwaki Amber from Futaba Group of Iwaki

City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 28.

Shigeta, Y., Endo, Y. and Inose, H., 2024. 7. 「Spathian (Late Olenekian, Early Triassic) Ammonoids from the Osawa Formation, South Kitakami Belt, Northeast Japan」『Paleontological Research』vol. 28 supplement 1.

猪瀬弘瑛, 2024. 9「博物館・ジオパークで地球を学ぼう! (34) 福島県立博物館 バラエティー豊かな福島県の地質」『日本地質学会News』vol. 27, No. 10.

平山廉・猪瀬弘瑛・土屋祐貴・藤田英留・鶴野光・仲谷英夫・久保泰・大石裕二郎・鷺野結衣・清川顕, 2025. 1「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイシガメ科のカメ類：予報」『日本古生物学会第174回例会講演予稿集』

Inose, H. and Watanabe, N., 2025. 2. 「Ontogeny and variation of four species of Upper Cretaceous barroisiceratine ammonoids Yabeiceras and Forresteria by means of X-ray microcomputed tomography」『Paleontological Research』vol. 29

Aiba, H., Souma, J. and Inose, H., 2025. 3. 「A new genus and species of Microphysidae (Hemiptera: Heteroptera) with long Labium in Late Cretaceous Iwaki amber from Futaba Group of Iwaki, City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 29.

猪瀬弘瑛, 2025. 3「福島県いわき市と広野町に分布する上部白亜系双葉層群より産したアンモノイド *Pseudobarroisiceras compressum* について」『福島県立博物館紀要』第39号。

大里正樹 2025. 9「ふくしまの酒造り一酒を醸し 和を醸す」福島県立博物館

杉崎佐保恵 2024. 7「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』, pp.308-309.

杉崎佐保恵 2025. 3「明治時代の文化財保護行政に関する研究—鑑査制度及び文化財保存修理の制度創出について—」『福島県立博物館紀要』第39号, pp.27-33

高橋充 2024. 6「豊臣秀吉の会津仕置」江田郁夫編『秀吉の天下統一 奥羽再仕置』勉

- 誠社 29-48頁
- 高橋充 2024. 8「九戸城攻め」『第40回全国城館研究者セミナー テーマ城攻めの実像』予稿集 中世城郭研究会 K1-14頁
- 高橋充 2024. 8「蘆名氏と黒川の城・町」『至徳元年黒川城築城640周年 いかにして黒川城はなったか』パンフレット 14頁
- 高橋充 2024. 12「向羽黒山城へ垣楯を供出した村—会津盆地南縁の中世から近世へ—」『南奥中世史との対話』福島県中世史研究会 68-77頁
- 高橋充 2025. 3「研究ノート 三の丸の変遷からみた若松城」『福島県立博物館紀要』第39号 57-76頁
- 高橋満 編著2024. 7『縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流の千年紀』福島県立博物館企画展図録
- 阿部芳郎・高橋満・米田穰・宮内慶介・小久保拓也2025. 3「東北地方北半における縄文時代土器製塩の研究—八戸市中居遺跡出土の製塩土器と階上町寺下遺跡の製塩痕跡—」『八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要』第14号, pp21-35
- 小峰朱理菜・筑波匡介2025. 3「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から考える震災伝承について」『福島県立博物館紀要』第39号
- 関谷央子・筑波匡介2025. 3「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で育まれる力 学習指導要領・キャリア教育との関連性—」『福島県立博物館紀要』第39号
- 土屋祐貴・猪瀬弘瑛, 2025. 3「実践報告「地質時代の地球儀の制作とその時代について」」『福島県立博物館紀要』第39号.
- 土屋祐貴・猪瀬弘瑛, 2025. 3「実践報告「白雲母を用いた万華鏡づくり講座」」『福島県立博物館紀要』第39号.
- 菊地芳朗・佐々木由香・山本華・青山博樹・大栗行貴・平澤慎 2024. 5「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器圧痕調査をもとに—」『日本考古学協会 第90回総会研究発表要旨』
- 岸田徹・山口欧志・三井猛・梅田由子・平澤慎 2025. 3「若松城三の丸堀跡地中レーダー探査の調査成果報告」『福島県立博物館紀要』第39号
- Van Niekerk, J., Tucker, R.T., Delgerzaya, P., Freimuth, W.J., Chinzorig, T., Tsogtbaatar, K., Yoshida, J., Zanno, L.E. 2025. Geological

reassessment of syn-rift extensional sequences in the Shine Usny Tolgod and Dzun Shakhai fossil localities, Eastern Gobi Basin, Mongolia. *Sedimentology*.

- Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A. 2024. 12. The first discovery of dinosaur larynx provides insights for their bird-like vocalization. Abstract book of the 11th Annual Meeting of the Society for Bioacoustics.

(イ) 学会発表

- 平山廉・猪瀬弘瑛・土屋祐貴・藤田英留・鶴野光・仲谷英夫・久保泰・大石裕二郎・鷲野結衣・清川顕, 2025. 1. 25「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイシガメ科のカメ類：予報」『日本古生物学会第174回例会』オンライン
- 大里正樹 2024. 10. 20令和6年度伝承郷講座第1回「ふくしま 酒の民俗」於：いわき市暮らしの伝承郷
- 杉崎佐保恵 2024. 7. 27「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」日本文化財科学会第41回大会 於：青山学院大学
- 高橋充「九戸城攻め」第40回全国城郭研究者セミナー テーマ城攻めの実像 2024年8月3・4日 於：駒澤大学 中世城郭研究会主催
- 高橋充「『田村家文書』の蘆名氏関係書状について」科研報告会「戦国時代の南東北地方—史料から考える—」2025年2月24日 於：淑徳大学（東京キャンパス）
- 高橋満 2024. 7. 13「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」企画展『縄文DX』関連講演会1 於福島県立博物館
- 小峰朱理菜・筑波匡介 2025. 3. 19「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から考える震災伝承について」『東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会』於：コラッセ福島
- 関谷央子・筑波匡介 2025. 3. 19「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で育まれる力と学習指導要領・キャリア教育との関連性」『東日本大震災・原子力災害第3回学術研究集会』於：コラッセ福島
- 菊地芳朗・佐々木由香・山本華・青山博樹・大栗行貴・平澤慎 2024. 5. 26「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器圧

痕調査をもとに一」日本考古学協会第90回
総会研究発表 於：千葉大学

Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A. 2024.
12. The first discovery of dinosaur larynx
provides insights for their bird-like
vocalization. The 11th Annual Meeting of
the Society for Bioacoustics at The
University of Tokyo.

イ. 外部連携・外部資金による研究活動

栗原祐斗 科研費・基盤研究(B)「江戸時代
の東北地方における死七危機の要因分析シ
ステムの構築」(代表：帝塚山大学 川口
洋) 研究協力者

高橋充 科研費・基盤研究(C)「中世近世移
行期における南東北地方の基礎的研究」(代
表：淑徳大学 遠藤ゆり子) 研究協力者

高橋充 会津大学「スマートデザイン研究ク
ラスタ」

筑波匡介 南国Rスタジオ「震災遺産デジタ
ルアーカイブと遠隔コミュニケーション」
共同研究

筑波匡介・小峰朱理菜 2025. 3. 8「震災遺産
を考えるー資料と問いによる学校でのワー
クショップー」ワークショップ『仙台防災
未来フォーラム』於：青葉の風テラス

筑波匡介・大熊町・南国Rスタジオ 2025. 3. 8
「震災遺産を考える - 教育普及／レプリカ
／メタバース」ブース展示『仙台防災未来
フォーラム』 於：仙台国際センター展示
棟

平澤慎 科研費 学術変革領域研究(A)公募
研究「本州島北部における狩猟採集から農
耕への移行過程の実態解明」(代表：福島
大学 菊地芳朗) 研究協力者

吉田純輝：科研費・若手研究「鳥類固有の発
声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成
機構と起源の解明～」研究代表者

吉田純輝 南相馬市博物館「恐竜足跡化石等
調査」共同研究

ウ. 他団体による委嘱等

・猪瀬弘瑛

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連
携コーディネーター

・大里正樹

須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川
市
文化庁 調査員(文化財第一課) 文化庁
文化財第一課

福島大学 非常勤講師

福島県立医科大学 非常勤講師

・川延安直

福島芸術計画運営委員会委員 福島県
会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆
器協同組合

喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方
市教育委員会

「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市
美術館

いわき市文化財保護審議会委員会委員 い
わき市教育委員会

白河市文化財保護審議会委員会委員 白河
市教育委員会

福島県文学賞エッセー・ノンフィクショ
ン部門審査委員

福島大学芸術による地域創造研究所研究
員 福島大学

やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委
員

・栗原祐斗

熊谷市史編集委員(近代・現代専門部会
特別調査員 熊谷市教育委員会)

郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教
育委員会

・小林めぐみ

福島芸術計画運営委員会委員 福島県
会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆
器協同組合

やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委
員 柳津町

只見町ユネスコエコパーク支援委員会委
員 只見町ユネスコエコパーク推進協議
会

只見町ぶなと川のミュージアム運営委員
会委員 只見町

福島大学芸術による地域創造研究所研究
員 福島大学

無形文化財(工芸技術)の公開・活用
に関する検討会委員 文化庁

福島市文化財保護審議会委員 福島市
須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川
市

いわき市文化財保護審議会委員会委員 福
島市

文化財関連用具・原材料調査事業(工芸
技術)文化庁

公立大学法人会津大学非常勤講師 会津
大学

東京藝術大学とみずほ銀行会津支店連携
事業コーディネーター 東京藝術大学
あいづまちなかアートプロジェクト2024
漆部会委員 会津若松市

• 高橋 充

二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会
向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会
相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
神指城跡調査指導委員会委員 会津若松市教育委員会
阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会
棚倉町中世城館等調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会
高寺山遺跡調査指導委員会委員 会津坂下町教育委員会
北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会
小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会
只見町文化財調査委員 只見町教育委員会
福島県立医科大学 非常勤講師
会津若松市郷土研究奨励金審査委員会委員 会津若松市教育委員会
会津若松市文化財保存活用地域計画協議会委員 会津若松市教育委員会
喜多方市美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会
史跡慧日寺跡調査・保存・整備指導委員会委員 磐梯町教育委員会

• 塚本 麻衣子

喜多方市文化財保護審議委員 喜多方市教育委員会

• 筑波 匡介

磐梯山ジオパーク協議会運営委員
社会教育推進全国協議会 第63回社会教育研究全国集会博物館分科会現地実行委員
猪苗代町社会福祉協議会 地域づくりアドバイザー・防災教育コーディネーター
南国Rスタジオ共同研究員
福島大学 非常勤講師

• 山口 拓

会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

• 吉田 純輝

北海道大学総合博物館 資料部研究員
東京大学大学院理学系研究科 客員共同研究員
東京大学 非常勤講師
ナショナル・ジオグラフィック エクスプローラー

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では学芸員による各種講座のほか、外部講師による様々な講座・講演会等を実施している。令和6年度の各講座開催数は92、総参加者

数は9,357人であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

令和6年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 特別講座	1	2
(2) 考古学講座	3	52
(3) 民俗講座	0	0
(4) 歴史講座	1	50
(5) 自然史講座	2	22
(6) 保存科学講座	0	0
(7) 美術講座	6	179
(8) 災害分野講座	2	21
(9) 企画展関連行事	29	933
(10) 博物館講座	3	132
(11) みんなでつくるイベント	15	1219
(12) 実技講座	1	16
(13) 三の丸からプロジェクト	18	5730
(14) 共催事業	3	363
(15) 後援事業	5	430
(16) 友の会事業	3	208
計	92	9357

令和6年度講座・講演会等行事一覧

(1) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
詩人のいる博物館「詩作ワークショップ 夏、山によせて」	和合亮一（詩人）・蓮岡真（磐梯山ジオパーク協議会専門員）・会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん	8月11日（日）	2

(2) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋満（学芸課長）・五十嵐岳樹・平澤慎・佐藤豪（学芸員）	7月27日（土）～28日（日）	19
縄文土器の野焼き	高橋満（学芸課長）・五十嵐岳樹・平澤慎・佐藤豪（学芸員）	10月6日（日）	19
会津大塚山古墳を歩こう	平澤慎（学芸員）	11月23日（土）	14

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
浮世絵のくずし字を読んでみよう	栗原祐斗（学芸員）	6月9日（日）	50

(5) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
講演会「恐竜を発掘するには」	吉田純輝（学芸員）	9月14日（土）	11
野外講座「恐竜をさがそう」	猪瀬弘瑛・吉田純輝・土屋祐貴（学芸員）	10月20日（日）	11

(7) 美術講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
美術放談1 主のために	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)・川延安直(専門員)	4月13日(土)	30
美術放談2 私だってすごいんです	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)・川延安直(専門員)	6月15日(土)	34
会津の個性豊かなほとけたち	塚本麻衣子(学芸員)	7月20日(土)	21
美術放談3 おしゃれ心あれこれ	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)・川延安直(専門員)	8月24日(土)	38
美術放談4 美味しい美術	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)・川延安直(専門員)	10月19日(土)	23
美術放談5 共創の美術	小林めぐみ・塚本麻衣子(学芸員)・川延安直(専門員)	11月30日(土)	33

(8) 災害分野講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
楽しいそなえ	筑波匡介・鈴木弥生(学芸員)	9月1日(日)	12
楽しいそなえ～マイ避難シートをつくろう～	福島県危機管理課のみなさん	9月1日(日)	9

(9) 企画展関連行事

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
企画展「幕末明治の浮世絵百年」内覧会(友の会・報道向け)		4月26日(金)	18
展示解説会	栗原祐斗(学芸員)	4月28日(日)	25
ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」	当館学芸員	5月3日(金)	80
講演会「浮世絵の楽しみ方―絵師や主題に注目して」	藤澤茜(神奈川大学 国際日本学部 准教授・国際浮世絵学会常任理事)	5月12日(日)	40
展示解説会	渡邊歩(学芸員)	5月26日(日)	23
展示解説会	栗原祐斗(学芸員)	6月9日(日)	25
企画展「縄文DX」内覧会(友の会・報道向け)		7月5日(金)	41
講演会「土器に宿る―縄文中期・ふくしまの人体文」	高橋満(学芸課長)	7月13日(土)	95
講演会「ヒスイの道を探る」	栗島義明(明治大学非常勤講師)	8月3日(土)	79
展示解説会『縄文土器』をよみきかせ	高橋満(学芸課長)	8月10日(土)	45
展示解説会『縄文土器』をよみきかせ	高橋満(学芸課長)	8月21日(水)	40
展示解説会『縄文土器』をよみきかせ	高橋満(学芸課長)	8月31日(土)	48
企画展「ふくしまの酒造り」内覧会(友の会・報道向け)		9月20日(金)	16
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹(学芸員)	9月21日(土)	16
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹(学芸員)	9月23日(月)	23
講演会「酒の日本文化」	神崎宣武(民俗学者)	9月28日(土)	60
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月1日(火)	14
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月12日(土)	18
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月13日(日)午前	22
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月13日(日)午後	19
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月14日(月)午前	15
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月14日(月)午後	25
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	10月19日(土)	19
ワークショップ「酒林(杉玉)をつくろう」	渡部裕高(会津酒造専務)	10月27日(日)	7
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか(学芸員)	11月3日(日)	18
映画上映会「一献の系譜」		11月4日(月)	19

(9) 企画展関連行事

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
学芸員によるギャラリートーク（手話通訳付き特別解説会）	大里正樹ほか（学芸員）	11月9日（土）	28
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか（学芸員）	11月30日（土）	20
学芸員によるギャラリートーク	大里正樹ほか（学芸員）	12月1日（日）	35

(10) 博物館講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
三の丸から講座「空から読む若松の歴史―地形・戊辰戦争・三十三観音―」	高橋満（学芸課長）・栗原祐斗・大里正樹（学芸員）	4月20日（土）	40
会津の三十三観音を知る	高橋充（副館長）・塚本麻衣子・大里正樹（学芸員）	10月26日（土）	83
親子で探検！博物館のウラ側	山口拡・五十嵐岳樹（学芸員）	11月10日（日）	9

(11) みんなでつくるイベント

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
博物館でもよみきかせ	博物館職員	4月13日（土）	22
こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	5月3日（金）～5日（日）	460
博物館でもよみきかせ	読み語り たんぽぽの会	5月11日（土）	18
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科あそびサークルのみなさん	5月26日（日）	40
博物館でもよみきかせ	心に虹のおはなし会	6月8日（土）	8
民謡を知る 民謡を唄う―玄如節と各地の民謡―	玄如節顕彰会のみなさん	6月8日（土）	75
博物館でもよみきかせ	ボランティアサークルハーモニー	7月13日（土）	13
博物館でもよみきかせ	会津大学短期大学部のみなさん	8月10日（土）	29
博物館でもよみきかせ こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科 葉山ゼミ・会津大学短期大学部あそびサークルのみなさん・会津民話会のみなさん	8月10日（土）～11日（日）	164
市民会津磐梯山盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん	8月15日（木）	265
博物館でもよみきかせ	読み聞かせの会マザーグース	9月14日（土）	7
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	9月22日（日）	44
博物館でもよみきかせ	坂下読み聞かせの会	10月12日（土）	23
博物館でもよみきかせ	おはなしの会ゆがわ	11月9日（土）	8
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	11月24日（日）	43

(12) 実技講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
藁に親しむワークショップ～楽しく知ろうわら細工	山口拡・大里正樹・西尾祥子（学芸員）	12月1日（日）	16

(13) 三の丸からプロジェクト

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
会津の武家文化に親しむ「武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる」	飛田立史（琴士）	5月12日（日）	24
雪国ものづくりマルシェ 2024春		5月18日（土）～19日（日）	2185
会津の武家文化に親しむ「武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる」	飛田立史（琴士）	6月9日（日）	11
会津の武家文化に親しむ「抹茶を飲んでみませんか」	宮崎宗伊（会津茶道会主宰）	6月16日（日）	16

(13) 三の丸からプロジェクト

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
会津の武家文化に親しむ「武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる」	飛田立史（琴士）	7月7日（日）	20
会津の武家文化に親しむ「見て触れて、能を体験してみよう」	会津能楽会のみなさん	7月14日（日）	25
会津の武家文化に親しむ「刀剣取り扱い講座」	藤安将平（将平鍛刀場 刀匠）	8月18日（日）	12
会津の武家文化に親しむ「武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる」	飛田立史（琴士）	8月25日（日）	21
会津の武家文化に親しむ「武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる」	飛田立史（琴士）	9月8日（日）	22
会津・ものづくり体験「奥会津の恵みでつくるタペストリー」	齊藤加津代（畑から育てた布）	10月6日（日）	6
雪国ものづくりマルシェ 2024秋		10月12日（土）～13日（日）	3197
会津・ものづくり体験「またたび細工職人の技を見てみませんか？」	菅家豊（またたび細工職人）	10月25日（金）	80
会津・ものづくり体験「またたび細工～六つ目ザルをつくろう」	菅家豊（またたび細工職人）	10月26日（土）	11
会津・ものづくり体験「錫粉蒔絵に挑戦！～ミニトレイまたは盃の絵付け体験～」	八木由紀子・佐藤淳（蒔絵師）	11月2日（土）	9
会津の武家文化に親しむ「見て触れて、能を体験してみよう」	会津能楽会のみなさん	11月3日（日）	9
会津・ものづくり体験「会津木綿でじんわりほかほか小豆カイロをつくろう」	田崎薫（株式会社はらっぱ）	11月10日（日）	8
会津の武家文化に親しむ「松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ」	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	11月17日（日）	62
会津・ものづくり体験「会津本郷焼の器をつくろう」	宗像利訓（宗像窯9代目）	11月24日（日）	12

(14) 共催事業

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
徳一菩薩に学ぶ会主催・講演会「徳一と最澄 分断を越える対話」	師茂樹（花園大学教授）	8月25日（日）	150
会津史学会歴史文化講演会「高寺伝承と発掘された会津盆地西部古代の様相」	吉田博行（日本考古学協会）	11月17日（日）	91
こどもミニミニ博物館 I N 会津短大	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科「こども実践演習 I b」受講の学生、会津大学コンピュータ理工学部課外プロジェクト（デジタルゲーム&地域イベントプロジェクト）受講の学生	1月26日（日）	122

(15) 後援事業

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
会津の怪を語る会	煙鳥・吉田悠軌・斉木京（『会津怪談』著者）	4月6日（土）	91
福島県民俗学会総会・研究発表会		6月2日（日）	17
全会津公立小中学校事務職員研究協議会研修会並びに総会	吉川武彦（福島県教育庁会津教育事務所長）・小林めぐみ（学芸員）	6月14日（金）	81
夏季特別支援教育セミナー	國井加奈子・真壁秀典（適応指導教育ひまわり教育相談員）・神内透（会津自然の家副所長兼指導事業部長）	8月22日（木）	36
会津塾（会津地域文化芸術フォーラム主催）	鈴木賢二（福島県酒造組合特別顧問）ほか	11月16日（土）	205

(16) 友の会事業

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
博物館友の会総会・講演会「ふくしまの古墳を知る」	平澤慎（学芸員）	4月14日（日）	71
矢じりをつくろう！	博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月17日（土）	5
博物館友の会講演会「古代の人々が見上げた星空」	渡部潤一（国立天文台上席教授・国際天文学連合副会長）	9月8日（日）	132

(2) 博物館の新しい風景創造事業

誰でもが安心して利用できる博物館を目指し、多くの方との協働により事業を実施した。具体的には、未就学児や障害のある方など来館にハードルを抱える層に対して、専門的な知見をもつ団体、アーティスト等との連携協働によりプログラムやイベントを開催した。また、様々な団体や個人が博物館事業に主体的に関わり、自己実現および実践の場として博物館を活用していただくため、博物館資源（資料や学芸員の専門知）と組み合わせた独自性のある事業を共に企画・運営した。

ア. みんなでつくるイベント

福島、会津の歴史に根差した芸能や季節の行事など豊かな文化を、福島県立博物館ならではの内容で体験いただけるイベントを企画・実施した。令和6年度は玄如節顕彰会、会津磐梯山盆踊り保存会と協働し、「民謡を知る、民謡を唄う—玄如節と各地の民謡—」「会津磐梯山市民盆踊り」の2件を開催した。例年開催していた本瀧澤獅子保存会による「会津の彼岸獅子」は記録的な大雪の影響により開催を中止した。

また、会津各地の読み聞かせ団体との協働により毎月第2土曜日に「博物館でもよみかせ」（全8回）を、会津大学短期大学部幼児教育福祉学科との協働により「こどもミニミニはくぶつかん」「会津短大生と遊ぼう」を実施した。幼児教育について学ぶ学生が博物館資源をもとにプログラムを考案し実施する実践の場として機能した。

イ. 未就学児団体連携事業

前年度までの取組の振り返りをもとに、「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。季節のワークショップでは「緑画」ワークショップの考案者である、村山修二郎氏（秋田公立美術大学）を講師にお招きし実施した。会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科の葉山ゼミにも参加を呼びかけ、葉山亮三氏と学生3人に参加いただいた。両園の先生方とともに、子どもたちが自然

に直接触れる体験になること、身近な植物が色や線として表現になることの面白さ、そして命をいただくことで、その大切を知る機会にできる、「緑画」ワークショップのもつ意義や可能性を確認することができた。

「認定こども園こどもの森」とは、「大好きなかお—ミニお面をつくろう—」をテーマに遠隔観覧プログラムの試行とゲストティーチャーを組み合わせた連携事業を実施した。打合せ段階から考古分野の学芸員が入ることで、より有効な博物館資料の活用方法について、相談することができた。

ウ. 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供、職場体験、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧など様々な形で実施した。会津支援学校本校とは17回、竹田校とは1回実施した。ゲストティーチャーについては、担当の先生と事前の打合せをもち、児童・生徒の実態や授業のねらい等を的確に把握することで、通常の学校と同様に、該当の学芸員が出向いて授業に参加することが可能であることがわかった。また、会津磐梯山盆踊り保存会、会津若松市食生活改善推進委員の方々、会津美術協会に所属する方々など、博物館と協働、連携する団体のみなさんとともに、授業をつくることで、児童・生徒に届けることができる文化の幅が広がることを確認することができた。

(3) 学校・文化施設等との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア. 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

常設展示室を各自のペースで目的をもって見学できるワークシート（「キミだけの『たからもの』をさがそう！」）を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、親子で来館された利用者向けに、令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活

動支援事業ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート（『博物館でどうぶつさがし』）を常設展入口だけでなく、雪国ものづくり広場なんだべやに設置した。しかし、2つのワークシートは、常設展総合展示室の資料を中心としたワークシートのため、総合展示室の閉室に伴いワークシートの活用はあまり見られなかった。

イ. 学習プログラム

修学旅行等の学校団体に対しては、学校行事で訪問する場所や学校の所在地の歴史や文化について触れながらの展示解説や地域の歴史にちなんだ講座など先生方に要望を伺い、学習プログラムを多数実施した。また、今年度オープンした「あいづスタジアム」を利用し、城下町の成り立ちや城下の水についての歴史解説など小

学校からの希望が目立った。さらに、総合展示室閉室のため観覧いただけない部分を補うためにエントランスに展示した「さわれる・けんぱく」の資料をもとに来館者に触っていただきながら学芸員が資料を解説する独自のプログラムも実施した。公民館等の地域団体の利用としては、大人向けの学習プログラムとして「企画展見どころ解説」や「会津大塚山古墳とは」のプログラムを多くご利用いただいた。支援学校や未就学児の教育・保育施設の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握したうえで、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを提案、実施した。



学習プログラム「さわれる・けんぱく」解説



学習プログラム「あいづスタジアム」解説

令和6年度学習プログラム実施状況

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間 (分)	参加人数
1	4月17日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「博物館散歩」(連携協働)	75	17
2	4月25日	湯川町立湯川中学校	部門別展示室解説(考古・自然)	45	31
3	5月2日	喜多方市立山都小学校	テーマ別学習講座「城下町と七日町通付近の歴史」(歴史)	60	13
4	5月8日	福島県立医科大学保健科学部	学習講座「福島の歴史・地域の歴史」(歴史・民俗)	180	150
5	5月10日	会津慈光こども園(年長)	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)、関連ワークショップ「浮世絵ぬり絵」(歴史)	70	52
6	5月17日	会津若松市立城南小学校	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)	75	60
7	5月22日	慈光第二こども園(年長)	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)、関連ワークショップ「浮世絵ぬり絵」(歴史)	30	42
8	5月22日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「何ができるか考えよう・苗植え」(連携協働)	90	19
9	5月23日	郡山市立谷田川小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	60	24
10	5月28日	会津坂下町立坂下東小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(古墳)」(考古)	90	43

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間 (分)	参加人数
11	5月30日	会津若松市立東山小学校	独自プログラム「触れるけんぱく解説」(自然)	60	39
12	5月31日	会津美里町立本郷学園	体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	75	33
13	5月31日	会津若松市立荒舘小学校	体験学習プログラム「昔の遊び」(連携協働・解説員)	70	77
14	6月5日	会津若松市立行仁小学校	体験学習プログラム「昔の遊び」(連携協働・解説員)	75	53
15	6月5日	家庭教育放送セミナー	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)	60	8
16	6月6日	慈光第二こども園	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)、 関連ワークショップ「浮世絵ぬり絵」(歴史)	60	42
17	6月6日	会津慈光こども園	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)、 関連ワークショップ「浮世絵ぬり絵」(歴史)	60	51
18	6月6日	佐渡市立金井小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	75	50
19	6月6日	会津史談会	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)	90	18
20	6月7日	石川町沢田自治センター	部門別展示室解説(自然)	120	36
21	6月7日	昭和村立昭和小学校	体験学習プログラム「昔の遊び」(連携協働・解説員)	50	10
22	6月7日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)、 独自プログラム「苗の観察」(連携協働)	75	17
23	6月12日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「畑づくりワークショップ」(連携協働)	105	17
24	6月14日	福島県立会津支援学校竹田校	企画展解説「幕末明治の浮世絵百年」(歴史)	60	5
25	6月18日	北塩原村立裏磐梯小学校	体験プログラム「勾玉づくり」(考古)	100	4
26	6月19日	喜多方市立慶徳小学校	体験プログラム「昔の遊び」(連携協働・解説員)	70	28
27	6月20日	三春町立岩江小学校	独自プログラム「触れるけんぱく解説」(美術)、 「会津スタジアム解説」(歴史)	70	50
28	6月21日	伊達市立掛田小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	120	68
29	6月21日	郡山市立守山小学校	テーマ別学習講座「守山城の石垣、鶴ヶ城との 比較と関連から」(歴史)	85	69
30	6月28日	福島市立森合小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(戊辰戦争)」(歴史)	50	90
31	6月29日	福島大学行政政策学類	独自プログラム「博物館概要説明・バックヤード・ 収蔵庫問題を考える・会津スタジアム解説」 (歴史・災害・自然)	120	13
32	7月4日	福島県立会津支援学校竹田校	テーマ別学習講座「会津の妖怪」、常設展示解説 (民俗)	60	2
33	7月4日	三条市立大面小学校	独自プログラム「触れるけんぱく解説」(美術)	60	35
34	7月4日	船引町立船引小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(田村の歴史)」 (歴史)	180	117
35	7月7日	国立磐梯青少年交流の家	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	120	51
36	7月9日	さくら市身体障害者福祉会	企画展解説「縄文DX」(考古)	50	20
37	7月9日	北塩原村立さくら小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(柏木城・ 北塩原の歴史)」(歴史)	100	9
38	7月10日	福島県立猪苗代高等学校	企画展解説「縄文DX」(考古)・縄文時代と会津 大塚山古墳についての解説(考古)	50	17
39	7月10日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「基地計画ワークショップ」(連携協働)	120	11
40	7月12日	会津若松市立謹教小学校	テーマ別学習講座「黒川城と湯川について」(歴史)	120	50
41	7月17日	聴覚障がい者グループ	独自プログラム「障がい者向け展示解説」(連携協働)	30	2
42	7月17日	磐梯町立磐梯中学校	企画展解説「縄文DX」(考古)	90	31
43	7月19日	会津慈光こども園	独自プログラム「石で万華鏡をつくろう」(自然)、 分野別展示室解説(自然)	75	54
44	7月19日	慈光第二こども園	独自プログラム「石で万華鏡をつくろう」(自然)、 分野別展示室解説(自然)	60	40

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間 (分)	参加人数
45	7月23日	あいづわくわく学園	独自プログラム「触れるけんぱく解説」(美術)	120	14
46	7月25日	あおい学園	企画展解説「縄文DX」(考古)	120	27
47	7月30日	会津若松市中央公民館神指分館	テーマ展解説「美しき刃たち」(美術)	60	27
48	7月31日	喜多方市駒形地区公民館	体験プログラム「石にさわろう」(自然)	70	17
49	8月22日	会津史談会	企画展解説「縄文DX」(考古)	90	15
50	8月28日	福島県立会津高等学校選択日本史	企画展解説「縄文DX」(考古)	80	18
51	8月28日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「縄文DX」(考古)	75	12
52	9月6日	福島市立杉妻学習センター	独自プログラム「会津スタジアム解説」(歴史)	60	22
53	9月6日	白河市大信公民館	テーマ展解説「美しき刃たち」(美術)	60	18
54	9月6日	福島市立下川崎小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	80	35
55	9月12日	新潟市立金津小学校	独自プログラム「学芸員の仕事」(連携協働)	60	44
56	9月12日	会津若松市立永和小学校	テーマ別学習講座「鶴ヶ城について」(歴史)	60	11
57	9月13日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「畑づくりワークショップ」(連携協働)	105	14
58	9月18日	会津若松市立第三中学校	独自プログラム「会津を知る」(歴史)	60	7
59	9月18日	会津若松市中央保育所	独自プログラム「読み聞かせ」(連携協働・おはなしのへや)	90	60
60	9月19日	二本松市立小浜小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(小浜城と会津)」(歴史)	75	19
61	9月21日	明治大学博物館友の会弥生文化研究会	部門別展示室解説(考古)	60	24
62	9月21日	田村市船引公民館 佐久間庸軒和算保存会	テーマ別学習講座「佐久間庸軒資料解説」(歴史)	80	28
63	9月27日	郡山市立熱海小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	90	38
64	10月2日	本宮市立岩根小学校	学習講座「福島の歴史・地域の歴史(幕末の会津)」(歴史)	60	63
65	10月3日	伊達市立大田小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	90	17
66	10月3日	相馬市立磯部小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	60	11
67	10月8日	会津若松市立鶴城小学校	独自プログラム「博物館の仕事について」(連携協働)	60	16
68	10月8日	会津報徳保育園	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、関連ワークショップ「稲を探そう千歯こき」(民俗)	60	21
69	10月10日	郡山市立富田西小学校	テーマ別学習講座「防災講座」(災害)	120	71
70	10月10日	会津若松市中央保育所	常設展観覧(カルタを使った観覧、いきものさがし)(連携協働)	70	60
71	10月11日	福島県立郡山支援学校高等部	常設展解説(連携協働)、企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、会津地域に関わる読み聞かせ(おはなしのへや・連携協働)	90	34
72	10月11日	米沢商工会議所	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	60	11
73	10月17日	福島県森林土木建設業研究会	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	60	9
74	10月22日	福島市立笹谷小学校	独自プログラム「遠隔地観覧・会津スタジアム紹介」(連携協働)	180	90
75	10月23日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「収穫体験」(民俗・連携協働)	85	19
76	10月25日	慈光第二こども園	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、関連ワークショップ「稲を探そう千歯こき」(民俗)	60	46
77	10月25日	会津慈光こども園	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、関連ワークショップ「稲を探そう千歯こき」(民俗)	60	44
78	10月29日	那珂町なす風土記の丘資料館ボランティア団体なす香	テーマ別学習講座「大塚山古墳」(考古)	60	25
79	11月2日	東北生活文化大学	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、独自プログラム「バックヤード見学、展示についてのワークショップ」(民俗・災害・連携協働班)	90	20
80	11月7日	名取市郷土歴史研究会	テーマ別学習講座「会津地域の古墳」(考古)	60	28

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間 (分)	参加人数
81	11月9日	郡山女子大学短期大学部地域創成学科	独自プログラム「学芸員の仕事について、バックヤード見学」(民俗・災害・自然)	140	28
82	11月10日	新鶴村郷土史保存会	テーマ別学習講座「会津大塚山古墳について」(考古)	120	6
83	11月13日	大信村公民館	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	60	38
84	11月13日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「畑づくりワークショップ」(連携協働)	85	14
85	11月14日	太田市教育委員会	独自プログラム「学習プログラムについて」(連携協働)	35	6
86	11月15日	会津坂下町社会福祉協議会	分野別展示室解説(考古)	30	16
87	11月15日	喜多方市立第三小学校	独自プログラム「学芸員の仕事について、バックヤード見学」(連携協働)	60	10
88	11月15日	会津史談会	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	60	18
89	11月20日	福島県立会津高校	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	80	18
90	11月22日	猪苗代町重要文化財保存会	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、独自プログラム「会津スタジアム紹介」(連携協働)	90	12
91	11月23日	柳津町中央公民館	独自プログラム「奥会津の伝統食・保存食文化について」(美術)	110	18
92	11月24日	柳津町中央公民館	独自プログラム「奥会津の伝統食・保存食文化について」(美術)	110	18
93	11月26日	西郷村中央公民館	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	60	32
94	11月29日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)、関連ワークショップ「藁」(民俗・連携協働)	90	20
95	11月29日	会津若松市立鶴城小学校	独自プログラム「会津スタジアム解説」(歴史)、企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	70	48
96	11月29日	会津方部地理歴史・公民科研究会	独自プログラム「地図と模型に見る会津城下町」(歴史)、企画展解説「ふくしまの酒」(民俗)	170	13
97	12月9日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「藍のワークショップ」(連携協働)	75	17
98	2月5日	会津若松市適応指導教室	独自プログラム「アーティストと活動を振り返ろう」(連携協働)	90	17

ウ. 指導者向け研修

「博物館を活用した教育プログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや、「あいづスタジアム」の活用の事例を紹介した。また、実際に授業で当館のプログラムを利用した2名の教員の方をお招きし、博物館を利用するに至った意図やその効果についての報告をいただいた。様々な方向からの博物館へのアプローチができることを示すことで、学校や公民館等による博物館の能動的な利用につながることを意図した。令和6年8月6日(火)に4名の参加者を得て開催した。

令和6年度
博物館を活用した教育プログラム研修会

時 間	内 容
10:30～10:40	開会挨拶
10:40～11:20	講座Ⅰ「美術分野 アーティストとの協働による地域学習について」
11:20～12:00	講座Ⅱ「民俗分野「ワラの文化」学習プログラム」
－ 昼食・休憩 －	
13:00～13:40	展示解説「若松城下の成り立ちを知ろうー模型「あいづスタジアム」の活用」
13:40～14:20	授業実践報告Ⅰ「災害分野 磐城高校小峰先生による「震災遺産と問い」の授業実践報告」
14:20～14:55	授業実践報告Ⅱ「考古分野 猪苗代高校宮代先生による「縄文土器をつくろう」の授業実践報告」
14:55	閉会

定員30名

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。以前新型コロナウイルス感染症の予防のために貸出事業が停止となり、その後再開したが、貸出の件数は大変少ない。今年度の貸出はなかった。

オ. ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和6年度の実施回数は52回で、参加者は2,780人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
1	4月16日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	東京学館新潟高等学校 (国立磐梯青少年交流の家)	1年生・教職員	310
2	5月29日	筑波・鈴木	災害	防災講座	会津若松市立城西小学校 (福島県会津自然の家)	4年生・教職員	80
3	6月7日	高橋満	考古	縄文時代の生活について	喜多方市立第三小学校	6年生・教職員	12
4	6月14日	筑波・鈴木	災害	震災講話	桑折町立釧芳小学校 (福島県会津自然の家)	5年生・教職員	57
5	6月20日	筑波	災害	震災講話	福島市立蓬萊東小学校 (国立磐梯青少年交流の家)	5年生・教職員	34
6	6月20日	平澤	考古	四穂田古墳出土品体験学習	中島村立滑津小学校・吉子川小学校 (中島村生涯学習センター輝ら里)	6年生(滑津小学校18名・吉子川小学校18名)	36
7	6月27日	鈴木	災害	震災講話	福島市立月輪小学校 (国立磐梯青少年交流の家)	5年生・教職員	18
8	6月28日	筑波	災害	「震災に学ぶ 中学生が避難所でどう過ごすのか」	会津若松市立第六中学校 (国立磐梯青少年交流の家)	1・2・3年生 教職員	30
9	7月3日	吉田	自然	最新恐竜研究	福島県立福島高等学校SSH (オンライン講演。他7校参加)	高校生	115
10	7月3日	筑波	災害	令和6年度あいづっこ人材育成プロジェクト「地域から学ぶ」	会津若松市立第三中学校	2年生	87
11	8月29日	高橋満 五十嵐	考古	縄文土器をつくろう	福島県立猪苗代高等学校	3年生・教職員	16
12	8月29日	川延・西尾	連携 協働	書のワークショップ①	福島県立会津支援学校	中学部2年生	16
13	9月4日	筑波・鈴木	災害	防災講座	喜多方市立松山小学校 (福島県会津自然の家)	4年生・教職員	28
14	9月20日	筑波	災害	福島の今・未来 私たちにできることは何だろう	福島市立岡山小学校 (国立磐梯青少年交流の家)	5年生・教職員	85
15	9月20日	筑波	災害	危機管理意識を高める	会津美里町立高田小学校 (福島県会津自然の家)	5年生・教職員	41
16	9月24日	川延・西尾	連携 協働	書のワークショップ②	福島県立会津支援学校	中学部2年生 教職員	16
17	9月26日	鈴木・西尾	連携 協働	植物で絵を描こう	福島県立会津支援学校	小学部5年2・3・4組・教職員	10
18	9月27日	栗原	連携 協働	目指せ！白虎隊(白虎隊・戊辰戦争に関わる講話)	福島県立会津支援学校(飯盛山)	小学部5年生 教職員	13
19	9月27日	筑波	災害	避難所に関わる中学生の役割	喜多方市立第一中学校	1年生	64
20	10月1日	筑波・鈴木	災害	避難所に関わる中学生の役割	喜多方市立第一中学校	3年生	91
21	10月2日	山口・西尾	民俗	紙漉き	福島県立会津支援学校	小学部6年生 教職員	6
22	10月3日	山口・西尾	民俗	紙漉き	福島県立会津支援学校	小学部6年生 教職員	7
23	10月11日	高橋満 五十嵐	考古	縄文土器をつくろう(野焼き)	福島県立猪苗代高等学校	2・3年生 教職員	17

No	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
24	10月30日	筑波・鈴木	災害	避難所設営訓練	喜多方市立第一中学校	全校生徒	275
25	11月7日	山口	民俗	会津の伝統的な生活について	柳津町立会津柳津学園中学校	2年生	23
26	11月13日	山口・西尾	民俗	会津木綿	会津若松市立城西小学校	3年生	95
27	11月14日	山口	民俗	会津地方の伝統的な生活を後世にどのように残していけばよいだろうか～齋藤清の絵画から学ぶ～	柳津町立会津柳津学園中学校	2年生	23
28	11月19日	猪瀬・西尾	自然	石の学習会②「環境教育～自然に学ぶ～」	会津慈光こども園(東山浄水場前)	年長児・教職員	37
29	11月19日	猪瀬・西尾	自然	石の学習会②「環境教育～自然に学ぶ～」	慈光第二こども園(東山浄水場前)	年長児・教職員	47
30	11月25日	大里	民俗	企画展「ふくしまの酒造り」観覧	福島県立会津支援学校(オンライン)	高等部2年生	7
31	11月26日	筑波・鈴木	災害	災害時に中学生ができることを考える	喜多方市立塩川中学校	全校生徒	270
32	11月27日	山口・筑波	民俗 災害	昔の道具+防災	福島県立会津支援学校	小学部5年生	5
33	12月5日	西尾	民俗 連携 協働	会津磐梯山の歌詞づくり	福島県立会津支援学校	高等部3年生	10
34	12月5日	西尾・塚本	民俗 連携 協働	昔の道具	福島県立会津支援学校	中学部 1・2年生	20
35	12月10日	小林	美術	社会科	福島県立会津支援学校	高等部2年生	7
36	12月12日	筑波	災害	生きる力を育む防災教育	福島県立会津西陵高等学校	3年生	105
37	12月19日	平澤・佐藤 五十嵐	考古	だいすきなお（ミニお面をつくろう）	認定こども園子どもの森	年長児	40
38	1月15日	山口・西尾	民俗	ワラに親しもう	福島県立猪苗代高等学校	3年生社会科 (日本史)	10
39	1月15日	平澤・佐藤 五十嵐	考古	だいすきなお（ミニお面をつくろう 制作）	認定こども園子どもの森	年長児	40
40	1月16日	山口・西尾	民俗	郷土食料理	福島県立会津支援学校	中学部2年生	11
41	1月28日	小林	美術	会津の伝統工芸（会津漆器）	金山町立横田小学校	4年生・教職員	6
42	1月30日	大里・山口 西尾	民俗	「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」昔の道具体験	会津若松市立鶴城小学校	3年生	30
43	1月31日	山口・栗原	民俗 歴史	100～70年前ごろの町の様子	会津若松市立一箕小学校	3年生	124
44	2月5日	大里・山口 西尾	民俗	「人々のくらしのうつりかわり」昔の道具体験	会津若松市立城西小学校	3年生	90
45	2月10日	大里・山口 西尾	民俗	「人々のくらしのうつりかわり」昔の道具体験	会津若松市立湊学園前期課程	3年生	4
46	2月21日	平澤・佐藤 五十嵐	考古	だいすきなお（ミニお面をつくろう 野焼き）	認定こども園子どもの森	年長児	40
47	2月26日	筑波・鈴木	災害	防災教育	会津若松市立第五中学校	2年生	139
48	3月3日	栗原	歴史	「人々のくらしのうつりかわり」	会津若松市立湊学園前期課程	3年生社会科	5
49	3月6日	筑波	災害	防災学習	会津若松市立北会津中学校	2年生	61
50	3月7日	大里・山口 西尾	民俗	「人々のくらしのうつりかわり」昔の道具体験	会津若松市立行仁小学校	3年生	59
51	3月19日	小林・西尾	美術	会津漆器ができるまで	福島県立視覚支援学校	小学部4年生 中学部2年生	2
52	3月19日	山口	民俗	雪国での工夫した暮らし	福島県立視覚支援学校	小学部1・4・ 5年生 中学部2年生	6
受講者合計							2780

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和6年度は4校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また、福島県立会津支援学校高等部の生徒については、清掃員・清掃会社の協力のもと清掃業務の体験をした。

○受け入れ実績（生徒のみ）

- ・福島県立会津支援学校
（高等部：11名） 1日間
- ・会津若松市立第二中学校
（2年生：3名） 2日間
- ・福島県立若松商業高等学校
（2年生：4名） 3日間
- ・福島県立会津学鳳高等学校
（1年生：4名） 1日間

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。実習の受入対象者の条件は、（1）県内所在の大学に在籍する学生、（2）福島県出身の学生、（3）（1）・（2）以外で当館の使命に共感し当館での実習を強く希望する学生となっている。令和6年度は（2）、（3）の条件に当てはまる学生7名を受け入れた。演習では、「博物館／学芸員の意義や仕事を一般の方々に伝える方法」についてグループワークを重ねることで考えを深めた。演習の成果については最終日にワークショップ形式で来館者に披露した。

また、全国的にミュージアムの収蔵庫問題がクローズアップされる中で、当館の収蔵庫の状況を一例に、ミュージアムが抱える課題や問題について実習生と学芸員がディスカッションを行う時間も設けた。

実習期間 8月27日(火)～9月1日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大学名	人数
1	千葉商科大学	1
2	琉球大学	1
3	都留文科大学	1
4	宮城学院大学	1
5	中央大学	1
6	米沢短期女子大学	1
7	成城大学	1
合 計		7

（4）生涯学習・研究支援

ア. 図書コーナー

図書コーナー（旧相談コーナー）は、エントランスホールの一隅に設置されており、展示図録・報告書・紀要など当館の出版物、および博物館資料に関連した図書が排架されている。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、来館者が自由に閲覧できる。また学芸員が来館者からの質問や相談に答えたり、来館者が自発的に学習したりするためのスペースとしている。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古： 6件124点 歴史：15件195点

民俗： 2件 10点 美術： 1件 1点

計 24件330点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和6年度の派遣回数は33回で、参加者は1302人であった。

講師派遣一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主 催	参加者
1	6月2日	筑波匡介	災害	つながろう猪苗代（防災減災講座）	猪苗代町社会福祉協議会	39
2	6月6日	筑波匡介	災害	防災・減災についての基礎・基本	国立磐梯青少年交流の家	56
3	6月8日	小林めぐみ	美術	コア・アクティブ科目講義	福島大学	42
4	6月12日	吉田純輝	自然	恐竜最新研究	福島県高等学校教育研究会理科部 会相双支部	42
5	6月14日	小林めぐみ	美術	地域連携とネットワークの拠点として～博物館の役割～	全会津公立小中学校事務職員研究 協議会	81
6	6月19日	小林めぐみ	美術	会津の刀鍛冶について	会津若松市中央公民館	25
7	6月22日	山口 拡	民俗	コア・アクティブ科目講義	福島大学	42
8	6月23日	高橋 充	歴史	根城おもしろ講座「蒲生氏郷と奥羽再仕置」	（一財）VISITはちのへ	36
9	6月30日	筑波匡介	災害	つながろう猪苗代	猪苗代町社会福祉協議会	38
10	7月6日	筑波匡介	災害	コア・アクティブ科目講義	福島大学	39
11	7月12日	高橋 充	歴史	村ができた！街道が通った！―「新編会津 風土記」にみる江戸時代の大戸地区―	会津若松市大戸公民館	14
12	7月22日	筑波匡介・ 鈴木弥生	災害	「生きる力を育むための防災教育」	ムシテックワールド	41
13	7月22日	筑波匡介	災害	「防災を学ぼう」	南会津中央公民館	38
14	8月3日	吉田純輝	自然	恐竜は鳴く？恐竜研究最前線	仙台市科学館	80
15	8月6日	筑波匡介	災害	防災に関する工作 ・クイズ	会津坂下町中央公民館	42
16	8月20日	塚本麻衣子	美術	会津三十三観音について	会津美里町教育委員会	66
17	8月22日	筑波匡介	災害	震災遺産について	会津坂下町教育委員会	20
18	9月5日	塚本麻衣子	美術	日本遺産 会津の三十三観音めぐり	ゆめ寺子屋（事務局：若松市高齢 福祉課）	127
19	9月7日	筑波匡介	災害	防災を学ぼう	南会津町中央公民館（たじまkids クラブ）	13
20	9月13日	高橋 充	歴史	モノをつくる！神仏に祈る1―蘆名氏の時 代の大戸地区―	会津若松市大戸公民館	12
21	9月14日	筑波匡介	災害	防災教育コーディネータについて	防災教育コーディネーター養成塾	12
22	10月8日	猪瀬弘瑛	自然	理科実技研修	両沼地区小学校教育研究会	8
23	10月12日	筑波匡介	災害	復興とは何か	長岡市立歴史文書館	32
24	11月8日	筑波匡介	災害	防災について考えよう～クロスロードゲ ームを用いた防災入門編～	猪苗代婦人消防連絡協議会	25
25	11月21日	猪瀬弘瑛	自然	博物館資料論	福島大学	70
26	11月29日	筑波匡介	災害	振り返りと次年度に向けて	猪苗代町社会福祉協議会	26
27	12月7日	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館	16
28	12月14日	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館	16
29	1月18日	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館	16
30	1月25日	筑波匡介	災害	学習発表会アドバイザー	福島県立猪苗代高等学校	130
31	1月30日	筑波匡介	災害	令和7年度「つながろう猪苗代」検討会	猪苗代町社会福祉協議会	10
32	2月15日	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館	11
33	3月25日	筑波匡介	災害	震災を学ぶ講座 避難所ワークショップ	下郷町民生児童委員協議会	37
参加者数合計						1302

(5) 動画の作成と配信

「三の丸からプロジェクト」(文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)で令和5年度に制作した「雪国ものづくりマルシェプロモーション映像(ショートバージョン・ロングバージョン・ものづくりバージョン)」3本、「三の丸からプロジェクトプロモーション映像(会津のSAMURAI文化エリア・若松城下の商工文化エリア・雪国のくらしとものづくり文化エリア)」3本を、Youtube当館公式チャンネルで公開した。また、令和6年度ポリフォニックミュージアム事業(こども家庭庁NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業)で「大人が学ぶワークショップ 博物館×アーティストから生まれる場」を制作し、同じくYoutube当館公式チャンネルで公開した。

YouTube当館公式チャンネルでは、令和6年度中に合計7本の動画を公開、チャンネル登録数は年度末までに616人、令和6年度の合計視聴回数は37,360回であった。

(6) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

- ①発足 平成元年3月10日
- ②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

④令和6年度会員数

個人会員：111 家族会員：33
高校生会員：2 賛助会員：2 合計：148

イ. 令和6年度事業概要

(ア) 講演会等の開催

○講演会の開催

演 題：「ふくしまの古墳を知る」
日 時：令和6年4月14日(日)13:30～15:30
講 師：平澤 慎(福島県立博物館学芸員)
会 場：博物館講堂
来場者：71名

演 題：「古代の人々が見上げた星空」
日 時：令和6年9月8日(日)13:30～15:30
講 師：渡部 潤(国立天文台上席教授)
会 場：博物館講堂
来場者：132名

(イ) 研修旅行

今年度の研修旅行の実施は見送られた。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第132号・第133号を発行し、会員に配布した。総会の総括、企画展内覧会に参加された会員からの感想、サークルの紹介等を掲載した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月26日(金)「幕末明治の浮世絵百年—大江戸の賑わい—」18名参加
7月5日(金)「縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流千年紀—」37名参加
9月20日(金)「ふくしまの酒造り—酒を醸し和を醸す—」16名参加
令和7年3月26日(水) 総合展示「自然と人間」16名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動を行っている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数54名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修

会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和6年度は全6回の野外活動（化石・鉱物の観察活動）のほか、「矢じりをつくろう!」、「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」といったイベントを博物館で開催するなど、館と連携した活動を精力的に行った。

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時11名が参加し、A～Dの4班編制で古文書の解読・考察にあたり、順番に発表を行う形で学習活動を続けてきた。テキストは当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）を務めた家で、伝来した文書は城下の様子を伝える良質な資料であるため、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見が深めている。令和6年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解読を行った。活動は月1回・第二土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の確認を行った。

(ウ) 考古学倶楽部

本会は、考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考古学関連の展覧会の見学などの事業をとおして、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

令和6年度に実施した主な事業は以下のとおりである。

- ・ 4月27日(土) 郡山市大安場史跡公園見学
- ・ 5月25日(土) 研修会「福島と会津の古墳について」
- ・ 6月22日(土) 喜多方市西新田窯跡発掘調査現地説明会見学
- ・ 7月5日(金) 企画展「縄文DX」内覧会参加
- ・ 令和7年3月7日(金) 総会

(エ) 仏像に親しむ会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。令和6年度の会員は12名。会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全5回、座学を全6回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

令和6年度は、広報紙「なじよな」について、特別号、4～6月号(19号)、7～9月号(20号)、10～12月号(21号)、1～3月号(22号)、を発行した。年度当初の特別号は、常設展示室の各エリアから代表的な展示資料をピックアップした展示室案内号とした。通常号では、展示やイ

ベントの案内の他、博物館の仕事として「燻蒸」を取り上げるなど、一般には目に触れることのない博物館活動の普及についても心掛けた。特に22号は休館中の発行で展示・イベント情報がないということもあり、学芸員の仕事について広く知っていただくための誌面構成となった。

年間展示案内は、令和6年度企画展の注目される資料をワンポイントとしてあしらい、目を引き、かつ見やすいデザインを心掛けた。

福島県立博物館 令和6年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種 類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「縄文DXー会津・法正尻遺跡と交流の千年紀ー」2,000枚 企画展「ふくしまの酒造りー酒を醸し和を醸すー」3,000枚 次年度企画展「ボーダーなき世界をー福島県立博物館とWell-beingー」3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「縄文DXー会津・法正尻遺跡と交流の千年紀ー」30,000枚 企画展「ふくしまの酒造りー酒を醸し和を醸すー」65,000枚 次年度企画展「ボーダーなき世界をー福島県立博物館とWell-beingー」40,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み(会津若松市内の購読世帯)
広報誌『なじよな』 20号～23号・ 2025特別号	A2 4つ折り	18,500枚×5回=92,500枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間展示案内	22.0×40.0cm 観音折り	48,000枚×1回=48,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
プレス・リリース(企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4(館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

イ. 広 告

企画展の広報及び、次年度の観覧再開のお知らせ

のための広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展 示 会	看板 (駅前・博物館周り)	新聞・その他
春の企画展「幕末明治の浮世絵百年―大江戸の賑わい―」	○	—
夏の企画展「縄文DX―会津・法正尻遺跡と交流の千年紀―」	○	バナー広告：福島民報、福島民友、河北新報
秋の企画展「ふくしまの酒造り―酒を醸し和を醸す―」	○	新聞広告：福島民報、福島民友 折り込み広告：福島民報、福島民友
博物館観覧再開のお知らせ	—	福島民報、福島民友

ウ. マスコミ向け広報活動

記者クラブへの投げ込みを不定期で行っている。会津若松市記者クラブ加盟社のほか、県教育委員会（教育庁）社会教育課と連携して県政記者クラブ加盟社に向けた情報発信を行っている。内容は、企画展の内覧会情報やイベント開催情報をはじめ、学芸員の研究成果の周知等である。

令和6年度は投げ込みを10回行い、新聞やテレビ等の取材につながっている。

エ. ホームページ

ホームページ（<https://general-museum.fcs.ed.jp/>）において、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信した。

オ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用した広報を行っている。平成28年3月25日より「Facebook（フェイスブック）」の公式ページ（<https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>）を公開しているほか、平成30年7月4日からは「Twitter（ツイッター。現在はX（エックス）に名称変更）」の公式ページ（<https://x.com/fukushimamuseum>）を公開した。

令和6年度末時点でのFacebookの投稿件数は81件（前年度より14件増加）、フォロワー数は1,490件（同32件増加）であった。Xの投稿件数は139件（前年度より17件減少）、フォロワー数は3,118件（同203件増加）であった。

カ. 記事・放映

当館では、令和元年7月より、喜多方シティ

エフエム株式会社との協力によりラジオ番組「けんぱく徒然語り」を放送。毎週日曜日9時～9時30分の30分番組として、福島県立博物館からのおすすめの情報、福島に関することなどを学芸員やテーマに応じた特別ゲストとご紹介している。令和6年度は、60回の放送を行った。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等の取材に基づいた記事・放映等は次のとおりである。

（ア）春の企画展「幕末明治の浮世画百年―大江戸のにぎわい―」関連

- ・福島民友／浮世絵の多彩な世界 県立博物館 美人画や風景画140点（4月30日記事）
- ・NHK／県立博物館で浮世絵師の作品展（5月3日放送）
- ・福島民報／幕末明治の暮らし鑑賞 県立博物館で浮世絵100年企画展（5月7日記事）

（イ）夏の企画展「縄文DX―会津・法正尻遺跡と交流の千年紀―」関連

- ・福島民友／会津出土の縄文土器 県立博物館で企画展開幕（7月9日記事）
- ・河北新報／会津の縄文遺跡紹介 福島県立博物館 出土品200点展示（7月10日記事）
- ・福島民報／縄文土器や土偶展示 9月1日まで 県立博物館（7月11日記事）
- ・福島民友／編集日記（7月12日記事）
- ・NHK／地方ニュース（7月26日放映）

（ウ）秋の企画展「ふくしまの酒造り―酒を醸し和を醸す―」関連

- ・福島民報／民報サロン 祭りと酒造り（7月20日記事）
- ・ラジオ福島／あなたの朝にレディ・オン「おらが町のふるさとリポーター」（9月20日放送）

- ・福島民報／福島の酒文化知って 県立博物館 きょうから企画展（9月21日記事）
- ・河北新報／酒造の伝統薫る 老舗の品々 福島県立博物館 企画展（9月27日記事）
- ・福島民友／本県の酒4テーマで資料や道具250点展示 若松で秋の企画展（9月29日記事）
- ・NHK／はまなかあいづtoday 県内各地で日本酒を楽しむイベント（10月1日放映）
- ・ふくしまFM／キビタンスマイル 秋の企画展「ふくしまの酒造り」開催中（前編10月7日・後編10月8日放送）
- ・福島中央テレビ／おしえてキビタン！「酒どころ・福島の文化と歴史に触れよう」（10月12日放映、Youtube アーカイブ配信あり）
- ・福島民報／地域の宝再発見を 酒造り巡る文化などテーマ 文化藝術フォーラム 16日「会津塾」初開催（11月6日記事）
- ・読売新聞／県内酒造の歴史 250点展示 県立博物館（11月12日記事）
- ・福島民報／あぶくま抄（※会津の酒文化を考えるフォーラム あす開催）（11月15日記事）
- ・福島民報／論説 伝統的酒造り（11月18日記事）
- ・福島民友／（文化）神社酒造り本県日本一 免許所持数10件 国魂神社 続く神事 県博学芸員「酒と生活他県より近く」（11月20日記事）

（エ）調査研究

- ・NHK／いわき市で発見の二枚貝の化石 国内では初確認か（4月16日放送）
- ・福島民友／イノセラムス科化石発見（4月24日記事）
- ・福島民報／日本初、二枚貝の化石発見（4月24日記事）
- ・福島中央テレビ／福島県いわき市で日本初の種類の二枚貝の化石が発見 恐竜時代の地層の年代示す「示準化石」（4月24日記事）
- ・読売新聞地方版／「二枚貝化石年代の謎 いわき 定説と100万年ずれ 県立博物館など」（5月1日記事）
- ・テレビユー福島／約8700万年前の化石発見 体長0.4ミリ、世界最小級の新種のハチ いわき市のコハクから 福島（7月2日放送）
- ・福島民友／「琥珀のハチ」新種を発見 いわき・8700万年前の昆虫化石（7月3日記事）
- ・福島民報／琥珀に眠る太古の鍵 福島県いわき市の愛好家 鈴木千里さん発掘 新種ハチ化石 生態系の重要資料（7月3日記事）
- ・いわき民報／アマ化石研究家・鈴木千里さん またもや快挙 大久町で採取の琥珀に新種のハチ（7月4日記事）

- ・読売新聞地方版／最小級ハチの化石新種 いわきで発見国際学術誌に（7月8日記事）
- ・NHK／いわき市 こはくの中から新種のハチの化石が見つかる（7月16日放映）
- ・時事通信／琥珀から新種ハチの化石 体長0.4ミリー福島県立博物館など（8月27日記事）
- ・岩手日日新聞／琥珀から新種ハチ化石 福島県立博物館など（8月28日記事）
- ・日刊工業新聞／福島県立博物館など、琥珀から新種ハチ化石を発見（8月29日記事）
- ・福島テレビ／アンモナイトの一種“フォレストリア エゾエンシス”を福島県内初発見！〈福島県広野町〉（2月27日放映）
- ・福島民報／アンモナイトの成長中期、殻の形に多様性 福島県立博物館学芸員らのチーム CT解析で初判明（2月28日記事）
- ・福島民友／広野でアンモナイト化石発見 県内初確認、ひろの未来館に展示へ（2月28日記事）
- ・NHK／広野町で希少なアンモナイトの化石発見 ひろの未来館で展示（3月27日放映）

（オ）その他

- ・福島民友／触れる！化石 福島県立博物館で企画展（4月21日記事）
- ・福島民報／県立博物館が「三の丸アベニュー」新設 会津若松城下に焦点 ジオラマなどで解説（4月22日記事）
- ・読売新聞地方版／江戸期の若松城下再現 県立博物館ジオラマ、木戸の模型など（4月22日記事）
- ・福島民報／雪国ものづくり紹介 若松の県立博物館18、19日マルシェ（5月10日記事）
- ・福島民報／虫、カビ防ぐ燻蒸ガス来春販売終了 文化財保護困った 新たな管理法模索 大型の収蔵品多い県立博物館（6月20日記事）
- ・福島放送／博物館に野口英世の千円札 発行終了製造番号に熱視線（7月15日記事）
- ・福島民報／会津のものづくり 秋にじっくりと（9月3日記事）
- ・読売新聞地方版／野口英世千円札に感謝（9月5日記事）
- ・NHK／はま・なか・あいづtoday テーマ展「美しき刃たち」（9月14日放送）
- ・福島民友／「会津の文化触れて」地元グルメ、酒、工芸集結 12、13日若松でマルシェ（10月5日記事）
- ・福島民報／文化人の顔 企画展で紹介 テーマ展「氏郷と茶陶」（10月6日記事）
- ・福島民報／県立博物館 不登校生の学びの場に 会津木綿の原料育て工芸体験 地域が協力、子

ども前向き（10月7日記事）

- ・福島民報／会津文化を体感しよう 12、13日、若松（10月8日記事）
- ・NHK／蒲生氏郷と茶道 会津の茶道と茶陶の歴史紹介する企画展 テーマ展「氏郷と茶陶」（10月14日放送）
- ・NHK／はま・なか・あいづtoday テーマ展「酒をとりまく美術」（11月22日放送）
- ・福島民友／文化の発信に民間の力 県博と会津文芸が連携協定（3月27日記事）
- ・福島民報／文化芸術核に地域振興 協定締結 連携し事業（3月27日記事）
- ・福島民友／震災の展示を充実 常設展に追加（3月29日記事）
- ・福島民報／原発事故資料を常設展示 新たにスマホで観覧支援（3月29日記事）

（2）公聴活動

常設展アンケートは、前年度の調査をもとに三の丸プロジェクト・まちなか連携事業と関連する項目を新設し、企画展アンケートを統合して実施している。年間を通じての項目ごとの傾向分析のほか、過去のデータとの比較・分析を行い、事業の改善に努めている。また、外国からの来館者からも、英語表記のシートを用意してアンケート調査を行った。また、各分野で行う講座・それぞれのイベントやイベント等でもアンケートを行いより良い運営のための参考としている。

令和6年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	幕末明治の浮世絵百年—大江戸の賑わい—
	縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流の千年紀—
	ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—
講座	特別講座
	歴史講座
	美術講座
	自然史講座

（3）出版事業

令和6年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

縄文DX 1,000冊

ふくしまの酒造り 2,000冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第39号 350冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第38号 200冊

エ. その他

会津ものづくりめぐり冊子 1,000冊

7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」

福島県立博物館では、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」に取り組んでいる。

(1) 事業の概要

ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進する拠点計画及び地域計画の認定が行われた。当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画は、「会津のSAMURAI文化エリア（若松城跡）」「若松城下の商工文化エリア（会津若松市街地）」「雪国のくらしとものづくり文化エリア（奥会津）」の3つのエリア周遊を実現することにより、質の高い文化観光を提供しようとするものである。同計画の実現のため、令和2年度から5ヶ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

イ. 組織

1. 申請者：福島県（福島県立博物館）
2. 共同申請者：会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

ウ. 助成

令和6年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(2) 事業内容

ア. 展示強化事業

令和5年度に行ったレーダー探査結果をもとに、令和6年度は堀跡を再現する植栽を整備した。整備箇所は一般駐車場から博物館入り口に向かう動線部分であり、見学の導入として来館者が学びを得ることができる空間を生み出した。堀跡の説明に関しては、サイン看板に表記

することとした。

三の丸堀跡は、春には、コヒガンザクラが咲き多くの人が訪れる場所でもあるため、市民参加のワークショップを実施し、整備のあり方について議論した。



三の丸堀跡を再現した植栽

イ. 体験型プログラム提供事業

(ア) 武家文化体験「見て触れて 会津の武家文化に親しむ」

武家文化を鑑賞・体験する5つのプログラム（七絃琴、茶道2プログラム、刀剣取り扱い、能楽）を実施した。令和6年度は武家茶道である石州流茶道の体験に加え、会津の歴史と関わり深い裏千家のお茶の文化を楽しくわかりやすく伝えるプログラムを実施した。

(イ) ものづくり体験「秋にじっくり！会津・ものづくり体験」

会津のものづくりを体験する6つのプログラム（会津木綿、会津本郷焼、蒔絵、からむし織、またたび細工2種）を実施した。令和6年度はこれまでの制作体験に加え、職人による滞在・実演型プログラムを行った。

(ウ) 体験空間を演出するための暖簾・スクリーンの制作

より効果的な体験空間演出のため、令和4年度に整備した「ものづくり体験棚」に、体験内容に合わせて掛軸等を展示することのできるフラットな壁面を作り出し、映像等を投影することもできる取り外し可能なスクリーンを設置した。「なんだべや」の機能を拡張し、体験型プログラムの理解を深めることに役立てた。さらに、体験型プログラム実施時に「なんだべや」

入口にかける暖簾を制作し、体験の魅力をより多くの来場者に伝える手立てとした。

(エ) 自走化に向けた意見交換会

令和7年度からの自走化に向けて、体験型プログラムの講師が集い、意見交換を行う場を設けた。互いの課題等を共有するとともに、令和7年度実施体制について協議を行った。

ウ. 多言語化事業

3エリア周遊に関連する既存映像コンテンツの多言語化（英語、中国語（簡体字・繁体字）字幕テロップ挿入映像の制作）を行った。多言語化の実施は令和3年度以降と同じく観光庁の「HowTo多言語解説文整備」に基づき、執筆・校正・監修の各段階を別々のネイティブライター等専門人材を配置して行った。映像中のナレーションやテロップおよび資料解説が単純な翻訳にならないようにするため、担当分野学芸員による監修も行った。

エ. 「会津のSAMURAI文化エリア」周遊のためのサイン強化事業

博物館から鶴ヶ城までの双方向の周遊をはかるために、外構展示と合わせて市民ワークショップを実施し、雑多なサインについては、撤去していくことを方針として掲げた。コーチングからもサインの設置に関して、専門的な意見をいただきながら、掲示する内容やデザイン、設置場所などの検討を進めた。また、サイン計画を進めるにあたってのデザインマニュアルを作成した。

オ. 来館者利便性向上事業

(ア) 情報通信環境整備

一般的なWebブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を前年度の常設展総合展示室に引き続き、常設展分特別展示室にまで拡大・整備した。上記システムは常設展示室内（有料空間）のみで閲覧できる仕様である。来館者の個人端末（スマートフォン・タブレット等）上で、通常のWebブラウザからVRを用いて展示観覧を行えるようにしたほか、多言語（※日本語・英語・中国語（簡体字、繁体字）の4言語）解説文へのアクセス機能や、展示解説文の平易な日本語での読み上げ機能を実装させた。また、言語での伝達にとどまらず、道具の使用方法のパントマイム動画（非言語的手段）による解説など、よりユニバーサルな利用を想定したコンテンツを組み込んだ。

(イ) 環境整備

令和4年度・5年度に作成した視覚支援カード「さわって観ようてんじカード」による解説と触れることのできる資料との組み合わせによる理解向上をめざし、カードを補強するハンズオン資料（勝常寺薬師如来像3分の1縮小模型）を作成した。

これまでの試行の改善点を踏まえ、来館が困難な層の観覧や海外・県外からの観光への導入、学習旅行の事前・事後学習を目的に、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧を実施し、令和7年度からの博物館学習プログラムでの運用方法についてまとめた。

視聴覚障がい者の観覧をサポートするために、学芸員・解説員など障がい者に接する機会がある者を対象に視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

カ. 周遊促進情報発信事業

(ア) エリア周遊多言語パンフレット作成

前年度までに作成した各エリアの文化観光に役立つ外国語テキストをまとめ、webパンフレットを製作した。公開は（イ）のランディングページにて行い、PDF形式とデジタルブック形式で閲覧できるようにした。

(イ) ランディングページ作成

令和5年度まで三の丸からプロジェクトの情報は、プロジェクトの共同申請者である会津若松観光ビューローが運営する「会津若松観光ナビ」（以下観光ナビ）に掲載してきた。観光ナビの仕様上、イベント・特集・ツアーなど、それぞれのカテゴリーごとにページが分かれることから、三の丸からプロジェクトとしての一体感ある情報発信ができていないことが課題となっていた。そこで令和6年度は、各カテゴリーへのリンクをまとめて掲載した三の丸からプロジェクトのランディングページを作成した。ランディングページの設計・管理・メンテナンスは、株式会社トラベルジップが担当した。

(ウ) ホームページ用多言語化テキスト作成

観光ナビ内の三の丸からプロジェクト特集ページおよびランディングページ用の多言語（英語・中国繁体字・簡体字）テキストを作成した。

8. 地域連携とネットワークの拠点

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 福島県博物館連絡協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

当会は、福島県内の博物館及びこれに準ずる施設が相互の連絡、協働によってその機能を強化し、地方文化の振興に寄与することを目的とするもので、昭和54年から活動している。設立時より福島県立博物館は事務局を務め、他館と連携しながら会の運営を担っている。

イ. 組織

1. 理事会 やないづ町立斎藤清美術館(会長)、
福島県立博物館(副会長)
ほか10館
2. 所属館 52館
3. 事務局 福島県立博物館

ウ. 事業内容

令和6年度は、下記の事業を実施した。

1. 理事会
 - 第1回理事会
実施日 令和6年8月20日(火)
会場 オンライン
 - 第2回理事会
実施日 令和7年3月14日(金)
会場 福島県立博物館
2. 総会
実施日 令和6年8月30日(金)
会場 福島県立博物館
3. 研修会・研究発表会
 - (1) 施設見学研修「石川町立歴史民俗資料館
イシニクル」見学
実施日 令和7年1月10日(金)
会場 石川町立歴史民俗資料館
イシニクル
 - (2) アクセシビリティ研修「博物館・美術館
におけるアクセシビリティ向上にむけて
の研修会—実践！みんなに開かれたミュー
ジウム—」
実施日 令和7年3月4日(火)
会場 郡山市立美術館
ファシリテーター
梅田亜由美(エデュケイター)
伴走者のみなさん
石川信子・鈴木祐花・天水みちえ

(2) 磐梯山ジオパーク協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク(GGN)が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。令和3年度には再認定審査会が実施され、第44回日本ジオパーク委員会にて再認定となった。

当館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。

ウ. 活動

猪苗代町の学校から依頼を受けた防災講座をジオパーク事務局と連携した対応が定例化できた。猪苗代町社会福祉協議会との講座は協働で検討し実施することができ、徐々に地域での活動に広がりができていく。今後も3町村での防災教育、防災講座など教育普及で協働を進めていく予定である。

(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携

を模索している。当館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

令和6年度はサイエンス屋台村 at ムシテックワールドを11月23日(土)に実施した。当館でも「アンモナイトの名前を当てよう」というブースを出展し、156名の方に参加していただいた。

(4) 福島芸術計画

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画は、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

令和6年度は芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図るとともに、福島の未来を担う子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供することで、心豊かな成長を支援するため「アートによる新生ふくしま交流事業」として「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を行った。

イ. 組織

1. 主催 福島県
2. 運営委員会構成団体 福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
3. 事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

ウ. 事業内容

令和6年度の福島芸術計画のうち、福島県立博物館は「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」の一環として下記の3事業の企画運営を担った。

1. 会津型ブランディング
 - (1) 実施地域：会津若松市
 - (2) 講師：佐藤哲也（ヘルベチカデザイン株式会社）
 - (3) 地域パートナー：福島県立会津支援学校
 - (4) 対象：福島県立会津支援学校、高等部1・2・3年生
 - (5) ワークショップ実施日：

令和6年8月26日(月)、9月5日(木)
10月3日(木)、10月18日(金)
令和7年1月24日(金)
 - (6) 成果展：福島県立会津支援学校文化祭「パワー祭り」

期間 令和6年10月19日(土)

場所 福島県立会津支援学校

(7) 内容

令和5年度は、会津支援学校高等部の「職業」の授業で、3つの班（陶芸班、手工芸班、リサイクル班）の生徒のみなさんと地域の文化資源でもある「会津型」を使い、創造性にも留意した製品の試作に取り組んだ。

今年度は、その成果をもとに、木工班が加わった4つの班の生徒のみなさんと「会津型ブランディング」として、より魅力的な製品を販売する取り組みを行った。講師として佐藤哲也氏をお招きし、先生方との打合せの時間を大切にしながら、生徒のみなさんとは3回のワークショップを実施した。1回目は「ショップカードづくり」。店の名刺がわりにお客様に「ありがとう」を伝えるカードづくりを行った。生徒のみなさんの工夫点がデザインの世界でも実際に使用されている方法であることがわかり、自信につながる様子が見られた。2回目には「のれんづくり」を実施した。店の看板がわりにもなるのれんを「会津型」を用いるとともに、店の名前を班ごとに考えてもらうことで、それぞれの班がつくる製品にふさわしいのれんができあがった。3回目は「屋台づくり」。文化祭であるパワー祭りを翌日に控えて、実際の販売ブースをつくりあげるワークショップを実施した。色合いを考えること、立体的に陳列する方法など具体的な助言をもとにして販売会場づくりを行った。成果展としてのパワー祭り当日は、いつも以上に大きな声で呼びかける姿、品薄になったところに率先して補充する様子が見られ、盛況のうちに製品が完売した。活動内容をまとめた記録紙も制作し、令和7年度春の企画展会場で配布予定である。

2. とぶまなびーや
 - (1) 実施地域：会津若松市
 - (2) アーティスト（講師）：

平山素子（コンテンポラリーダンサー／振付師）
 - (3) 地域パートナー：福島県立会津支援学校
 - (4) 対象：福島県立会津支援学校

小学部2・3年生の児童、中学部1・2年生の生徒、高等部1～3年生の生徒
 - (5) ワークショップ実施日：

令和6年10月8日(火)
令和6年11月5日(火)～8日(金)
 - (6) 内容

昨年度は講師の平山素子氏が選曲した日本

や世界各地の音やリズムに合わせて体を動かし、身体で表現するワークショップを実施した。今年度は、その成果をもとに「会津支援学校」をテーマとしたダンスワークショップを展開した。

共通のテーマ曲として、校歌と民謡会津磐梯山をアレンジしたものを使用するとともに、子どもたちの学習・生活の場である教室や廊下、体育館、中庭などの場所に合わせた身体表現を取り入れ、「会津支援学校」としてのダンスの構成を考えていただいた。

身近な校歌を使用したり、身体表現も普段の学習・生活にある動きを取り入れることで、音楽に親しみ、体や心を弾ませていきいきとダンスに様子が見られた。ワークショップの様子は動画にまとめ、WEB上で公開するとともに、令和7年度の春の企画展会場でも公開を予定し、多くの方に活動内容や障がいを知っていただく機会とした。

3. 雪と歩く一冬の空、冬の森―

- (1) 実施地域：只見町
- (2) アーティスト（講師）：
岩田とも子（アーティスト）
- (3) 地域パートナー：ただみ・ブナと川のミュージアム（只見町ブナセンター）、只見町役場交流推進課、只見町教育委員会、只見線こども会議
- (4) 只見町の親子、只見町を訪れた親子
- (5) ワorkshop実施日：
令和7年3月1日（日）
- (6) 成果展：JR只見駅待合室（旧インフォメーションセンター）
- (7) 内容

アーティストの岩田とも子氏を講師に招き、子どもたちと「只見の雪」をテーマとしたワークショップを実施した。まず最初に、只見町ブナセンターの中野陽介氏の案内で、只見町ブナセンターの敷地内に2m60cm以上も降り積もった雪の層の観察を行った。その中で気温や湿度など自然条件によって、雪の結晶や積雪の状況が異なること、雪を見ることで自然の様子も把握できることを知った。また、ブナセンターの展示室では、とけた雪が水となってブナの森を通り、人間や生きものの生活に循環していくことも学んだ。その後、岩田氏と子どもたちが「只見の雪」のイメージについて対話をし、それをもとに指に白い絵の具をつけて透明なアクリル板に「雪」を表現していった。ガラス窓越しに、只見の森を

眺めながら「雪」を表現する人、リズムよく降りしきる「雪」を表す人。窓の外の白い世界と、子どもたちの描く様々な白い表現が重り、広くて深い「只見の雪」が会場に広がった。

午後には、会場を只見駅に移し、「只見線こども会議」のみなさんと展示のワークショップを実施した。展示会場（JR只見駅待合室）を「只見BAUM」と名付け、看板づくり、展示作業を行った。令和7年3月2日から公開した。成果展も含めた活動内容をまとめた記録紙も制作し、会場で配布した。

(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。8月に実施した集中整理作業にも参加し、資料の整理作業への協力および地域資料の情報交換を行った。

(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会 ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

イ. 組織

1. 構成団体 会津若松商工会議所、（一財）会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市
2. 事務局 会津若松商工会議所

ウ. 事業内容

令和2年度から実施している「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 三の丸からプロジェクト」は、本協議会構成団体が共同申請者として実施している。博物館と会津若松市、会津若松商工会議所、会津若松観光ビューローの連携により、より魅力的な文化観光事業を実施し、会津の文化振興、地域振興につながるよう支援した。

令和6年度はその一環として、会津若松商工会議所と博物館との連携により、当館秋の企画展「ふくしまの酒造り一酒を醸し和を醸すー」と連動した「会津酒蔵めぐりスタンプラリー」を実施した。参加者268名を数え、企画展を核とした会津地域の周遊につなげることができた。

(7) 会津地域における文化芸術による地域振興連携協定

ア. 趣旨・経緯

福島県立博物館が令和2年度から令和6年度にかけて国の支援を得ながら観光団体等と実施してきた文化観光事業「三の丸からプロジェクト」の成果の一部を継承し、文化観光拠点として整備された福島県立博物館を活かした文化振興及び会津地域における文化芸術による地域振興の推進に寄与するため、福島県立博物館と会津における文化振興・地域振興を設立目的としている一般社団法人会津地域文化芸術フォーラムは、相互にかつ緊密に連携・協力し、両者が保有する知見やネットワークを活用した取組を展開できるよう令和7年3月26日に連携協定を締結した。

イ. 主な連携事業

(ア) 福島県立博物館の文化観光事業「三の丸からプロジェクト」の成果継承事業

⇒「三の丸からプロジェクト」の自走化する事業に関し、会津文藝が管理運営協力

〈例〉文化観光ツアーの造成

雪国ものづくりマルシェを活用した文化芸術振興事業

文化芸術体験事業と地域づくり活動とのマッチング活動

会津のものづくりや福島県立博物館の収蔵品の魅力を伝える商品開発

(イ) 会津地域の文化芸術振興の基盤づくり

⇒県立博物館、会津文藝のそれぞれの強みを活かした連携協働

① 会津の文化芸術事業のプラットフォーム作成による文化観光振興

② 会津の「地域の宝」の可視化及び更なる磨き上げ、積極的な情報発信等

③ 会津地域の学芸員、司書、芸術家、文化人等のネットワークの形成

④ その他会津地域の文化芸術を核とした地域づくりに関すること

9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア. 震災遺産保全チームの組織

令和6年度は民俗1名、歴史1名、美術1名、災害2名の計5名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動や、ポイント展の実施を行った。

イ. 震災遺産の調査・保全

震災遺産の未整資料の整理を進めている。また課題である収蔵場所として第五収蔵庫や第二収蔵庫の整理を引き続き進めている。令和2年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産の常設展示に向けて、ワークショップや意見交換など行い、内容の検討を進めてきた。

ウ. 他団体・他機関との連携・協力

社会教育研究全国集会福島大会に実行委員として運営に参加した。仙台防災未来フォーラムへ大熊町、南国Rスタジオと協働して震災遺産の活用について共同研究の内容についてブース出展を行った。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携した地域づくりへの参画を進めた。

エ. 普及事業

今年度は申込みが多く、ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの対応をお断りすることが複数あった。公民館での利用や県外からの教育旅行での申し込みも増えてきており、活動の進め方について課題を残した。震災遺産をテーマとした高校での授業実践について東日本大震災・原子力災害学術研究集会にて報告した。

オ. 震災遺産の常設展化

休館中に総合展示室「自然と人間」の展示更新を行い、アジア・太平洋戦争後について、高度経済成長、エネルギーの変遷、産業の転換、磐梯山噴火とその後、東日本大震災として項目を立て、震災遺産を展示に加えた。

10. 新たな博物館の役割・機能の創出

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成23年3月の東日本大震災に伴う活動

平成23年3月11日に起きた東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した文化財・自然資料のレスキュー・保全作業を、福島県被災文化財等救援本部に参画して実施してきた。

当館が新規で関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度は3件の返却があった。

イ. 令和6年能登半島地震被災文化財等救援活動

令和6年1月1日に起きた令和6年能登半島地震により被災した文化財等の救援活動として、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターが実施する文化庁受託事業「令和6年被災文化財救援等事業（文化財ドクター派遣事業・文化財レスキュー事業）」が行われている。

当館は上記の事業へ公益財団法人日本博物館協会の加盟館の一員として参加している。令和6年度は以下の通り、11月と令和7年3月の2回、それぞれ当館学芸課の職員2名を派遣し文化財レスキュー作業にあたった。

(1回目)

- ・日程：11月25日(月)～29日(金)
- ・参加者：学芸課 栗原祐斗・佐藤豪
- ・内容：輪島市内の寺院2か所でのレスキュー作業

(2回目)

- ・日程：令和7年3月11日(火)～15日(土)
- ・参加者：学芸課 平澤 慎・土屋祐貴
- ・内容：レスキューした文化財の一時収蔵場所(能登町内)での整理作業および輪島市内の個人宅2か所でのレスキュー作業

ウ. その他の災害発生時対応に伴う活動

令和7年1月29日に「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議が行われた。また、令和7年2月25日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が大熊町で開催された。この日は県内各地の事例報告や情報交換、および大熊町内の地区や個人等が所有する歴史・文化遺産を仮保管している旧

総合体育館（帰還困難区域内）や中間貯蔵施設等の巡見が行われた。

(2) ポリフォニックミュージアム

ア. 事業趣旨

これまで福島県立博物館が築いてきたネットワークを基盤に、創作活動(芸)や農業(農)、福祉(福)の専門的な知識や情報、経験を有するNPO等の団体と博物館とが協働し、それぞれの専門性や博物館資源を活かしたこどもの居場所づくりに取り組んだ。本事業を通して、家庭と園・学校以外に、こどもたちが地域社会や様々なコト・モノ・ヒトに出会える居場所をつくることで、不登校児など社会的に困難を抱えたこどもたちの課題解決に向き合い、こどもたちの可能性や創造性を育むことを目指した。

イ. 実施期間

令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

ウ. 助成

こども家庭庁 令和6年度こどもの居場所づくり支援体制強化事業費国庫補助金(NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業)

エ. 事業内容

こどもの居場所づくりに関わる大人がこどもたちの抱えている課題や、多様性に応じた場づくりについて学ぶ「大人が学ぶワークショップ」、大人がこどもの居場所づくりにアイデアを出し合う「大人ミーティング」、そこで出たアイデアをもとにこどもたちと活動する「こどもを対象とした博×芸×農×福ワークショップ」を、3つの柱として事業を行った。「大人が学ぶワークショップ」2回、「大人ミーティング」2回、「こどもを対象としたワークショップ」10回を実施。成果を記録集(800部)にまとめるとともに、第2回「大人が学ぶワークショップ 博物館×アーティストから生まれる場」は記録映像を編集し、Youtube当館公式チャンネルで公開した。

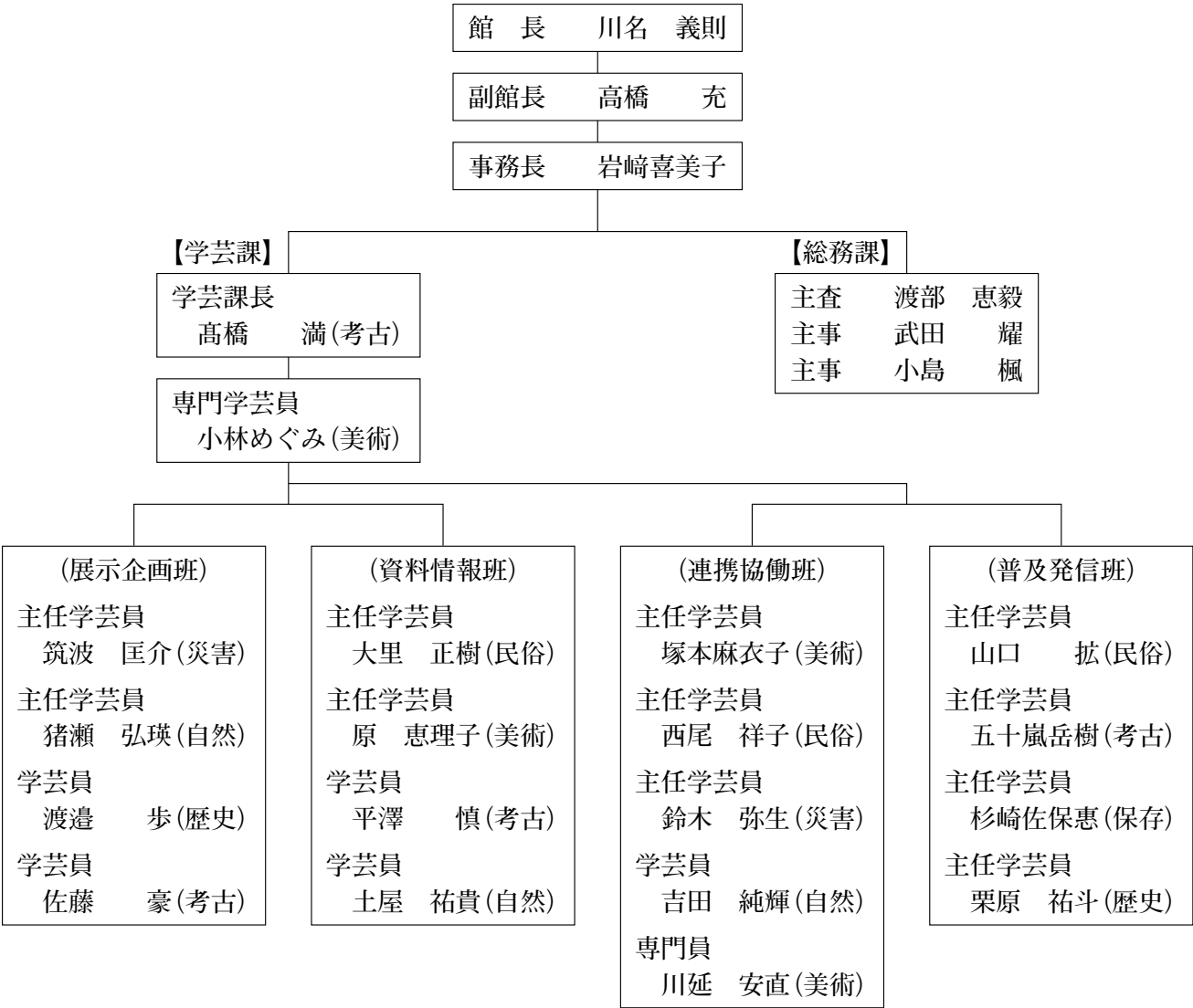
II 管理運営

1. 組織・職員

(令和6年4月1日現在)

管理運営

福島県立博物館の組織



会計年度任用職員等名簿

職 名	氏 名
展 示 解 説 員	渡部 知香
	岩崎 萌
	穴澤由美子
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生
	三浦 裕子
	湯田 守

職 名	氏 名
展 示 解 説 員	小原 由起
	山村 葵
	遠藤 彩楓
	金田 宏行
	田崎 里美
資 料 整 理 員	長澤 宏子
	小川 敦子
会計年度任用職員	鈴木ゆみ子

2. 予 算

令和6年度は、下表のとおり予算を執行した。

令和6年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				14,968
	使 用 料			14,968
		行政財産使用料		363
		教 育 使 用 料	建 物 使 用 料	363
			博 物 館 使 用 料	14,605
財 産 収 入				2,459
	財 産 売 払 収 入			2,459
		物 品 売 払 収 入		2,459
			自 動 車 売 払 代 金	11
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	2,448
諸 収 入				868
	雑 入			868
		雑 入		868
			雑 入	868
合 計				18,295

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
民 生 費				438
	児 童 福 祉 費			438
		児 童 福 祉 総 務 費		438
教 育 費			需 用 費	438
	教 育 総 務 費			441,779
		事 務 局 費		23,739
			報 酬	4,006
			職 員 手 当 等	1,398
			職 員 手 当 等 (児 童 手 当 等)	2,224
			共 済 費	1,680
			報 償 費	347
			旅 費	10
		財 務 管 理 費		27
			交 際 費	19,733
			委 託 料	16
			工 事 請 負 費	3,220
	社 会 教 育 費			16,497
		博 物 館 費		418,040
			報 酬	418,040
			職 員 手 当 等	23,903
			共 済 費	9,334
			報 償 費	3,718
			旅 費	1,466
			需 用 費	3,101
			需 用 費 (食 糧 費)	67,505
			役 務 費	3
			委 託 料	12,855
			使 用 料 及 び 賃 借 料	124,211
			工 事 請 負 費	2,085
			備 品 購 入 費	167,723
			負担金、補助及び交付金	2,008
			償還金、利子及び割引料	61
			公 課 費	1
合 計				69
				442,217

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏 名	役 職 名
学校教育	冠木 利香	会津若松市立大戸小学校長
	本田 知史	福島県立だて支援学校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館副館長(支配人)
	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
家庭教育	長沼 千恵	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
学識経験者	川口 立喜	公立大学法人会津大学企画推進本部 国際戦略室長・上級准教授
	四家 久央	いわき市文化財保護審議会委員 (合名会社四家酒造店代表社員)
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	書道家(「千葉清藍(ちば せいらん)」 の名で活動)
公募	町田 久次	(元新聞社社員・役員)

イ. 会 議

第1回 令和6年6月20日(木)

議題

- ① 令和5年度事業実績について
- ② 第3期中期目標の総括について
- ③ 第4期中期目標について
- ④ 令和6年度事業案について
- ⑤ 令和6年度当初予算について
- ⑥ 常設展総合展示室再開の見込みについて

第2回 令和7年2月19日(水)

議題

- ① 令和6年度事業報告について
- ② 令和7年度事業計画(案)について
- ③ 文化観光拠点施設機能強化事業(三の丸からプロジェクト)の成果と今後の展望について
- ④ 第4期中期目標の実績について
- ⑤ 今後の取組みについて
- ⑥ 観覧料の改定について

Ⅲ 利用状況

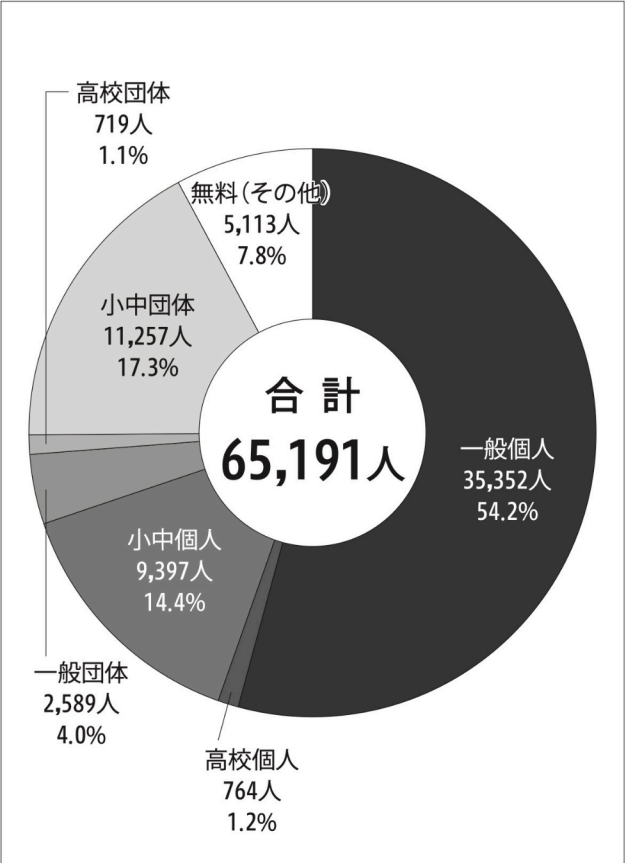
1. 入館者統計

(1) 令和6年度入館者統計

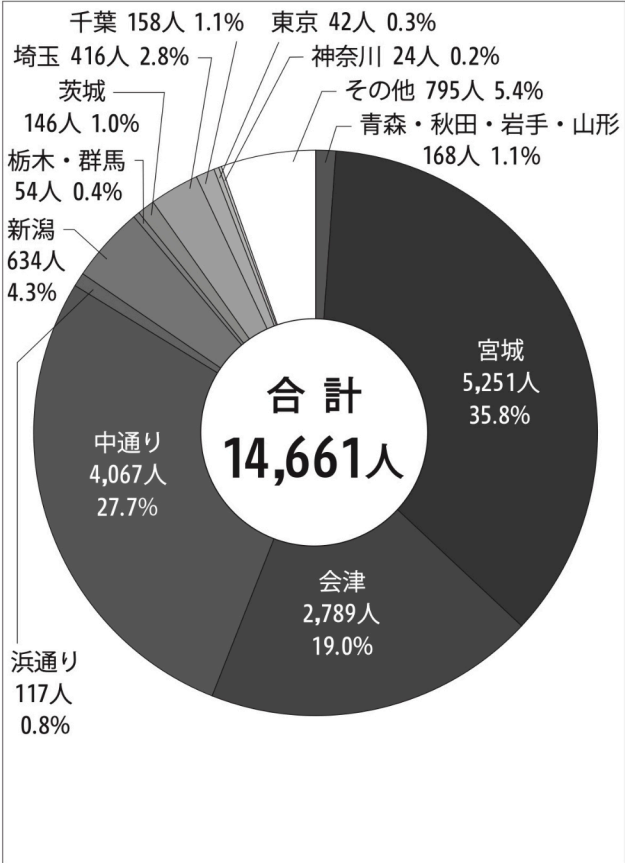
月別区分別入館者数

月別	常 設 展				企 画 展			合 計		構成比
	日数	有料	無 料		日数	有 料	無 料	日数	人 数	
		人 数	小中高校生	その他		人 数	人 数			
			人 数	人 数						
4	25	1,606	479	295	3	284	72	25	2,736	4.2%
5	27	2,886	2,010	894	27	2,199	1,464	27	9,453	14.5%
6	25	2,127	4,739	760	14	1,179	1,623	25	10,428	16.0%
7	26	2,655	1,754	594	22	2,000	1,151	26	8,154	12.5%
8	27	4,362	903	743	27	3,229	1,137	27	10,374	15.9%
9	25	2,353	3,637	846	9	754	476	25	8,066	12.4%
10	27	3,666	2,029	689	27	1,379	1,648	27	9,411	14.4%
11	26	2,262	800	730	26	1,411	1,034	26	6,237	9.6%
12	1	136	15	24	1	114	43	1	332	0.5%
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	209	22,053	16,366	5,575	156	12,549	8,648	209	65,191	100.0%

令和6年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

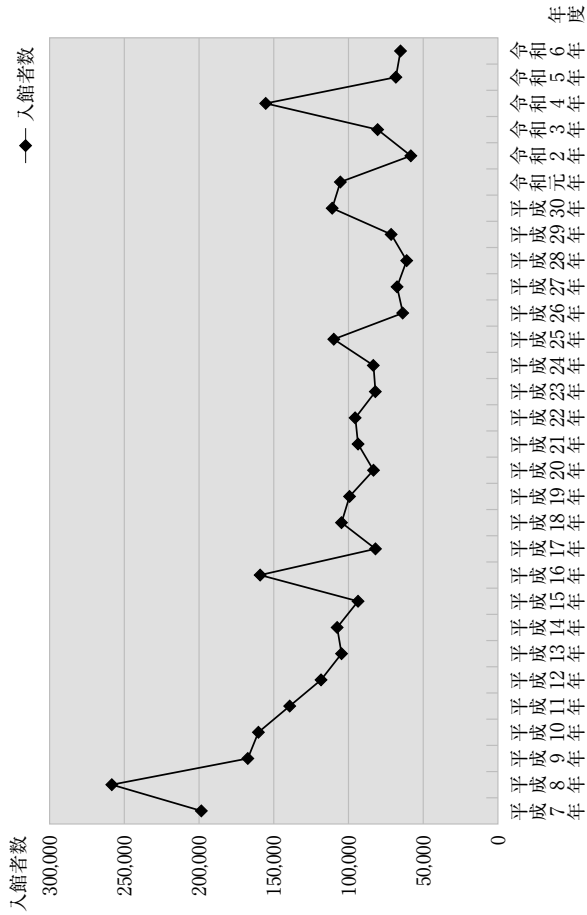
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
昭和61年																	
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	217,590	296	735	18,133	599,822
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459

利用状況

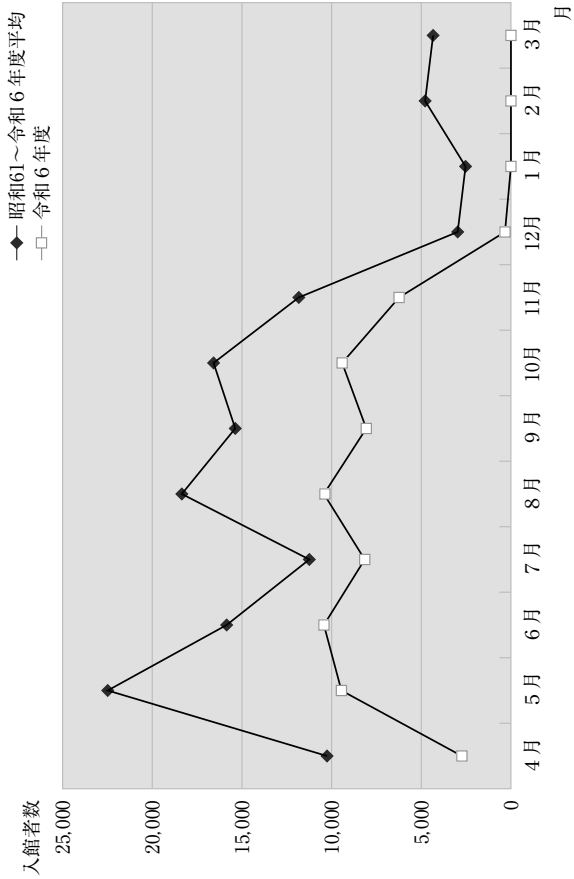
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827
2年	551	609	2,546	2,232	8,162	13,219	12,748	10,096	875	1,346	2,277	3,623	58,284	305	191	4,857	4,864,111
3年	2,593	2,028	5,931	10,272	15,619	12,337	10,916	11,155	3,248	1,292	2,601	2,515	80,507	304	265	6,709	4,944,618
4年	3,977	9,589	11,838	13,840	41,232	38,852	11,802	11,833	2,948	1,712	3,805	3,951	155,379	301	516	12,948	5,099,997
5年	3,294	7,933	12,154	5,247	6,390	9,289	5,799	5,490	1,989	2,114	3,595	5,000	68,294	294	232	5,691	5,168,291
6年	2,736	9,453	10,428	8,154	10,374	8,066	9,411	6,237	332	0	0	0	65,191	209	312	5,433	5,233,482
平均	10,252	22,484	15,851	11,243	18,352	15,373	16,581	11,827	2,970	2,530	4,786	4,340	136,591	295	459	11,444	

入館者数の推移グラフ（年度別月別）

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企 画 展 名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武 家 の 文 化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福 島 の ま つ り	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福 島 の 顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植 物 化 石 展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会 津 の 仏 像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸 奥 の 古 瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境 の 神 ・ 風 の 神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江 戸 時 代 の 流 通 路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東 国 の 埴 輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉾 物 の 世 界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄 文 の 四 季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町 の 成 立 と に ぎ わ い	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中 通 り の 仏 像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東 北 の 陶 磁 史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜 欧 堂 田 善 と そ の 系 譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太 古 の 生 き も の た ち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀 吉 ・ 氏 郷 ・ 政 宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日 本 の 音 色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シ ル ク ロ ー ド 紀 行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄 文 絵 巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜 通 り の 仏 像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふ く し ま 鉾 山 の あ ゆ み	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マ ン ガ 文 化 の 源 流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐 竜 の あ る い た 道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定 信 と 文 晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発 掘 ふ く し ま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明 治 は じ め て 物 語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲 と く ら し	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東 北 か ら の 弥 生 文 化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会 津 の 自 然 史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉 堂 と 春 琴 ・ 秋 琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げ ん き ・ 病 ・ 元 氣	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会 津 大 塚 山 古 墳 の 時 代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村 芝 居 の 世 界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探 検 貝 化 石 ワ ー ル ド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海 の ま く あ け	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福 島 1 0 0 0 年 時 の か た ち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	い に し え の 木 の 匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福 島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地 震 ・ 火 山 ・ 津 波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀 吉 と 桃 山 文 化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近 代 子 ど も の 世 界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄 文 た ん け ん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日 本 の 魚 学 ・ 水 産 学 事 始 め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染 め る	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠 澤 と 探 幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
10	戦 国 の 城	10. 4.18～10. 6.14	49日	8,731人	600人	19,452人	28,783人
	発 掘 ふ く し ま 2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天 の 絹 絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日 本 の 美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷 河 時 代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新 弥 生 紀 行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生 の 中 の 死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊 か な る 世 界 へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集 古 十 種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海 獣 パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英 雄 た ち の 系 譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安 積 良 斎 と 門 人 た ち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食 と 考 古 学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武 者 た ち が 通 る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化 石 芸 術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪 村 展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発 掘 ふ く し ま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《 笑 い 》 の 想 像 力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊 辰 戦 争 と い ま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふ く し ま の 工 芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老 い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬 と 人 と の 年 代 記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布 の 声 を き く	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹 と 竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝 の 山 2 0 0 8	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠 藤 香 山	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡 本 太 郎 の 博 物 館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千 少 庵 と 蒲 生 氏 郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森 に 生 き 山 に 遊 ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆 の チ カ ラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保 科 正 之 の 時 代	23.10. 8～23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小 さ な も の 集 ま れ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小 さ な も の 集 ま れ	24. 4. 1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐 竜 時 代 の ふ く し ま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会 津 の 寺 宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
25	八 重 の 桜	25. 4.17～25. 7. 3	46日	13,146人	130人	5,462人	875人	19,613人
	対 決 ! 恐 竜 展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考 古 学 か ら の 挑 戦	25.10. 5～25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東 北 - 風 土 ・ 人 ・ く ら し	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	ア イ ヌ の 工 芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	み ち の く の 観 音 さ ま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2～27. 6.21	44				5,992	5,992
	被 災 地 か ら の 考 古 学	27. 7.18～27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相 馬 中 村 藩 の 人 び と	27.10.10～27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23～28. 6.12	45	2,254	14	201	555	3,024
	計		45	2,254	14	201	555	3,024
29	自 然 を う つ す	29. 4.29～29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま 5 億年の自然史	29. 7.15～29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発 掘 ふ く し ま 4	29.10. 7～29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山 水 憧 憬	30. 1.13～30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠 の ふ る さ と 会 津	30. 4.28～30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美 し き 刃 た ち	30. 7.13～30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊 辰 戦 争 1 5 0 年	30. 9. 1～30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日 本 の わ ざ と 美	30.10.27～30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどきずなつながらるみらい	31. 4.27～元. 6. 9	38	1,138	44	2,920	608	4,710
	興 福 寺 と 会 津	元. 7. 6～元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あ に ま る ず	元. 9. 7～元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		140	40,575	742	8,736	4,576	54,629
2	ふ く し ま の 旅	2. 4.29～ 2. 6.28	38	1,031	14	85	201	1,331
	会津のSAMURI文化	2. 8. 1～ 2. 9.22	47	4,581	109	1,037	1,053	6,780
	発掘された日本列島2020	2.10.10～ 2.11.15	32	4,063	169	882	1,042	6,156
	震災遺産を考える	3. 1.16～ 3. 3.21	54	2,364	49	462	390	3,265
	計		171	12,039	341	2,466	2,686	17,532
3	会 津 の 絵 画	3. 4.24～ 3. 6.27	56	1,486	55	607	514	2,662
	あはひのクニ あやかしのクニ	3. 7.17～ 3. 9.26	63	11,784	362	3,281	2,058	17,485
	ふ く し ま 薬 の 文 化	3.10. 9～ 3.12.19	62	2,806	112	3,567	1,045	7,530
	計		181	16,076	529	7,455	3,617	27,677
4	ア ン モ ナ イ ト 合 戦	4. 4.23～ 4. 6.26	56	4,039	103	3,507	1,279	8,928
	新 選 組 展 2 0 2 2	4. 7.23～ 4. 9.19	51	36,920	0	4,158	2,595	43,673
	名 君 の 大 名 文 化 展	4.10. 7～ 4.12. 4	50	7,492	39	1,822	1,058	10,411
	写 真 展 東 北 福 島	5. 1.21～ 5. 3.19	49	1,853	32	691	457	3,033
	計		206	50,304	174	10,178	5,389	66,045
5	G o ! G o ! 5 世 紀	5. 4.29～ 5. 7. 2	55	2,914	66	2,332	723	6,035
	仕事の仕事をしている仕事	5. 7.15～ 5. 9.24	62	2,758	91	1,187	529	4,565
	伝える 災害の記憶	5.10. 7～ 5.12.17	61	1,747	137	638	356	2,878
	計		178	7,419	294	4,157	1,608	13,478
6	幕 末 明 治 の 浮 世 絵 百 年	6. 4.27～ 6. 6.16	44	3,662	64	2,330	765	6,821
	縄 文 D X	6. 7. 6～ 6. 9. 1	50	5,414	184	1,309	854	7,761
	ふ く し ま の 酒 造 り	6. 9.21～ 6.12. 1	62	3,473	399	1,485	1,258	6,615
	計		156	12,549	647	5,124	2,877	21,197

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書 籍 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	1	0	1	1	0	0	5	0	0	0	0	0	8	4,800
ふくしまの顔	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陸奥の古瓦	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱物の世界	400	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	5	2,000
縄文の四季	500	0	1	2	37	67	0	0	1	0	0	0	0	108	54,000
まちの成るとにぎわい	500	0	0	0	0	0	1	6	12	3	0	0	1	23	11,500
垂欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	3,000
太古の生きものたち	500	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
日本の音色	800	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,600
シルクロード紀行	1,000	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
縄文絵巻	800	0	1	4	3	13	1	0	2	0	0	0	0	24	19,200
浜通りの仏像	500	1	1	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	7	3,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1,600
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2,000
恐竜のあるいた道	500	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
定信と文晁	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
明治はじめて物語	500	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4	2,000
稲とくらし	800	0	0	0	0	1	2	16	0	0	0	0	0	19	15,200
稲とくらし	400	0	0	0	0	0	2	0	10	3	0	0	0	15	6,000
東北からの弥生文化	800	0	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	0	5	4,000
会津の自然史	800	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	3,200
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2,200
げんき・病・元気	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
村芝居の世界	900	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	900
探検貝化石ワールド	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海のまぐあけ	800	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	800
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いにしえの木匠	600	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	600
福島の山岳信仰	800	2	2	0	0	0	2	1	2	0	1	0	0	10	8,000
地震・火山・津波	500	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
近代子どもの世界	900	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1,800
縄文たんけん	900	0	0	1	22	41	4	0	0	0	0	0	0	68	61,200
日本の魚学・水産学始め	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染める	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遠澤と探幽	1,300	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2,600
天の絹絲	1,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本の美	800	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	2,400
水河時代	700	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,400
新弥生紀行	1,100	0	0	2	1	4	0	0	1	0	0	0	0	8	8,800
生の中の死	900	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4	3,600
豊かなる世界へ	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
集古十種	1,100	0	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	1	7	7,700
海獣パレオパラドキシア	600	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	600
英雄たちの系譜	500	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
食と考古学	500	3	1	2	28	55	5	0	2	0	0	0	0	96	48,000
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	0	2	0	0	4	5	7	0	0	0	0	18	16,200
武者たちが通る	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発掘ふくしま3	600	0	0	1	27	51	1	0	2	0	0	0	0	82	49,200
笑いの想像力	1,000	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1,000
老い	1,000	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,000
婚禮	800	0	0	1	0	0	1	6	5	0	0	0	0	13	10,400
婚禮	400	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	800
馬と人との年代記	800	0	0	1	1	1	0	0	5	0	0	0	0	8	6,400
布の声をきく	700	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,400
樹と竹	600	0	0	1	0	1	2	1	2	1	0	0	0	8	4,800
わくわく！化石大集合	400	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	800
遠藤香村	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
岡本太郎の博物館	500	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
千少庵と蒲生氏郷	250	3	0	1	0	1	1	261	1	0	0	0	0	268	67,000
漆のチカラ	400	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	800
保科正之の時代	500	1	1	4	2	1	4	20	3	0	0	0	0	36	18,000
恐竜時代のふくしま	300	1	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	7	2,100

書 籍 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
会 津 の 寺 宝	500	2	2	10	7	2	2	1	1	0	0	0	0	27	13,500
ハ 重 の 桜	1,000	4	1	2	3	2	2	1	3	0	0	0	0	18	18,000
対決！恐竜展ガイドブック	200	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	200
考 古 学 からの 挑 戦	500	0	1	1	32	59	4	0	2	0	0	0	0	99	49,500
ア イ ヌ の 工 芸	1,000	5	1	1	3	12	7	2	1	0	0	0	0	32	32,000
文 化 の 力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1,500
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
被災地からの考古学1	200	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	400
相馬中村藩の人びと	700	0	0	1	0	0	2	2	2	0	0	0	0	7	4,900
大須賀清光の屏風絵と番付	700	0	2	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	7	4,900
大須賀清光の屏風絵と番付	400	0	0	0	0	0	1	27	35	1	0	0	0	64	25,600
自 然 を う つ す	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふくしま5億年の自然史	600	0	0	0	2	2	3	0	1	0	0	0	0	8	4,800
発 掘 ふ く し ま 4	900	0	0	2	6	4	0	0	3	0	0	0	0	15	13,500
山 水 憧 憬	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
匠のふるさと会津	800	0	0	0	0	0	3	8	7	1	0	0	0	19	15,200
日本 の わ ざ と 美	2,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2,000
あ に ま る ず	500	0	1	0	33	34	0	0	0	0	0	0	0	68	34,000
ふ く し ま の 旅	800	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2,400
震災遺産を考える	800	0	1	0	3	0	2	0	0	0	0	1	0	7	5,600
会 津 の 絵 画	800	3	2	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	9	7,200
ふくしま 薫の文化	500	0	0	1	2	3	2	0	2	1	0	0	0	11	5,500
アンモナイト合戦	700	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	6	4,200
写真展 東北 福島	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G o ! G o ! 5 世 紀	1,000	6	2	3	7	17	1	6	10	1	0	0	0	53	53,000
仕事の仕事をしている仕事	1,500	4	2	3	0	1	0	0	1	0	0	0	1	12	18,000
伝える 災 害 の 記 憶	2,000	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	10,000
縄 文 D X	1,000	0	0	0	148	362	86	15	64	5	0	0	0	680	680,000
ふくしまの酒造り	1,000	0	0	0	0	0	35	189	305	31	0	0	1	561	561,000
幕末明治の浮世絵百年	2,000	17	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	200,000
文 化 の 力	1,500	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,500
ポケットミュージアム	1,000	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
博物館学習指導の手引き(小)	400	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	5	2,000
福 島 の 古 墳	600	1	4	2	4	8	6	3	3	0	0	0	0	31	18,600
図 説 戦 時 下 の 福 島	400	1	2	0	1	3	0	1	1	0	0	0	0	9	3,600
図 説 福 島 県 の 化 石	800	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	2,400
福 島 の 年 中 行 事	600	0	0	1	2	3	0	4	2	0	0	0	0	12	7,200
常 世 原 田 遺 跡	300	0	0	1	2	9	1	0	0	0	0	0	0	13	3,900
ふくしまの農具	500	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5	2,500
福島の仏像(仏像図説)	700	2	2	7	3	1	1	2	0	0	0	0	0	18	12,600
遠藤香村クリアファイル	200	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	600
絵 葉 書 (バ ラ 売 り)	50	0	0	2	0	4	3	13	0	0	0	0	0	22	1,100
絵 葉 書 (セ ッ ト)	300	1	0	0	1	2	0	1	0	1	0	0	0	6	1,800
一 筆 箋	350	1	2	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	9	3,150
齋藤清絵はがきセット	350	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1,750
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2,000
体 験 学 習 材 料	400	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	19	7,600
会津の絵画クリアファイル	200	1	0	1	1	3	7	1	8	0	0	0	0	22	4,400
会津の絵画一筆箋	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津の絵画絵はがき	50	2	0	2	1	0	0	0	15	0	0	0	0	20	1,000
酒造りクリアファイル	200	0	0	0	0	0	0	68	148	10	0	0	0	226	45,200
じみふかいセット	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勾 玉 セ ッ ト	200	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	600
文 化 の 力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ク リ ア ホ ル ダ ー	200	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	400
材 料 費 追 加	200	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1,800
G o ! G o ! 5 世 紀 野 帳	400	0	0	0	0	0	7	11	5	0	0	0	0	23	9,200
マ ス キ ン グ テ ー プ	400	3	1	1	7	20	6	0	1	0	0	0	0	39	15,600
勾玉・ガラス玉セット	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報 告 書		12	14	14	26	38	8	21	30	4	1	1	0	169	
報 告 書 (金 額)		9,000	8,700	9,100	18,300	27,800	4,300	11,000	14,900	2,200	1,300	800	0	107,400	
紀 要		13	5	1	5	3	1	9	10	4	1	2	0	54	
紀 要 (金 額)		8,800	3,000	700	3,000	1,500	1,000	6,300	5,700	3,000	700	1,600	0	35,300	
合 計		92	152	130	464	844	236	718	727	70	5	4	7	3,449	2,533,800

※割引販売等の関係で、単価×販売数と合計金額は一致しない。

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館として、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額 (一人当たり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間 内に利用する場合)	共通 観覧料の額
	個人	団体			
一般(大学生を含む。)	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額	220円
高校生及びこれに準ずる者	無料	無料	その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額	
中学生、小学生及びこれら に準ずる者	無料	無料	その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額	

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいい、「共通観覧料」とあるのは常設展の展示品及び規則で定めるものを併せて観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

附 則（平成9年条例第52号）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成11年条例第93号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成15年条例第53号）

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成25年条例第119号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成28年条例第53号）

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年条例第46号）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年条例第48号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和2年条例第25号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和5年条例第32号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

附 則（令和 5 年条例第33号）
この条例は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年 3 月25日 教育委員会規則第 5 号)

(休館日)

第 1 条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期的休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。
- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 3 1 月 1 日から同月 4 日まで
- 4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時30分から午後 5 時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第 3 条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第 1 号）を交付するものとする。

第 3 条の 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第 1 号の 2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して一年とする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

第 3 条の 3 条例別表備考 1 の規則で定めるものは、若松城天守閣及び会津若松市麟閣とする。

(観覧料の免除及びその手続)

第 4 条 館長は、条例第 5 条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第 2 条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第 3 号又は第 4 号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第 1 号又は第 2 号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の 3 日前まで、第 5 号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第 2 号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第 3 号）を交付するものとする。

(観覧料の返還)

第 5 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。）全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第 4 号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を一年に加算した期間を同項の有効期間とする。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)
福島県立博物館	福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）

(表)

年 間 観 覧 券

福島県立博物館

(裏)

(交付番号) (観覧者の区分)

(有 効 期 間)

御利用に際して

1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。

2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。

3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。

(氏 名)

(学 校 名) (学 年)

福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

年 月 日

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名

印

観 覧 料 免 除 申 請 書

次の理由により観覧料を免除してください。

観 覧 目 的				
観 覧 日 時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観 覧 者 の 種 別 及 び 人 数	一 般 人	その他()	()	人
	大 学 生			
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免 除 申 請 の 理 由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観 覧 料	免 除 率	免 除 金 額	免 除 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
第 年 月 日				
上記のとおり承認してほしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様
福島県立博物館長

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般 人	その他()		人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観 覧 料	免 除 率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
観覧料返還申請書

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称			
観覧料の納入月日	年 月 日		
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額
		人	円
	合 計		
返還を申請する理由			
連絡先及び電話番号	電話 ()		
観 覧 料	返 還 率	返 還 金 額	返 還 の 根 拠
※ 円	※	※ 円	※
上記のとおり返還してよろしい。			
館 長	副 館 長	総務課長	主 任
受 付 月 日	・ ・	決 裁 月 日	・ ・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

- 附 則（昭和63年教委規則第9号）
この規則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 附 則（平成3年教委規則第13号）
1 この規則は、公布の日から施行する。
2 この規則の施行の際現に作成されている改正前の規則に定める様式による用紙は、当分の間、使用することができる。
- 附 則（平成4年教委規則第14号）
この規則は、平成4年9月1日から施行する。
- 附 則（平成7年教委規則第15号）
この規則は、平成7年4月1日から施行する。
- 附 則（平成8年教委規則第16号）
この規則は、平成8年4月1日から施行する。
- 附 則（平成8年教委規則第20号）
この規則は、平成8年10月1日から施行する。
- 附 則（平成12年教委規則第16号）
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
- 附 則（平成14年教委規則第14号）
この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 附 則（平成15年教育委員会規則第3号）
この規則は、平成15年4月1日から施行する。
- 附 則（平成30年教育委員会規則第7号）
この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 附 則（令和2年教育委員会規則第8号）
この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 附 則（令和3年教育委員会規則第15号）
（施行期日）
1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
（経過措置）
2 この規則による改正前の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正前の規則等」という。）に規定する様式については、この規則の規定による改正後の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福

福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正後の規則等」という。）に規定する様式にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

- 3 この規則の施行の際現に改正前の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面は、それぞれ改正後の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面とみなす。

附 則（令和5年教育委員会規則第6号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

福島県立博物館組織規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号）

（目 的）

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（課）

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

（事業分掌）

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

（館 長）

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（副館長）

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

（課 長）

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

（学芸員等）

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事 務 長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。
主 任 主 査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副 主 査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専 門 員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

- 附 則
この規則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成6年教委規則第4号)
この規則は、平成6年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成13年教委規則第6号)
この規則は、平成13年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成14年教委規則第18号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成25年教委規則第8号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成25年教委規則第11号)
この規則は、公布の日から施行する。
- 附 則 (令和2年教委規則第5号)
この規則は、令和2年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

(昭和61年3月25日 福島県規則第11号)

福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号)第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

- 附 則
この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料(以下「資料」という。)の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織等)

- 第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。
- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長(以下「館長」という。)が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会 議)

- 第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。
- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

(展示計画作成委員)

- 第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員(以下「展示委員」という。)を選任する。
- 2 展示委員は次の任務を遂行する。

- (1) 展示計画原案の作成
- (2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集
- (3) 展示計画作成に関する専門的指導

(任 期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要綱

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書券の斡旋等の事業
- 5 その他本会の目的達成のために必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の目的に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
 - 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 本会が主催する事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

- | | |
|-------|---------------------------|
| 会 長 | 1 名 |
| 副 会 長 | 若干名 |
| 幹 事 長 | 1 名 |
| 会 計 | 2 名 |
| 幹 事 | 若干名（各サークルの代表者は、本会の幹事となる。） |
| 監 事 | 2 名 |

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員の選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者残任期間とする。

(役員の職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会 議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会および役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧 問)

第10条 本会は、顧問を置くことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(委員会)

第11条 本会の活動を円滑に進めるため、次の委員会を置き、各業務を行う。

- (1) 総務委員会 博物館との連絡調整に関すること
- (2) 会報編集委員会 会報の編集と発行に関すること

- (3) 研修旅行委員会 研修旅行の立案と実施に関する事
- (4) 行事広報委員会 各種行事の立案と本会及び博物館行事の広報に関する事
- (5) 会員募集委員会 会員の募集に関する事

(研修サークル)

第12条 本会の目的を達成するため、本会に研修サークルを組織することができる。

2 サークルの設立については、役員会の承認を得るものとする。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(表彰)

第14条 退任した役員のなかで、本会の目的推進のため功労のあった者を役員会において選考し、会長名で表彰する。

(事務局)

第15条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第16条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

細 則

第1条 規約第12条に基づく研修サークルを設立するにあたっては、次の要件を満たしていることを必要とする。

- (1) 研修サークルの構成員は本会の会員であること。
- (2) 研修サークルの性格・概要（名称・規約・会費・予算等）が明確にされていること。
- 2 研修サークルには、本会の予算の範囲内で活動費の一部を補助することができる。
- 3 会長は、各サークルの代表を幹事に推挙することができる。

第2条 規約第14条に基づく表彰に関する規定を次のとおり定める。

- (1) 表彰は、感謝状及び記念品の贈呈とする。
- (2) 表彰の基準は、下記の役員に4年以上あった者及び本会への貢献が顕著であった者とする。
会長 副会長 幹事 監事

(3) 表彰する時期は、退任した次年度の総会あるいは記念式典等の開催時とする。

第3条 本会には次の簿冊を備える。

会議記録簿 役員名簿 会計簿 会員名簿 提出書類控え簿

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条1項会計関係)。
- 11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	㈱佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 ㈱佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設㈱・会津土建㈱・秋山建設㈱共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機㈱・吉田電工㈱共同企業体 空調設備工事 福島県立博物館建設(空調設備)工事 新日本空調㈱・若松ガス工業㈱共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 ㈱富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 ㈱共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー㈱
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1 階 9,980.45㎡ 2 階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

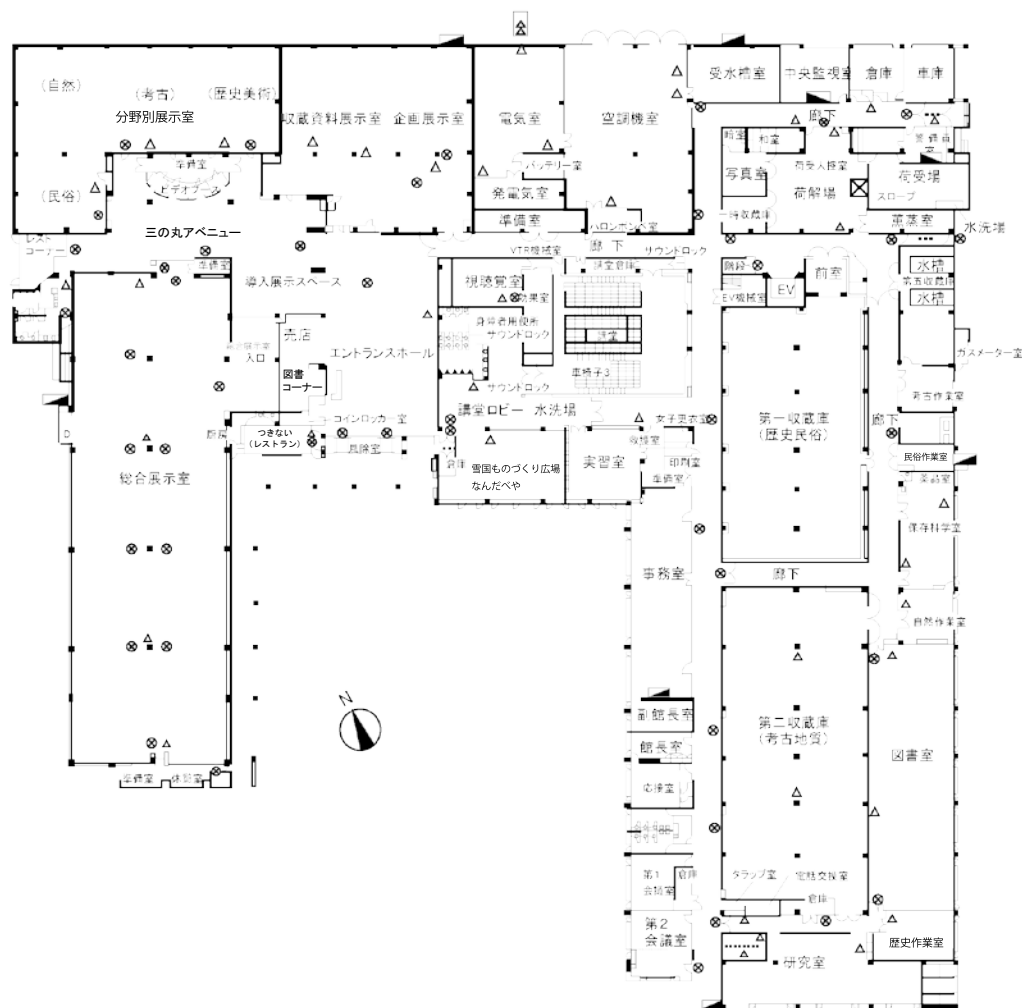
構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ (エントランスホール・展示ロビー)
内部仕上げ	床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板 工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

2. 設備

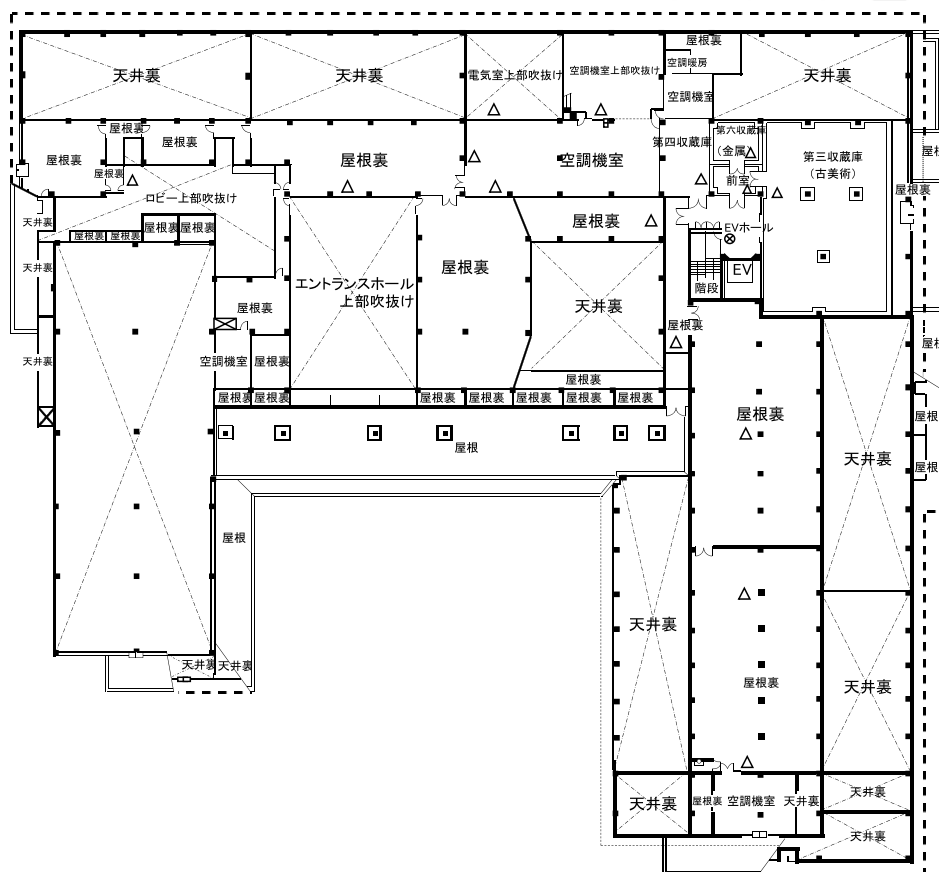
電気設備	昇降機設備	油圧式エレベーター定格荷重：3 t 1基 油圧式リフト 定格荷重：2 t 1基
1. 電気設備	融雪設備	ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。
受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA	監視設備	分散形総合監理制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。
2. 非常用電源	電話設備	電子交換外線3回線 内線64回線
発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル	火災報知設備	受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表示
3. その他	防犯設備	電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇所に設置し、監視制御システムと併用
電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備		
空調設備		
1. 空調方式		
各室ユニット型空調機 17系統ファンコイル ユニット方式		
2. 熱源設備		
ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット(120RT)		
衛生設備		
1. 給水		
市水道 受水槽：50?		
2. 消火設備		
(屋内) スプリンクラーとハロン消化設備の併用、(屋外) 野外消火栓		

3. 平面図・各室一覽

1 階平面図



2 階平面図



施設の概要

各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース2,294.8 (㎡)			応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用 (1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース788.3 (㎡)					
研究室	238.4		機械スペース1,253.1 (㎡)		
自然作業室	37.6		空調機室1F	393.2	
保存科学室	77.2		空調機室2F	479.4	
考古作業室	72.3		電気室	132.5	
薬品庫	8.8		中央監視室	52.8	
図書室	300.0		発電気室	50.2	
歴史作業室	54.0		バッテリー室	14.4	
展示スペース693.1 (㎡)			受水槽室	66.7	
総合展示室	1,536.9		ハロンボンベ室	31.7	
部門展示室	585.8		E V 機械室	17.1	
企画展示室	484.1		電話交換機室	6.3	
収蔵資料展示室	208.3		V T R 機械室	8.8	
教育普及スペース693.1 (㎡)			サービス・共用スペース2,507.54 (㎡)		
講堂	257.8		エントランス・ホール	461.1	
講堂倉庫	15.0		レストラン	83.7	厨房含む
体験学習室	173.5		売店・図書コーナー	73.3	ロッカー含む
視聴覚室	65.6		便所(展示)	32.6	
効果室	32.1		便所(中央)	68.8	
実習室	128.3		便所(展示)	31.3	
実習準備室	20.8		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
管理スペース719.5 (㎡)					
事務室	166.1		レストコーナー	40.3	
館長室	45.6		その他	1,202.64	
副館長室	31.5		計	11,071.44	

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10. 31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9. 3. 19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13. 1. 9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12. 16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16. 1. 8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12. 17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17. 3. 18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10. 4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3. 17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3. 17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3. 23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3. 23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3. 19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3. 24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12. 25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22. 2. 26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3. 29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23. 4. 25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23. 4. 22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4. 25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11. 24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10. 15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～H29. 3. 10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～H29. 12. 27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～H30. 12. 14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～H30. 9. 27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～H30. 11. 1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2. 1. 9）
令和 2年11月11日	非常放送設備更新工事（～3. 3. 5）
令和 2年11月17日	点字ブロック改修工事（～3.3.30）
令和 3年 9月 1日	空調自動制御機器更新工事（～4. 3. 30）
令和 3年 9月15日	構内情報通信網設備工事（～3. 11. 16）
令和 3年11月24日	防火扉修繕工事（～4. 3. 4）
令和 3年11月 2日	キャッシュレス決済用LAN配線工事（～3. 12. 1）
令和 4年 6月10日	構内情報通信網設備工事（～4. 7. 26）
令和 4年 6月10日	体験学習室整備工事（～4. 7. 7）
令和 5年 2月16日	民俗部門展示室電気設備工事（～5. 3. 23）
令和 5年 3月 1日	レストラン照明設備工事（～5. 3. 28）
令和 5年 3月10日	駐車場区画線修繕（～5. 3. 30）
令和 5年 7月14日	ボイラー設備修繕（～5. 12. 22）
令和 5年 7月21日	受変電設備高圧保護継電器修繕（～6. 2. 27）
令和 6年 2月 7日	自動ドア修繕（～6. 3. 14）
令和 6年 7月26日	排煙窓改修工事（～7. 2. 21）
令和 6年10月 1日	トイレ改修工事（建築・電気・機械）（～7. 3. 31）
令和 6年10月 8日	総合展示室系統空調送風機インバータ交換（～7. 3. 28）

令和 6年11月20日	子育て応援駐車場区画線修繕（～6. 12. 16）
令和 7年 1月15日	消防設備修繕（煙感知器、ガス漏れ検知器、消火器、誘導灯外）（～7. 3. 31）
令和 7年 3月26日	ハロン消火設備更新工事（～7. 10. 31）

5. 沿 革

《開館にいたるまで》

昭和52年 5月13日	文化を考える県民会議の設置
6～ 8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年 1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年 2月 2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日	文化施設等整備基金条例制定
4月 1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年 4月 1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年 1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年 2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年 7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年 6月 8日	建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月 7日	県立博物館建築工事着工（～61. 3. 25）
7月10日	展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）
7月13日	展示工事着工（～61. 9. 10）
昭和61年 3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61. 4. 1施行）
3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月 1日	展示解説員19名採用
10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年 8月21日	入館者50万人達成
平成元年 3月10日	友の会設立
平成 2年10月 7日	入館者100万人達成
平成 4年 3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成 5年 4月 1日	展示解説員22名となる
平成 7年 5月 5日	入館者200万人達成
平成 8年10月 5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年10月15日	入館者300万人達成
平成13年 1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年 3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年 3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
3月31日	高橋富雄館長退任

4月 1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任
平成16年 4月 8日	前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成17年 5月 6日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成18年 9月29日	入館者350万人達成
平成19年 7月	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年 7月21日	福島県立博物館の使命を策定し公表
平成20年 7月19日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
平成22年 6月26日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成23年 3月11日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ—ふくしまの森林文化—」を開催
平成24年 5月15日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成25年 5月17日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
11月27日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
平成27年 5月 2日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成28年10月15日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季—福島県立美術館名品展—」を共催
平成29年 3月26日	博物館開館30周年記念式典を開催
令和元年10月12日	開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
令和 2年 3月19日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
3月31日	令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
4月21日	赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
11月18日	赤坂憲雄館長退任
	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため5月16日まで臨時休館
	当館と共同申請者が策定、申請した「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」が文化庁より認定を受ける。
令和 4年 8月31日	「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を開始する。
令和 5年 4月 8日	入館者500万人達成
4月15日	分野別展示室「民俗」リニューアルオープン
令和 6年 2月22日	福島県立博物館常設展・鶴ヶ城・茶屋隣閣の3施設共通観覧券販売開始
	総合展示室の排煙設備不具合のため3月1日まで展示室の観覧休止
	3月2日以降総合展示室以外の展示室等の観覧を再開
	4月13日 三の丸アベニューオープン
	6月18日 改正博物館法下での登録博物館の指定
12月 2日	トイレ改修工事のため全館休館（3月31日まで）

VI 利用案内

(令和6年4月1日現在)

● 開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎12月2日～3月31日はトイレ改修工事のため休館
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

● 観覧料

- ◎常設展 （ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生280円（220円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）
一般・大学生2,000円
- ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。
- ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料。
また障がい者の障害者手帳等の等級に関わらず、介護者1名が無料。
- ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。
- ★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日(子供の日)／8月21日(県民の日)／9月16日(敬老の日)／11月3日(文化の日)

● 交通案内



◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

- 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。
- 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第39号

令和7年9月26日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。





福島県立博物館